

鹿児島大学農学部

農場年報

令和5年度
第19号

*Annual Report of the Experimental Farm,
Faculty of Agriculture, Kagoshima University
No. 19, 2023*

鹿児島大学農学部附属農場

*Experimental Farm, Faculty of Agriculture,
Kagoshima University*

目 次

I 概 要	2
1 沿革	2
2 施設の所在地と特色	2
3 組織	3
4 土地及び建物	5
5 農機具、車両及び備品	6
II 農場運営	9
1 総務事項	9
2 会計事項	15
3 各種会議及び委員会	17
4 入来牧場における牛白血病ウイルス（BLV）清浄化の進捗状況	20
III 教育活動	21
1 農場実習	21
2 講義	33
IV 研究活動	35
1 研究課題	35
2 研究成果	37
3 研究助成	40
4 学会等活動	40
5 遺伝資源の保存	40
V 地域社会への貢献	56
1 農業技術の啓発	56
2 地域活動に対する支援	58
3 食育と環境教育の取り組み	59
4 施設の公開	59
5 生産物の販売	59
VI 業務事項	60
1 農場生産物の収入見込み額及び実績	60
2 施設ごとの生産概況及び収入実績	60
3 農場を利用した研究用生産物の収入実績	70
VII 資 料	71
1 農場規則	71
2 実習教育に関する要項	73
3 気象表	75

I 概 要

1 沿 革

鹿児島大学農学部附属農場は、明治41年（1908）、勅令第68号によって創設された鹿児島高等農林学校の実験実習農場として設置された。その後、大正元年に種子島牧場、大正5年（1916）に唐湊果樹園、大正7年（1918）に指宿植物試験場が相次いで設置され、現在の陣容がほぼ整備された。昭和24年（1949）、法律第150号国立学校設置法により鹿児島大学農学部附属農場となり、昭和43年（1968）には種子島牧場が入来町に移転し、入来牧場と改称されるなど幾多の変遷を経て現在に至っている。主な出来事は年譜に示したとおりである。

当場は、農場本部と学内農場農事部、学内農場畜産部、唐湊果樹園、指宿植物試験場及び入来牧場の5付帯施設からなる分散型農場であり、それぞれの立地する地域の特性を活かし、特色ある教育・研究を教員、技術職員、事務職員一体となって推進している施設である。農場実習は、機能の異なる5付帯施設において、畜産、果樹、普通作物、野菜、花卉、観葉植物及び熱帯作物といった農業のほぼ全分野にわたって実施されている。また、果樹、熱帯植物、花卉、家畜の遺伝資源収集を行っている。さらに、農業技術の指導及び公開講座等を介して地域農業発展に取り組んでいる。

<年譜>

明治41年3月(1908) 勅令第68号により鹿児島高等農林学校が創設され実験実習農場設置
 大正元年11月(1912) 附属農場種子島牧場設置
 大正5年7月(1916) 附属農場唐湊果樹園設置
 大正7年10月(1918) 附属農場指宿植物試験場設置
 昭和19年4月(1944) 鹿児島農林専門学校附属農場と改称
 昭和21年2月(1946) 附属農場伊佐総合実験場設置
 昭和24年5月(1949) 法律第150号国立学校設置法により鹿児島大学農学部附属農場設置
 昭和31年3月(1956) 附属農場伊佐総合実験場廃止
 昭和43年3月(1968) 附属農場種子島牧場廃止
 昭和43年4月(1968) 附属農場種子島牧場を薩摩郡入来町に移転し、附属農場入来牧場と改称
 昭和46年4月(1971) 附属農場事務長制設置
 昭和51年7月(1976) 附属農場指宿植物試験場研究宿泊棟竣工
 昭和56年1月(1981) 附属農場研究実習棟竣工
 昭和56年9月(1981) 唐湊果樹園研究実習棟竣工
 昭和56年3月(1981) 附属農場動物飼育棟竣工
 平成10年9月(1998) 附属農場の将来構想を策定
 平成10年10月(1998) 教官併任及び農場実習等検討委員会設置
 平成11年4月(1999) 農場事務長制廃止及び附属農場事務の農学部事務部への一元化
 平成19年4月(2007) 施設主任制から植物・動物部門主任制へ変更、技術総括ポストの新設、実習教育委員会の設置と兼任教員制の導入（附属農場規則の改正及び実習教育に関する要項の制定）
 平成20年7月(2008) 附属農場事務の総務係及び業務係が事務係へ統合
 平成24年4月(2012) 共同獣医学部の設置に伴い、農学部農場事務係が農学部・共同獣医学部等総務課農場事務係に名称変更
 平成28年4月(2016) 学部を「農業生産科学科」・「食料生命科学科」・「農林環境科学科」に改組し、附属農場の実習カリキュラムを変更

2 施設の所在地と特色

1) 農場本部：〒890-0065 鹿児島市郡元一丁目21番24号

農場の管理運営と企画調整を担当する専任教員組織（主事、植物部門主任及び動物部門主任）ならびに農場運営（総務、会計、生産物販売等）を担当する事務部で構成された部門である。

2) 学内農場農事部：〒890-0065 鹿児島市郡元一丁目21番24号

大学構内にある。約3haの用地の中に、水田、畑地、施設ハウスを備え、水稻、畑作物、野菜及び花卉を中心とした実習教育と研究を行っている。

3) 学内農場畜産部：〒890-0065 鹿児島市郡元一丁目21番24号

大学構内にある。ブタ、ヤギ、ニワトリを飼育する動物飼育棟を中心に、実習教育と研究を行っている。

4) 唐湊果樹園：〒890-0081 鹿児島市唐湊三丁目32番1号

大学キャンパスの西南部2kmに位置した傾斜地に設置された果樹専門の施設である。約7haの用地にカンキツ、ビワなどの常緑果樹、モモ、カキ、ブルーベリー、ブドウ、クリ、スモモ、ウメなどの落葉果樹が栽植され、それらを対象とした実習教育と研究を行っている。また、果樹の遺伝資源施設として国内有数の規模を有している。

5) 指宿植物試験場：〒891-0402 指宿市十町1291

指宿市に設置されている施設(約3ha)である。温暖な気候と温泉熱利用を活かした熱帯・亜熱帯性の作物、野菜、果樹、観賞植物など対象とした実習教育と研究を行っている。また、熱帯・亜熱帯性植物の遺伝資源施設として国内有数の規模を有している。

6) 入来牧場：〒895-1402 薩摩川内市入来町浦之名字大谷4018-3

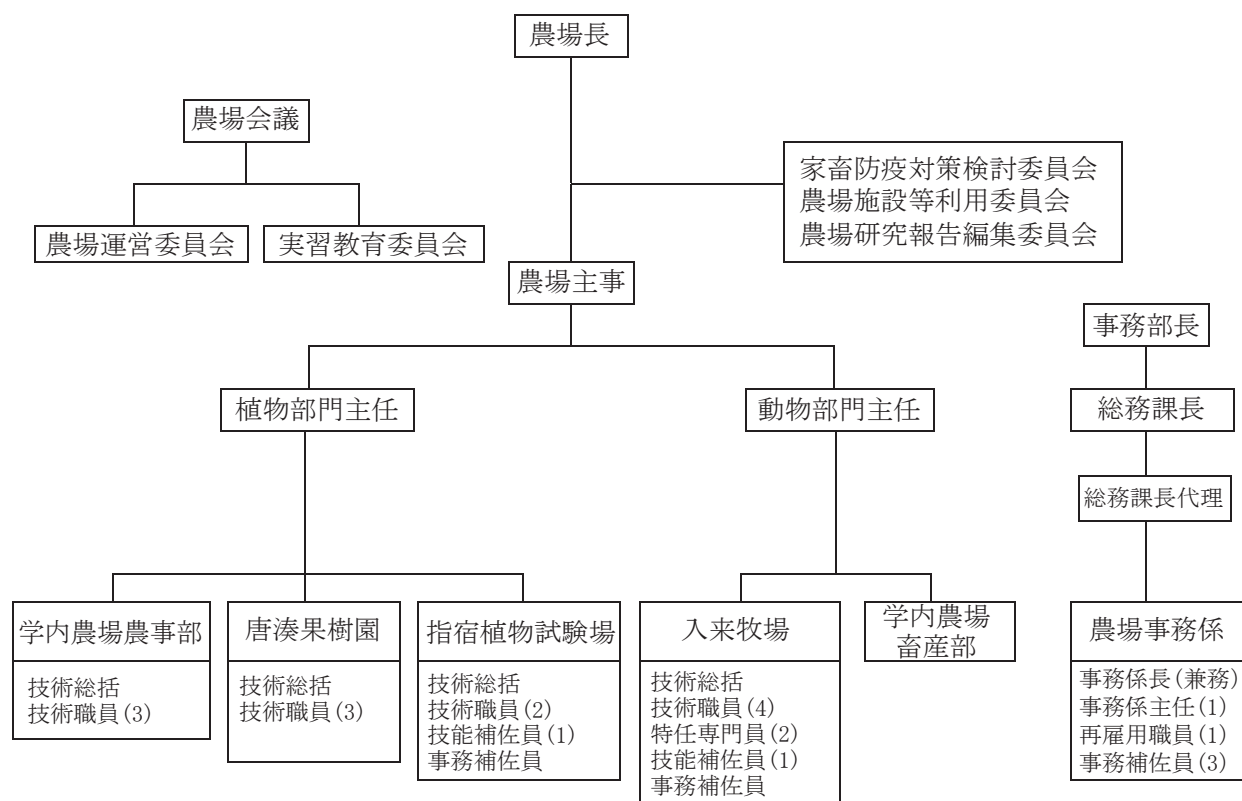
薩摩川内市と鹿児島市の境に位置する八重山の頂上近くに設置された牧場である。総面積147haの敷地で主に黒毛和牛が飼育されている。また、口之島野生化牛やトカラ馬も飼養され、遺伝資源の保存も行っている。入来牧場ではそれらを対象とした実習教育及び研究を行っている。

3 組 織

平成19年4月から農場実習の充実と高度化を図るために、実習教育体制と農場運営組織の再編を行った。実習教育に関しては、学理と実習の統合した実習教育を推進するため、施設主任制から兼任教員制に改めるとともに、兼任教員による「実習教育委員会」を新たに設置した。また、家畜飼養に関する衛生管理を強化するために「家畜防疫対策検討委員会」を設置した。

農場の運営組織としては、施設主任制から部門主任制に移行するとともに、部門主任を農場本部付きとした。また、各施設の技術職員組織に技術総括ポストを新たに設けた。

1) 組織図 (令和5年4月1日現在)



2) 職員配置

農場長（兼任）、主事、植物部門主任（学内農場農事部、唐湊果樹園、指宿植物試験場担当）及び動物部門主任（入来牧場、学内農場畜産部担当）が配置され、学内畜産部を除いた各施設には、技術総括が1名と技術職員が配置されている。技術職員は技術総括を含め、農事部4名、唐湊果樹園4名、指宿植物試験場3名、入来牧場5名で、総勢16名である。なお、指宿植物試験場には技能補佐員1名、入来牧場には特任専門員が2名、技能補佐員1名が配置されている。また、事務職員は事務係長（兼務）、係員2名（うち再雇用1名）、事務補佐員は5名の配置となっている。

第1表 職員配置及び人数（令和5年4月1日現在）

区 分	教授	准教授	技術総括	技術職員	特任専門員	技能補佐員	事務職員	事務補佐員
農場長	[1]							
農場本部								
農場主事	1							
植物部門主任		1						
動物部門主任		1						
学内農場農事部			1	3				
学内農場畜産部								
唐湊果樹園			1	3				
指宿植物試験場			1	2		1		1
入来牧場			1	4	2	1		1
事務部							3 (1)	3
合 計	1[1]	2	4	12	2	2	3 (1)	5

[] は兼任、() は兼務

3) 職員名簿（令和5年4月1日現在）

農場長（兼任）	准教授	高山 耕二
主 事	教 授	遠城 道雄
植物部門主任	准教授	朴 炳宰
動物部門主任	准教授	大島 一郎
(学内農場農事部)		
植物部門主任	准教授	朴 炳宰
技術総括	技術専門員	野村 哲也
	技術専門職員	濱田 延枝
	技術専門職員	田浦 一成
	技術職員	吉留 史佳
(学内農場畜産部)		
動物部門主任	准教授	大島 一郎
(唐湊果樹園)		
植物部門主任	准教授	朴 炳宰
技術総括	技術専門職員	福留 弘康
	技術専門職員	廣瀬 潤
	技術職員	西澤 優
技術職員		兒玉 真紀
(指宿植物試験場)		
植物部門主任	准教授	朴 炳宰
技術総括	技術専門職員	谷村 音樹
	技術専門職員	松元 里志
	技術専門職員	勘米良祥多
	技能補佐員	田島 和久
	事務補佐員	川畑みさと（農場事務係）
(入来牧場)		
動物部門主任	准教授	大島 一郎
技術総括	技術専門職員	富永 輝

I 概 要

技術専門職員	石井 大介
技術職員	飯盛 葵
技術職員	有働 穰嗣
技術職員	日高 裕希
特任専門員	関 綾子
特任専門員	殿谷比和子
技能補佐員	山崎 哲志
事務補佐員	河野 恵（農場事務係）
（農学部・共同獣医学部等総務課）	
農場事務係	係長（兼務） 新野 博樹（農・獣医学部等総務課長代理）
	主任 松下 岳
	再雇用職員 濱村 浩紀
	事務補佐員 園田真由美
	事務補佐員 持田 暁子
	事務補佐員 田尻 永恵

4 土地及び建物

農場の所有する土地及び建物の面積を第2表と第3表に示した。

第2表 施設毎の土地面積

単位：㎡

区 分	学内農場農事部	唐湊果樹園	指宿植物試験場	入来牧場	計
水田	13,960	0	0	0	13,960
畑（含む採草地）	6,706	6,850	10,436	980,000	1,003,992
果樹園	0	42,608	3,994	0	46,602
放牧地	0	0	0	448,440	448,440
温室	600	396	1,550	0	2,546
ビニールハウス	282	3,485	5,350	0	9,152
建物敷地その他	10,442	19,343	9,394	50,011	89,155
合 計	31,990	72,682	30,724	1,478,451	1,613,847

第3表 施設毎の建物面積

<本部・学内農場農事部・畜産部>

<唐湊果樹園>

単位：㎡

建物名称	構 造	面 積	建物名称	構 造	面 積
研究実習棟	R2	881	研究実習棟	R2	808
堆肥舎	R1	91	温室	S1	204
動物飼育棟	S1	678	燃料庫	B1	4
管理棟	R2	160	硬質ハウス	S1	192
リサイクル場・資源有機物	S1	77			
農機具庫	S1	38			
合 計		1,925	合 計		1,208

<指宿植物試験場>

<入来牧場>

単位：㎡

建物名称	構 造	面 積	建物名称	構 造	面 積
研究棟・宿泊施設	R3	821	管理棟	R2	659
収納庫	w1	93	畜舎棟	R2	1,910
倉庫	w1	40	燃料庫	B1	12
農具庫・倉庫	B1	119	肥育牛舎	S1	1,500
便所	R1	15	堆肥舎	S1	320
植物温室	S1	137	牛舎	S1	672
果樹温室	S1	208	農機具庫	S1	298
花卉温室	S1	312	醗酵堆肥置場	S1	160
蔬菜温室	S1	330			
植物温室	S1	210			
合 計		2,285	合 計		5,531

5 農機具、車両及び備品

農場で現有している農機具と車両の一覧表を第4表に、備品を第5表に示した。本年度に新規購入した農機具及び車両は第7表に示した。

第4表 施設毎の農機具及び車両

施設名	農機具名及び車両	メーカー・型式	用途	購入年月
学内農場農事部	普通乗用車	トヨタ PROBOXV PX	乗用	H19. 6
	トラクター	ヤンマー US-36	農耕用	H11.12
	乗用田植機	ヤンマー PE-IX,S	〃	H16. 6
	耕耘機	ヤンマー	〃	H 2. 3
	〃	ヤンマー YA70FA	〃	H 8. 7
	脱穀機	ヤンマー YAPKA6DE	〃	H 2.10
	トラクター	ヤンマー FX215	〃	S63. 9
	籾すり機	ロータリーハラ RHS400A	〃	H10.10
	籾摺精米機	細川製作所 MR1901E	〃	H29. 2
	ヘイベアラ	スター THB1050	〃	H 9. 3
	運搬車	ヤンマー VP8GD	〃	H 9. 9
	〃	ヤンマー FG190SD,4WD	〃	H29. 3
	タマネギ移植機	ヤンマー PM2-D24	〃	H17.11
	コンバイン	ヤンマー GC323VXJ	〃	H18. 3
	ポット土入機	スズテック STK-37PS	〃	H19. 3
	ロータリー	ヤンマー RB15SG	〃	H20. 4
	〃	ニプロ CX18100S・CX10-STA	〃	H20.10
	1輪管理機	ヤンマー SK65	〃	H21. 2
	軽トラック	ダイハツ 農用スペシャル 4WD	〃	H21. 2
	トラクター	ヤンマー FE122・VUKS4G	〃	H22. 2
	ハウス用ヒートポンプ	イーズ社 SPW-AGCHVP180EN	〃	H24. 3
	運搬車	ヤンマー FG183SD4WD	〃	H10. 3
	製粉・粉碎機	ひかり号A2型	〃	H24.11
	電動ふるい機	國光社 SN-K 型	〃	H27. 3
	自走二面畦草刈機	オーレック WM736B	〃	H29. 2
	動力噴霧器	共立 VSC361A	〃	H29. 2
	色選機	山本 CLX153DFM	〃	R 3. 3
	トラクター	ヤンマー YT233A	〃	R 3. 9
	ウイングハロー	ニプロ WBZ2800	〃	R 3. 9
	ブルモア	オーレック HRC664	〃	R 3.11
	乾燥機	山本 HD-14UP7	〃	R 4. 2
	脱粒機	ヤンマー PBT611	〃	R 4. 2
	電動マルチリモコン作業機 スマモ	ササキ RS400-M2	〃	R 5. 3
	ぐっぴーバズーカ			
	シングルタイプ	KBHP-GP112-S2	〃	R 5. 3
	養液ユニット			
	らくらく肥料管理機3	スーパーローリータンク500L 含む	〃	R 5. 3
	ヤンマー乗用田植機 YR4J,Z	ガソリンエンジン12.9PS 高速4条植え ロータリー式	〃	R 6. 2
	ヤンマークローラ運搬車 MC130LD,X	ガソリンエンジン6.3PS 油圧リフト・ダンプ	〃	R 6. 2
唐湊果樹園	貨物自動車	いすゞダンプ PB-NKR81AN	輸送用	H16.11
	ミニ油圧ショベル	コマツ PC25-1	土木用	H 8. 3
	トラクター	ヤンマー KE40ASZ	農耕用	H10. 3
	ブレンドキャスター	タカキタ BS-521SSY	〃	H13. 2
	スプレイヤー	共立 SSV553F/EP	〃	H25. 3
	運搬車	ヤンマー MCG1500 LD	〃	H15. 3
	〃	筑水 ELS670-KCDP	〃	H19. 1

I 概 要

	ク	ヤンマー FG185SD B-4	ク	H21. 3
	歩行型ハンマーナイフ	オーレック HR661A	ク	H12. 1
	歩行型草刈機（モア）	オーレック BM91	ク	H25. 6
	畦草刈機	共立 AZ851	ク	H29. 2
	乗用モア	共立 RM981/K	ク	H26. 8
	スプレイヤー	共立 SSV553F/EPA	ク	R 4. 2
	運搬車	ヤンマー FG190SD-V4WD	ク	R 4. 2
	草刈ディスクカッター	アースマシ KM20	ク	R 3.11
	ラジコン草刈機	クボタ ARC-501	ク	R 5. 3
	ヒートポンプ	別置型 BZ ツイン KBHP-GP180-T2	ク	R 5. 3
	ぐっぴーバズーカ			
	ロボット草刈機ロボモア	MR301-H	ク	R 6. 3
指宿植物試験場	軽自動車	スズキ エブリイ HBD-DA17V	乗 用	H28.12
	普通貨物自動車	マツダ タイタンダッシュ	輸送用	H17.12
	運搬車	イセキ SL375DSE	農耕用	H 8. 2
	ク 2台	イセキ SL380DSE	ク	H 9. 3
	ク ク	イセキ AM61L	ク	H18. 3
	マルチロータリー	イセキ RAY1207	ク	H18. 3
	スキッドステアローダー	TCM	ク	H18. 3
	トラクター	イセキ TH193Q・ARH143S	ク	H22. 3
	乗用型ロータリーモア	ヤンマー SRM1010VH	ク	H 9. 6
	掘取機	ニプロ D65-AH	ク	H27. 1
	動力噴霧器	共立 VSC457F-10	ク	R 2. 3
	ミニショベル	HITACHI ZX10U-2	ク	R 4. 1
	管理機	キセキ KSX650CW	ク	R 4. 3
入 来 牧 場	貨物自動車	トヨタダイナ KK-XZU421	輸送用	H12. 9
	ク	トヨタダイナ KK-XZU400A	ク	H16. 2
	普通乗用車	トヨタ PROBOX VPX	ク	H19. 3
	軽トラック	ダイハツ ハイゼット EBD-S510P-TMRF	ク	H27. 9
	トラクター	ジョンディア JD-6200DPMMSGH	農耕用	H12. 3
	ク	ジョンディア JD-6410	ク	H13. 2
	ク	ジョンディア JD-6215	ク	H15. 8
	マニアスプレッダー	ジョンディア JD-4	ク	H 7. 3
	ロールベアラー	ジョンディア JD-570	ク	H12.10
	フロントローダー	ジョンディア JD-851PC	ク	H15. 8
	ジャイロレーキ	ヤンマー GRY6501H	ク	H18. 3
	ジャイロテッダー	ヤンマー GTY6400H	ク	H20. 3
	バーチカルハロー	スガノ DC230SP	ク	H19. 3
	トラクター	イセキ T5095DGLCY22	ク	H19. 3
	ディスクハロー	レムケン社 8/300R	ク	H23. 9
	ミートチョッパー卓上	長沼製作所 NCS-22	ク	H26. 1
	カッター	長沼製作所 NHY-20	ク	H26. 1
	油圧スタッファー	長沼製作所 EM-30	ク	H26. 1
	ロールベアラー	McHale F5400	ク	H26. 9
	マニユアスプレッダ	タカキタ LD8800	ク	H27. 3
	ディスクモア	フェラー SM270P	ク	H28. 5
	ブームスプレーヤ	(株)やまびこ BSM511R/E	ク	H29. 3
	ホイルローダー	ヤンマー V5-1-90-E	ク	H29.12
		(リース期間 H25.12～ H29.11月)		
	ホイルローダー	ヤンマー V5-7	ク	R 3. 3
	ラウンドベールハンドラー	McHale R5	ク	R 3. 3
	トラクター	JD-6090M	ク	R 3.12
	ケンブリッジローラー	CR450	ク	R 3.11
	高圧洗浄機（2台）	丸山 MKW1413H	ク	R 3. 2

第5表 施設毎の備品

施設名	物 品 名	規 格	用 途	購入年月	取得価額
主事研究室	プラント・キャノピーアナライザー	メイワフォーシス LAI-2000	解析装置	H20.11	1,872,570
学内農事部	食味分析計	P S -500型	測定装置	H15. 3	1,134,000
学内農事部	ビニールハウス ファインミスト	制御盤、送水ユニット、ファインノズル28個等含む	制御装置	R 4.12	1,650,000
学内農事部	HouseNAVI ADANCE モニタリングユニット	ビニールハウス 収納ボックス 制御盤等含む	制御装置	R 4.12	2,200,000
学内農事部	農業用水管理システム	4号水田、7水田、8号水田	制御装置	R 6. 3	1,336,720
学内畜産部	超音波診断装置	SON-TITAN-A	診断装置	H18. 3	2,100,000
唐湊果樹園	枝葉木粉碎機	セツア S R E 110	粉碎機	H15. 3	893,550
入来牧場	臨床化学自動分析装置	スポットケム EZSP-4430	分析装置	H18. 4	1,050,000
入来牧場	パーソナルマルチガスインキュベータ	アステック APM-30D	診療装置	H20. 9	577,500
入来牧場	鹿児島大学飼育牛画像解析システム		分析装置	R 5. 2	14,499,045
入来牧場	実験用流し台 (W1500× D750× H800)	LVFE-WH-1500	実験器具	R 6. 3	536,534

Ⅱ 農場運営

1 総務事項

1) 人事異動

2023. 4. 1 採用
吉留 史佳：学内農場農事部技術職員
異動
新野 博樹：農場事務係長兼務（農・獣医学部等総務課課長代理）
濱村 浩紀：農場事務係再雇用職員
- 2023.12. 1 配置換
西澤 優：農学部附属農場助教（農場主任）
- 2023.12.31 辞職
園田真由美：農学部・共同獣医学部等総務課農場事務係事務補佐員
2024. 2.29 辞職
川畑みさと：農学部・共同獣医学部等総務課農場事務係事務補佐員
2024. 3.31 定年退職
遠城 道雄：農学部附属農場主事

2) 技術職員研修

農場実習の高度化及び充実を図るためには、技術職員の資質向上が不可欠である。農場では技術職員の資質向上を最重要課題と位置づけて、以下のような各種の研修を実施した。

(1) 農業機械士応用研修（けん引免許取得）

時 期：令和5年11月17日
場 所：鹿児島市
研修者：入来牧場 飯盛 葵技術専門職員

(2) 車両系建設機械（整地・運搬・積込み用及び掘削用）運転技能講習

時 期：令和6年2月2日
場 所：鹿児島市
研修者：入来牧場 殿谷 比和子特任専門員

(3) 伐木等業務（チェーンソー等）特別教育講習

時 期：令和6年2月16日
場 所：鹿児島市
研修者：唐湊果樹園 兒玉 真紀技術職員

(4)刈払機取り扱い作業安全衛生教育の講習

時 期：令和6年2月20日
場 所：鹿児島市
研修者：学内農場農事部 吉留 史佳技術職員

3) 農場施設の利用

農場では、学外・内を問わず広く施設の利用を受け入れている

(1) 学外

(学内農場農事部)

- ・鹿児島大学教育学部附属小学校 120名
時期：令和5年4月7日～21日
内容：田んぼや畑にいる生き物と触れ合う活動を通して、季節の特徴的な事物や現象に気づき、季節感を養う
- ・鹿児島県保険医協会 19名
時期：令和5年4月23日
内容：施設見学
- ・鹿児島市立中州小学校 71名
時期：令和5年5月1日
内容：春の草花や生き物を探し、身近にどのような生き物がいるか調べる

- ・鹿児島大学教育学部附属小学校 120名
時期：令和5年5月1日～5月22日
内容：田んぼや畑にいる生き物と触れ合う活動を通して、季節の特徴的な事物や現象に気づき、季節感を養う
- ・さつつん保育園 32名
時期：令和5年5月10日
内容：夏野菜の苗植え
- ・鹿児島大学教育学部附属小学校 125名
時期：令和5年5月29日
内容：身の回り（大学）にいる生き物が何をしているのか、自分が生き物とどうかかわっているかなど、しっかりと捉え、パスを使って、思いのままにのびのびと絵に表すため、散歩する
- ・鹿児島大学教育学部附属小学校 120名
時期：令和5年6月15日～6月30日
内容：田んぼや畑にいる生き物と触れ合う活動を通して、季節の特徴的な事物や現象に気づき、季節感を養う
- ・さつつん保育園 10名
時期：令和5年6月22日
内容：どろんこ遊びの体験
- ・鹿児島大学教育学部附属幼稚園 39名
時期：令和5年6月22日
内容：どろんこ遊びの体験
- ・鹿児島大学教育学部附属幼稚園 39名
時期：令和5年7月7日
内容：田植えの体験
- ・鹿児島大学教育学部附属幼稚園 31名
時期：令和5年8月3日
内容：昆虫の採集をしたり、イネの生育の様子を観察する
- ・鹿児島大学教育学部附属幼稚園 32名
時期：令和5年8月10日
内容：昆虫の採集をしたり、イネの生育の様子を観察する
- ・鹿児島大学教育学部附属小学校 120名
時期：令和5年8月24日～9月8日
内容：田んぼや畑にいる生き物と触れ合う活動を通して、季節の特徴的な事物や現象に気づき、季節感を養う
- ・鹿児島大学教育学部附属幼稚園 22名
時期：令和5年9月8日
内容：かかし作りをしたり、イネの生育の様子を観察する
- ・さつつん保育園 24名
時期：令和5年10月16日
内容：芋ほり体験
- ・鹿児島大学教育学部附属小学校 120名
時期：令和5年10月17日～11月2日
内容：田んぼや畑にいる生き物と触れ合う活動を通して、季節の特徴的な事物や現象に気づき、季節感を養う
- ・めぐみ幼稚園 61名
時期：令和5年10月18日
内容：芋ほり体験、散策
- ・鹿児島大学教育学部附属幼稚園 62名
時期：令和5年10月19日
内容：稲刈りをして、収穫体験を味わう
- ・鹿児島大学教育学部附属中学校 5名
時期：令和5年10月24日、25日
内容：職場体験学習を通して、職種ごとの内容を知るとともに、働くことの意義や勤労の尊さを実感させる
- ・アメリカ合衆国 4名
時期：令和5年11月6日
内容：有機農業と慣行農業に関する意見交換及び施設園芸の視察

Ⅱ 農場運営

- ・鹿児島大学教育学部附属幼稚園 21名
時期：令和5年11月9日
内容：脱穀の様子を見て、収穫体験を味わう
 - ・株式会社ミルボード 9名
時期：令和5年11月15日
内容：テレビ用インサート素材の撮影
 - ・鹿児島県立鶴翔高等学校 5名
時期：令和5年12月7日
内容：草花部門の学習内容をより深めるための視察研修
 - ・鹿児島大教育学部附属小学校 120名
時期：令和6年1月15日～1月31日
内容：田んぼや畑にいる生き物と触れ合う活動を通して、季節の特徴的な事物や現象に気づき、季節感を養う
 - ・鹿児島大教育学部附属小学校 120名
時期：令和6年3月11日～3月22日
内容：田んぼや畑にいる生き物と触れ合う活動を通して、季節の特徴的な事物や現象に気づき、季節感を養う
- (動物飼育棟 (学内畜産部))
- 該当なし
- (唐湊果樹園)
- ・江崎グリコ株式会社 3名
時期：令和5年4月7日
内容：アーモンド園場の見学及びアーモンドの栽培や果実品質についての意見交換
 - ・宮崎大学農学部 3名
時期：令和5年4月26日
内容：カンキツの開花調査
 - ・岐阜県立岐阜農林高等学校教諭 1名
時期：令和5年7月14日
内容：アボカド園場の見学
 - ・鹿児島大学教育学部附属中学校 4名
時期：令和5年10月24日、25日
内容：職場体験学習を通して、職種ごとの内容を知るとともに、働くことの意義や勤労の尊さを実感させる。
 - ・鹿児島大学教育学部附属幼稚園 40名
時期：令和5年11月6日
内容：ミカン狩り体験
 - ・アイグラン保育園 26名
時期：令和5年11月13日
内容：ミカン狩り体験
 - ・ニチレイフーズ・千葉大学園芸部 2名
時期：令和5年12月25日
内容：アセロラに関する研究打合せ
- (指宿植物試験場)
- ・江崎グリコ株式会社 3名
時期：令和5年4月7日
内容：温室栽培園場の見学
 - ・鹿児島気象台 3名
時期：令和5年5月24日
内容：アメダス気象計定期点検等
 - ・合同会社上田熱帯果樹研究所 1名
時期：令和5年7月6日
内容：植物見学
 - ・玉川大学農学部附属農場 2名
時期：令和5年7月13日
内容：熱帯果樹（マンゴー等）の栽培状況の見学

- ・前園植物園 3名
時期：令和5年8月1日
内容：露地植えライチの結実状況の見学及び栽培方法の検討
 - ・東京都立農芸高等学校 2名
時期：令和5年8月7日
内容：試験場の見学
 - ・合同会社上田熱帯果樹研究所 1名
時期：令和5年8月8日
内容：植物見学
 - ・玉川大学農学部附属農場 2名
時期：令和5年10月4日
内容：マンゴー剪定後の生育の様子、コーヒー露地植え苗の見学
 - ・一般市民 1名
時期：令和5年10月18日,23日
内容：グァバ栽培見学
 - ・一般市民 1名
時期：令和5年10月26日
内容：アテモヤ苗・スターフルーツ栽培相談
 - ・ヒマワリ（株） 2名
時期：令和5年11月7日
内容：グァバ栽培見学
 - ・東京都小笠原亜熱帯農業センター 2名
時期：令和5年11月21日
内容：亜熱帯植物の栽培状況の調査
 - ・中国・雲南農業大学 17名
時期：令和5年12月6日
内容：農業研修・見学
 - ・ニチレイフーズ・千葉大学園芸学部 2名
時期：令和5年12月26日
内容：アセロラに関する研究打ち合わせ及び栽培状況調査
 - ・指宿市立指宿商業高等学校 4名
時期：令和6年2月6日～8日
内容：職場体験学習
 - ・ニチレイフーズ・千葉大学園芸学部 2名
時期：令和6年2月19日,21日
内容：アセロラの交雑実生の樹姿調査
- (入来牧場)
- ・東亜薬品工業株式会社 4名
時期：令和5年5月31日
内容：黒毛和種の飼養管理の見学
 - ・第47回全国高等学校総合文化祭 鹿児島県実行委員会 48名
時期：令和5年7月30日
内容：2023かごしま総文自然科学部門 巡検研修の為
 - ・鹿児島県教育委員会（中高生インターンシップ事業）鹿児島県中高生6名
時期：令和5年8月1日～2日
内容：入来牧場における黒毛和種の飼養管理、草地管理など肉牛生産の基礎事項を体験することを通して、将来の社会参画への意義を体験的に自覚させ、学習意欲の向上を図る
 - ・和歌山県立粉河高等学校教諭 1名
時期：令和5年8月17日
内容：高等学校理科教育における、生物の授業実践のため見聞を広めるため
 - ・麻布大学獣医学部獣医学科 27名
時期：令和5年8月28日～9月1日

- 内容：包括連携協定による牧場実習参加のため
- ・鹿児島大学生協同組合 5名
時期：令和5年9月7日
内容：入来フェアの実施に伴う入来牧場体験
 - ・一般市民（輸出食肉業務従事者） 1名
時期：令和5年9月19日
内容：食肉の生産現場に興味があり、牧場内の管理等を見学し今後の業務の参考にするため
 - ・(株)川北電工 5名
時期：令和5年10月3日、4日
内容：管理等横に設置しているソフトバンク携帯基地局工事（機器設置）のため
 - ・(株)川北電工・NTT 4名
時期：令和5年10月24日、27日
内容：管理等横に設置しているソフトバンク携帯基地局改修工事のため
 - ・(株)九電ハイテック 2名
時期：令和5年11月21日
内容：牧場内の送電鉄塔の支柱材の中に腐食箇所が確認されたため、超音波測定装置により腐食の進行及び残存強度確認のための点検実施
 - ・喜界町役場 4名
時期：令和5年11月24日
内容：トカラ馬導入に関する協議及び視察
 - ・葦崎高校 40名
時期：令和5年12月8日
内容：葦崎高校のスーパーサイエンスハイスクール事業の一環として、入来牧場内に設置されている1m光赤外線望遠鏡を見学する
 - ・鹿児島県立市来農芸高等学校 18名
時期：令和5年12月8日
内容：専門学習への興味・関心を高め、就農や農業関連の進学、就職などについて考える機会としての視察研修
 - ・(株)九電ハイテック 7名
時期：令和5年12月18日、19日
内容：牧場内の送電鉄塔の設備巡視のため
 - ・研究会参加者 25名
時期：令和5年12月21日
内容：1m光赤外線望遠鏡視察のため
 - ・放課後施設等デイサービス事業所 オリーブキッズ薬師 25名
時期：令和5年12月26日
内容：動物と触れ合う機会を持つための見学
 - ・(株)川北電工 2名
時期：令和6年2月2日
内容：管理等横に設置のソフトバンク携帯基地局の機器調整のため
 - ・一般市民 3名
時期：令和6年3月2日
内容：畜産に興味があり、食育と将来の職業選択のため見聞を広げるため
 - ・ふくおか県酪農業協同組合久留米支所 11名
時期：令和6年3月5日
内容：和牛繁殖牛の飼養管理等の視察・研修
 - ・NPO 法人大牟田・荒尾炭鉱のまちファンクラブ 1名
時期：令和6年3月29日
内容：日本在来馬（トカラ馬）の調査のため

(2) 学内

(学内農場)

令和5年度

- 4月20日 5期開講の「水土実験」において、畑地における水の浸透具合の調査（14名）
 5月19日～12月31日 流域内水循環の把握と予測のデータ収集（3名）
 5月24日～7月31日 水田土壌中の還元力の調査（1名）
 8月2日 学内農事部水田におけるスマート農業関連給排水弁の使用説明（6名）
 11月14日 研究のため無農薬水田の土壌採取（1名）
 11月30日～令和6年3月1日 研究のため無農薬水田の土壌採取（1名）

（動物飼育棟（学内畜産部））

該当なし

（唐湊果樹園）

- 4月10日 アナグマ生態調査のセンサーカメラの回収（2名）
 4月17日～28日 野生動物自動撮影カメラ調査（1名）
 5月1日～29日 野生動物自動撮影カメラ調査（2名）
 5月8日～8月31日 アーモンドや他の果実のDNA解析と生育特性の調査（2名）
 5月12日 昆虫採集（3名）
 5月24日 昆虫相調査（夜間採集）（5名）
 5月26日 樹木実習の準備作業（3名）
 6月2日 樹木の観察及び腊葉標本にするための枝葉の採種を実施（3名）
 6月5日～26日 野生動物自動撮影カメラ調査（2～9名）
 7月3日～25日 野生動物自動撮影カメラ調査（2名）
 7月21日 樹木の観察及び腊葉標本にするための枝葉の採種を実施（3名）
 8月1日 野生動物自動撮影カメラ調査（2名）
 8月8日、22日 野生動物自動撮影カメラ調査（2名）
 9月5日、19日 野生動物自動撮影カメラ調査（2名）
 10月5日、19日 野生動物自動撮影カメラ調査（2名）
 10月18日、25日 昆虫採集のためのトラップ設置と回収（1名）
 11月14日、29日 野生動物自動撮影カメラ調査（2名）
 11月27日 害鳥の行動観察カメラ設置（1名）
 12月12日、26日 野生動物自動撮影カメラ調査（1名）
 12月5日～26日 害鳥の行動観察カメラ設置（1名）

令和6年

- 1月9日、23日 野生動物自動撮影カメラ調査（2名）
 1月10日～31日 害鳥の行動観察カメラ設置（1名）
 2月6日、20日 野生動物自動撮影カメラ調査（1名）

（指宿植物試験場）

- 4月27日～28日 マンゴー鉢植个体を使って、環境ストレスがマンゴーの花芽分化に及ぼす調査のため（1名）
 4月29日 遺伝資源保存用のヤマイモ及びウコンの定植（7名）
 6月6日 遺伝資源保存用ヤマイモ及びウコンの管理作業（6名）
 7月18日 遺伝資源保存用ヤマイモの支柱立てと除草作業（4名）
 10月25日～26日 マンゴー鉢植个体を使って、環境ストレスがマンゴーの花芽分化に及ぼす調査のため（1名）
 11月20日～21日 マンゴー鉢植个体を使って、環境ストレスがマンゴーの花芽分化に及ぼす調査のため（1名）
 11月25日 遺伝資源保存用ヤマイモ及びウコンの収穫・調査（7名）
 12月13日～14日 マンゴー鉢植个体を使って、環境ストレスがマンゴーの花芽分化に及ぼす調査のため（1名）

（入来牧場）

- 4月6日、20日 野生動物自動撮影カメラ調査・見回り（2名）
 4月7日 黒毛和種の毛根サンプル採材（4名）
 4月19日 口之島野生化牛の毛根サンプルの採材（4名）
 5月2日、18日 野生動物自動撮影カメラ調査・見回り（2名）
 6月1日、15日、29日 野生動物自動撮影カメラ調査・見回り（2名）
 7月13日、26日 野生動物自動撮影カメラ調査・見回り（2名）
 7月14日 共同獣医学部の入来牧場現状把握見学

Ⅱ 農場運営

8月10日, 24日	野生動物自動撮影カメラ調査・見回り (2名)
9月7日, 21日	野生動物自動撮影カメラ調査・見回り (2名)
10月18日	毛根と鼻腔粘膜試料のサンプリング (4名)
10月27日	理学部物理学科3年「天体観測実習」の一環として、鹿児島大学1m光赤外線望遠鏡施設の見学を行うため (22名)
11月2日, 16日, 30日	野生動物自動撮影カメラ調査・見回り (1名)
11月13日	毛根と鼻腔粘膜試料のサンプリング (4名)
12月14日, 28日	野生動物自動撮影カメラ調査・見回り (1名)
12月21日	5頭の毛根のサンプリング (4名)
令和6年	
1月11日, 25日	野生動物自動撮影カメラ調査・見回り (1名)
2月7日, 22日	野生動物自動撮影カメラ調査・見回り (1名)

4) 刊行物

鹿児島大学農学部農場年報, 第18号 (2024.3) (Web 配信)
鹿児島大学農学部農場研究報告, 第45号 (2024.3)

5) 行事

7月7日 学内農場農事部お田植え祭

※本年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、以下行事の開催を見送った。

展示即売会
入来牧場牧神祭
唐湊果樹園収穫祭

6) 令和5年度全国大学附属農場協議会

(1) 春季協議会

日 時: 令和5年5月18日
場 所: 一橋大学一橋講堂 (東京都)
参加者: 高山農場長, 朴植物部門主任

(2) 秋季協議会

日 時: 令和5年11月1日～11月2日
場 所: 沖縄県市町村自治会館 (沖縄県那覇市)
参加者: 大島動物部門主任, 福留技術専門職員, 石井技術専門職員

(3) 九州地域協議会及び技術職員教育・研究発表会 (メール審議)

日 時: 令和5年7月20日～9月8日

2 会計事項

1) 予算および決算

令和5年度の農場予算及び決算は、第6表のとおりである。予算額93,630,000円に対し、決算額95,096,000円となり1,466,000円の不足額が生じた。

第6表 令和5年度予算および決算

(単位: 円)

施設名	当初配分額	追加配分額 および振替額	予算額	決算額	差引過不足額
農場実習経費	0	0	0	0	0
農場実習支援経費	24,941,000	8,968,000	33,909,000	34,887,000	△978,000
農場運営経費	48,000,000	11,721,000	59,721,000	60,209,000	△488,000
主事	0	0	0	0	0
植物部門主任	0	0	0	0	0
動物部門主任	0	0	0	0	0

合 計	72,941,000	20,689,000	93,630,000	95,096,000	△1,466,000
-----	------------	------------	------------	------------	------------

2) 機械、設備および備品

本年度は、施設ごとの機械、備品を中心に、第7表に示すように総額6,029,933円の予算を充当した。

第7表 令和5年度機械設備等の整備（50万円以上 予算：自己収入、補助金、運営費交付金）

機械設備名	メーカー・規格	数量	金額（円）	施設名
トラクター	ヤンマー YT233A	1台	586,080	学内農事部
			(総額4,262,400 8年リース)	
マニアスプレッダ	デリカ DMB-1595WSS	1台	108,899	学内農事部
			(総1,524,599 7年リース)	
実験用流し台 (W1500× D750× H800)	LVFE-WH-1500	1台	536,534	入 来 牧 場
農業用水管理システム	4号水田、7号水田、8号水田	1台	1,336,720	学内農事部
ロボット草刈機 ロボモア	MR301-H	1台	1,564,200	唐湊果樹園
ヤンマー乗用田植機 YR4J,Z	ガソリンエンジン12.9PS 高速4条	1台	1,210,000	学内農事部
	植え ロータリー式			
ヤンマークローラ運搬車 MC130LD,X	ガソリンエンジン6.3PS 油圧リフト・ダンフ	1台	687,500	学内農事部
合 計			5,443,853	

3) 施設整備

(1) 学内農場農事部

作物生産に配慮した輪作体系を組み、最低でも5年間の間隔をあけるようローテーションを組んでいる。また、単作にならないよう緑肥などと組み合わせ、耕種的防除を行っている。

施設に関しては、耐用年数を超えたハウスや硬質プラスチックハウスが存在し、部分的な補修を行い使用しているが、今後全体的な改修が必要と思われる。水田の給水量が低下していたため、汲み上げポンプ基盤の改修工事と流量計のつまりの洗浄を行った。

(2) 唐湊果樹園

果樹園は敷地境界にフェンスを設置しているが、老朽化している箇所がみられることから、更新が必要である。また、敷地境界では、ゴミの投げ込みもみられることから対策もあわせて必要となる。

(3) 指宿植物試験場

ここ数年、施設の加温に利用している温泉量が減少傾向にあるため、一部の温室やハウスでは、従来の温度確保が難しくなってきた。一時的な現象かどうかを見極める必要があるが、平成20年度に導入された「省エネルギー型生産技術開発システム」に利用する温泉量も減少しており、今後、湯量の確保に向けた方策が必要になる。更に、倉庫や堆肥置き場などの老朽化や大雨時の浸水などへの対策、管理棟浴室の改修が望まれる。

今年度、老朽化により温泉など水漏れをしていた熱交換器を新しいものに交換できた。その結果、交換できた温室やビニールハウスの暖房効果の向上が期待できる。管理棟の浴室改修も今年度行い、男子浴室の改修のほか、職員室を今までなかった女子シャワー室として新設した。更に、浴室改修に伴い事務室の改修も行い、面積を拡大した事務室兼職員室の改修も完了した。

(4) 入来牧場

入来牧場管理棟は、竣工(1968)後、50年を経過し、壁面の亀裂、雨漏りなど、老朽化が著しい状況であった。平成20年度には、平成19年度から繰り越した農場経費と大学本部経費により、女性用トイレと風呂の新設及び職員室の改修を行ったものの、入来牧場管理棟2階部分(宿泊室、講義室)、1階部分(男子トイレ、風呂、食堂)及び外壁の改修が課題として残っていた。平成29年度概算要求により、平成30年度の入来牧場管理棟全面改修工事が決定し、令和元年度に全面改修が完了している。現場の畜舎に関しても竣工後約50年を経過し、学生教職員の安全確保の観点からも概算要求による改修を引き続き申請していた。概算要求により、令和5年度の入来牧場畜舎の解体及び新設工事が決定し、同年度に工事が完了している。

(5) 学内農場畜産部

動物飼育棟は築約35年を経過し、雨漏りが頻発していたため、これまで部分的な補修を繰り返してきた。しかし、部分的な補修では改善が見られないことから、平成23年度末に附属演習林から予算借入れを行い、屋根の全面補修を行った。その結果、雨漏りは止まったものの、建物本体の劣化及び排水などの問題は依然として残ったままである。

3 各種会議および委員会

農学部は平成28年度（2016年度）に改組を行い新体制がスタートした。改組は学年進行であるが新組織に適應させるよう本農場の各種会議及び委員会の構成員も変更を行った。

1) 農場会議

(1) 委員名簿（任期2年 2022年4月1日～2024年3月31日）

農場長（議長）	高山 耕二
農場主事	遠城 道雄
植物部門主任	朴 炳宰
動物部門主任	大島 一郎
応用植物科学コース	志水 勝好
応用植物科学コース	山本 雅史
応用植物科学コース	坂巻 祥孝
畜産科学コース	下桐 猛
食料農業経済学コース	李 哉沄
食料生命科学科	渡部 由香
農林環境科学科	神田 英司
総務課長	今辻 幸二

(2) 会議記録

第1回：令和5年4月12日（水）16時00分～16時40分

議題 1. 教員人事について

報告事項

1. 令和5年度農場関連会議等委員名簿について
2. 令和5年度全国大学附属農場協議会春季全国協議会について
3. 令和6年度実習内容の検討について
4. 令和5年4月1日付け技術職員の人事について
5. 令和6年度概算要求事項について

第2回：令和5年5月23日（水）～26日（水）

議題 1. 選考大要修正案について

第3回：令和5年7月6日（木）

議題 1. 令和4年度附属農場決算（案）について

2. 令和5年度附属農場予算（案）について

報告事項

1. 令和6年度農学部改組後の農場実習検討状況について
2. 第1回運営委員会について
3. 入来牧場における麻布大学実習生の受入について
4. 助教公募採用について

第4回：令和5年8月30日（水）

議題 1. 令和5年度後期農場実習（案）について

2. 令和5年度後期農場施設等利用計画（案）について

報告事項

1. 令和6年度農学部改組後の農場実習検討状況について
2. 助教公募採用について

第5回：令和5年11月17日（水）～11月22日（金）（メール会議）

議題 1. 農学部組織改正による規則等の改正について

第6回：令和6年1月9日（火）8時50分～9時50分

議題 1. 農場主事の選出について

2. 農学部、共同獣医学部の組織改組による規則等の改正について
3. 生産物の学外者への販売開始について
4. 入来牧場の特任専門員の採用計画について

報告事項

1. 令和6年度展示即売会について
2. 組織改組に伴う来年度の予算配分率について
3. 鹿児島大学農学部農場研究報告編集委員会内規について

第7回：令和6年3月6日（水）15時00分～16時00分

- 議題
1. 令和6年度前期農場実習Ⅱ（案）について
 2. 令和6年度夏季休暇の集中実習（案）について
 3. 令和6年度前期農場施設等利用計画（案）について
 4. 令和6年度農場関連会議等委員名簿（案）について

2) 農場運営委員会

(1) 委員名簿（任期2年 2022年4月1日～2024年3月31日）

農場長（委員長）	高山 耕二
農場主事	遠城 道雄
植物部門主任	朴 炳宰
動物部門主任	大島 一郎
兼担教員	下田代智英
兼担教員	香西 直子
兼担教員	高山 耕二
農事部技術総括	野村 哲也
唐湊果樹園技術総括	福留 弘康
指宿植物試験場技術総括	谷村 音樹
入来牧場技術総括	富永 輝
総務課長代理	新野 博樹（農場事務係長兼務）

(2) 委員会記録

第1回：令和5年6月26日（月）16時10分～16時45分

- 議題
1. 令和4年度附属農場決算（案）について
 2. 令和5年度附属農場予算（案）について

報告事項

1. 令和5年度全国大学附属農場協議会等の開催概要について
2. 令和5年度全国大学附属農場協議会秋季全国協議会について
3. 各施設報告
4. 令和6年度概算要求事項について

3) 農場実習教育委員会（任期なし）

(1) 委員名簿

農場長（委員長）	高山 耕二
農場主事	遠城 道雄
植物部門主任	朴 炳宰
動物部門主任	大島 一郎
農業生産科学科 応用植物科学コース	下田代智英
〃	坂上 潤一
〃	一谷 勝之
〃	志水 勝好
〃	山本 雅史
〃	香西 直子
〃	吉田理一郎
〃	清水 圭一

Ⅱ 農場運営

〃	坂巻 祥孝
食料農業経済学コース	李 哉洙
畜産科学コース	大久津昌治
〃	三好 和睦
〃	下桐 猛
〃	高山 耕二
〃	大塚 彰
〃	井尻 大地
農林環境科学科 地域環境システム学コース	末吉 武志
研究推進機構 遺伝子実験施設	田浦 悟

(2) 委員会記録

第1回：令和5年8月29日（月）14時30分～15時05分（Web会議）

議題 1. 令和5年度後期農場実習（案）について

報告事項

令和6年度農学部改組後の農場実習について

第2回：令和6年2月26日（月）16時00分～16時28分

議題 1. 令和6年度後期農場実習（案）について

令和6年度夏季休暇の集中実習（案）について

農場運営委員会の委員（3名）の選出について

報告事項

令和6年度農場実習教育委員会名簿（案）について

4) 附属農場施設等利用委員会

(1) 委員名簿（任期2年 2022年4月1日～2024年3月31日）

農場主事（委員長）	遠城 道雄
植物部門主任	朴 炳宰
動物部門主任	大島 一郎
応用植物科学コース	下田代智英
応用植物科学コース	一谷 勝之
応用植物科学コース	香西 直子
畜産科学コース	高山 耕二
食料生命科学科	樗木 直也
農林環境科学科	神田 英司

(2) 委員会記録

第1回：令和5年8月28日（月）

議題 1. 令和5年度後期施設等利用計画（案）について

報告事項

附属農場施設等利用に関する要項の改正について

令和6年度前期の施設利用申請について

令和6年度以降の動物飼育棟の利用について

第2回：令和6年2月16日（金）～2月21日（水）農場長室（メール審議との平行開催）

議題 1. 令和6年度前期施設等利用計画（案）について

報告事項

令和6年度附属農場施設等利用委員会名簿（案）について

5) 農場研究報告編集委員会（任期2年 2022年4月1日～2024年3月31日）

(1) 委員名簿

農場主事（委員長）	遠城 道雄
応用植物科学コース	山本 雅史
応用植物科学コース	下田代智英

畜産科学コース 下桐 猛
食環境制御科学コース 赤木 功

(2) 委員会記録

第1回：令和5年4月27日（木）15時00分～15時10分

議題 1. 「鹿児島大学農学部農場研究報告第45号」原稿の募集について
報告事項

鹿児島大学農学部農場研究報告第44号の発行について

第2回：令和5年11月1日（月）14時30分～14時55分

議題 1. 農場研究報告第45号受付原稿の査読者の選定について

6) 農場家畜防疫対策検討委員会（任期2年 2022年4月1日～2024年3月31日）

(1) 委員名簿

農場長（委員長）	高山 耕二
農業生産科学科畜産科学コース	三好 和睦
〃	大久津昌治
〃	高山 耕二
農場主事	遠城 道雄
植物部門主任	朴 炳宰
動物部門主任	大島 一郎
入来牧場技術総括	富永 輝
入来牧場管理獣医師	安藤 貴朗

(2) 委員会記録

（実施なし）

4 入来牧場における牛白血病ウイルス（BLV）清浄化の進捗状況

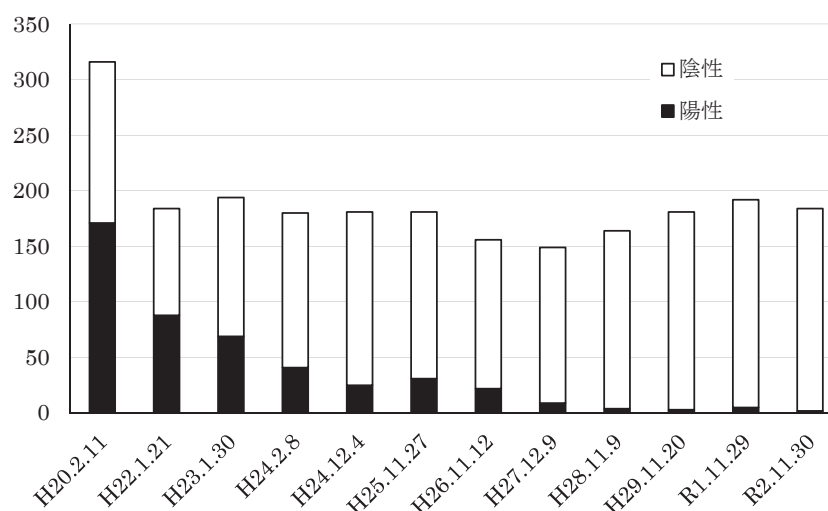


図1 牛白血病ウイルス保有率の推移

平成19年10月、入来牧場における飼養牛のBLV血清抗体価を調査した結果、検査頭数361頭のうち、陽性牛は210頭となり、全体の58%が牛白血病ウイルスに感染していることが判明した。この結果を受け、農場では平成20年1月以降、家畜防疫対策委員会を設置し、入来牧場の牛白血病ウイルス清浄化を、分娩管理及び分離飼育の両側面から進めることを決定した。入来牧場では、直ちに清浄化対策を実施し、平成20年5月で陽性率51%、平成20年11月には陽性率は41%、平成24年12月には陽性率14%、平成25年11月の調査では陽性率17%、平成26年11月には陽性率14%となり、平成27年度以降の調査では陽性率が10%を下回って横ばいに推移した。その後、令和2年11月の調査では1%以下となり、令和3年7月及び12月の検査ではいずれも0%であった。令和3年以降実施している定期的な血液検査では、いずれも0%であり、牛白血病の清浄化状態は維持されている。今後も、継続的な防疫体制を維持するとともに、定期的な血液検査を行っていく予定である。

Ⅲ 教育活動

1 農場実習

1) 実習の概要

当農場は、年間13科目、延べ104日、436名の学生に対して、計14単位の実習を行い、農業の科学的基礎である農学理論の実践の場、生物生産技術革新のための実験の場、生物生産業としての農業を支える農業経営者の育成の場として、本学農学部教育の理念を支える重要な役割を果たしている。実習は、畜産、果樹、野菜、花卉、作物、施設園芸といった農業のほぼ全分野にわたっており、植物、動物のライフサイクルをととした体系的な実習を特色としている。

農場実習の学科（コース）別の科目、単位数及び実習の種類は、第8表のとおりであり、平成19年度からは学理と実習を統合した新実習体制（兼任教員制）の基、教員と技術職員が一体となって効率的な農場実習を進めている。なお、前述のように農学部は平成28年度（2016年度）に改組を行った。改組は学年進行のため、平成28年度入学生からは新しいカリキュラムに則って進行してきたが、2023年度で8年が経過し、改組初年度に入学した在籍者はいなくなる。なお、令和6年度（2024年度）からは、次の改組を予定している。

第8表 学科別実習科目、単位、人数および実習の種類

学科・コースなど	学年	実習科目	単位	必修	人数	実習の種類
通 年						
農業生産科学科	1	農業生産科学農場実習	1	必修	82	集中3日間（2回）
応用植物科学	2	農場実習	1	必修	36	集中3日間（2回）
食環境制御科学	3	暖地農業実習	1	必修	26	集中3日間（2回）
前 期						
応用植物科学	3	農場実習Ⅱ	1	必修	39	毎週1回火曜日半日
畜産科学	2	牧場実習	1	必修	25	集中5日間（1回）
畜産科学	3	家畜飼養管理学演習Ⅰ	1	選択	27	毎週月曜日（8回）
獣医学科	3	獣医臨床基礎実習	1	必修	28	集中5日間（1回）
後 期						
応用植物科学	2	農場実習Ⅰ	1	必修	40	毎週1回火曜日半日
食料農業経済学	2	農業生産学実習	1	必修	14	毎週1回金曜日半日
地域環境システム学	2	農業生産学実習	1	必修	22	毎週1回金曜日半日
応用植物科学	3	農場実習Ⅲ	1	必修	43	集中（随時）
国際食料資源学特別	2	フィールド実習	1	必修	26	集中4日間（1回）
畜産科学	3	家畜飼養管理学演習Ⅱ	1	選択	27	毎週月曜日（8回）
農林水産学研究科	M1	畜産科学特別実習	1	選択	6	集中5日間（1回）

2) 兼任教員

平成19年度から、農場実習の質的向上を図るため、学理と実習を統合した兼任教員制を導入した。現在、農場長から委嘱された下記の18名の兼任教員が、それぞれの専門に関する実習教育に携わっている。なお、前述のように平成28年度（2016年度）に改組を行ったので教員の所属などは新学部体制に従った。

農業生産科学科

- 准教授 下田代智英（作物学教育研究分野）
 教 授 坂上 潤一（熱帯作物学教育研究分野）
 教 授 志水 勝好（比較環境農学教育研究分野）
 教 授 一谷 勝之（植物育種学教育研究分野）
 教 授 山本 雅史（果樹園芸学教育研究分野）
 講 師 香西 直子（果樹園芸学教育研究分野）
 准教授 吉田理一郎（蔬菜園芸学教育研究分野）
 准教授 清水 圭一（観賞園芸学教育研究分野）
 教 授 坂巻 祥孝（害虫学教育研究分野）
 教 授 李 哉沄（農業経営学研究分野）
 教 授 三好 和睦（家畜繁殖学教育研究分野）
 准教授 大久津昌治（家畜繁殖学教育研究分野）
 教 授 下桐 猛（家畜育種学教育研究分野）

准教授 高山 耕二（家畜管理学教育研究分野）

教授 大塚 彰（栄養生化学・飼料化学教育研究分野）

准教授 井尻 大地（栄養生化学・飼料化学教育研究分野）

農林環境科学科

助教 末吉 武志（農業環境システム学教育研究分野）

研究推進機構 遺伝子実験施設

教授 田浦 悟

3) 実習科目毎の日程および内容

(1) 農業生産科学農場実習（必修）

対象：農業生産科学科1年，82名

日程：集中実習（1期3日間・2期3日間）

単位：1

実習施設：学内農場農事部，唐湊果樹園，指宿植物試験場，入来牧場場

担当教員：山本雅史・香西直子・清水圭一・下田代智英・遠城道雄・朴 炳宰・大島一郎

担当技術職員：野村哲也・濱田延枝・田浦一成・吉留史佳・福留弘康・廣瀬 潤・西澤 優・兒玉真紀・谷村音樹・松元里志・勘米良祥多・富永 輝・石井大介・飯盛 葵・有働穰嗣・日高裕希

目標：農業経験のない学生に生物生産のための基礎的技術を体験させ，生物生産の多面性及び有機性を認識させる。

内容：非宿泊施設（学内農場農事部・唐湊果樹園）から1カ所，宿泊施設（指宿植物試験場，入来牧場）から1カ所を選択させ，第9表に示すような普通・園芸作物，施設園芸，家畜生産についての基礎的な実習を行う。

第9表 農業生産科学農場実習の実習内容（令和5年度）

分野別の実習内容				
月日	学内農場農事部	唐湊果樹園	指宿植物試験場	入来牧場
2023				
9/26	水稲収量生育調査，タマネギ播種 サツマイモ蔓払い，試し掘り	草生管理，ビワの副梢管理	サトイモ収穫，オクラ管理（追肥）	オリエンテーション 施設見学 行動観察
9/27	トルコギキョウ定植，水耕栽培の説明と管理イネ水選	堆肥施用，機械操作	コーヒー定植，植熱帯果樹繁殖（マンゴー接ぎ木），トラノオの株分け・挿し木，グアバ葉・クミスクチン収穫・洗浄	ハンドリング ロープワーク ブラッシング 体重測定 体尺測定
9/28	マルチと播種，根菜類畝立て，水稲収量調査，レポート	防風樹管理，果樹苗管理	農作業安全・農作業機械類の基本操作	鼻紋採取
2024				
2/14	ムギ類の形態観察，花卉類の管理	防風樹管理，カンキツ収穫	プーゲンビリア植え替え，挿し木，グアバ播種	オリエンテーション 施設見学 行動観察 ハンドリング
2/15	果菜類育苗管理，ポット準備	剪定，果樹鉢植管理	マンゴー管理（花吊り），ライチ取り木，マンゴー接ぎ木，セロリ芽かき・追肥，ジャガイモ管理	ロープワーク ブラッシング 体重測定 体尺測定 鼻紋採取
2/16	圃場の除草管理，露地野菜管理，レポート	カンキツ施肥，農業機械操作	農作業安全・農作業機械類の基本操作	

2) 農場実習（応用植物科学コース）（必修）

対象：応用植物科学コース2年（3期～4期），39名

日程：集中実習（3期3日間，4期3日間）

単位：1

実習施設：学内農場農事部，唐湊果樹園，指宿植物試験場

担当教員：下田代智英・山本雅史・香西直子・橋本文雄・清水圭一・遠城道雄・朴 炳宰

担当技術職員：野村哲也・中野八伯・濱田延枝・田浦一成・福留弘康・廣瀬 潤・西澤 優・兒玉真紀・谷村音樹・松元里志・勘米良祥多・飯盛 葵

目標：農業生産科学農場実習で習得してきた栽培技術を再確認するとともに，普通・園芸作物に関する栽培技術をより向上させる。

内容：第10表に示すように，指定された実習施設において，普通作物及び園芸作物に関する専門的な実習を行う。

第10表 農場実習（応用植物科学コース）の実習内容（令和5年度）

		施設別の実習内容	
月日	学内農場農事部	唐湊果樹園	指宿植物試験場
2023			
9/12	水稻生育・収量調査，トルコギキョウ播種		
13	野菜類播種，農業機械操作		
14	タマネギ播種，甘藷除草・試し掘り		
8/21			マンゴー・ゴレンシ接ぎ木，ゴレンシ芽かき・誘引
22			パッションフルーツ挿し木，栽培ベット土入替，アンズリウム株分け，オクラ整枝・ブロッコリ播種
23			アグラオネマ鉢替え，グアバ葉収穫・調整
8/22		果樹園の草生管理	
23		防風樹管理，害虫防除	
24		カンキツの摘果，果樹苗管理	
2024			
2/27		果樹植え付け，カンキツ収穫	
28		カンキツ施肥，鉢・苗管理	
29		剪定，防風樹管理	
3/13	麦類の形態観察，タマネギ収穫		
14	トルコギキョウ収穫・管理野菜		
15	類の苗管理		
2/27			ライチ取り木，マンゴー・カカオ接ぎ木
			堆肥散布・敷ワラ
28			アグラオネマ挿し木，アンズリウム株分け，マンゴー花吊り
29			果樹苗除草・追肥，セロリ収穫・調整

（3）農場実習Ⅰ（応用植物科学コースA）（必修）

対象：応用植物科学コース2年（4期），18名

日程：半日実習（毎週火曜日）

単位：1（15週）

実習施設：学内農場農事部，唐湊果樹園，指宿植物試験場，入来牧場

担当教員：下田代智英・志水勝好・一谷勝之・山本雅史・香西直子・清水圭一・吉田理一郎・田浦悟・遠城道雄・朴 炳宰・大島一郎

担当技術職員：野村哲也・濱田延枝・田浦一成・吉留史佳・福留弘康・廣瀬 潤・西澤 優・兒玉真紀・谷村音樹・松元里志・勘米良祥多・富永 輝・石井大介・飯盛 葵・有働穰嗣・日高裕希

目標：農業全般に関する基本技術の習得，普通作物，園芸作物のライフサイクル及び普通作物，園芸作物及び家畜糞尿処理と自然環境の関係を理解させる。

内容：第11表に示すように，附属農場4施設（学内農場農事部，唐湊果樹園，指宿植物試験場，入来牧場）を回り，普通作物，野菜，花卉，果樹，熱帯作物及び家畜・堆肥製造のライフサイクルを通じた観察と管理技術の習得を目指した実習を行う。

第11表 農場実習Ⅰ（応用植物科学コースA）の実習内容（令和5年度）

分野別の実習内容						
月日	水田・ 畑普通作	野 菜	花 卉	果 樹	熱帯・ 亜熱帯作物	家畜・飼料
2023						
10/ 3	オリエンテーショ ン, カンショ収 穫・調整（アシス トスーツの試用）	根菜類播種				
10				オリエンテー ション, カキの 収穫・脱渋		
17	イネ収穫, 遺伝資 源評価	根菜間引き	トルコギキョウ 定植			
24					熱帯性植物の増 殖（挿し木）, 熱 帯果樹管理（ゴ シレン摘果・袋 かけ・苗物管理）	
31				カンキツへの秋 肥施用		
11/ 7				カンキツの収穫 ①		
14					熱帯性植物の増 殖（接ぎ木）, ヤ ムイモ収穫, セ ロリ管理（定植・ トンネルビニル 張り）	
28	ケナフ収穫, コ ムギ播種	タマネギ定植				
12/ 5				カンキツの収穫 ②		
12						家畜の取扱い ・家畜糞尿観察
19	コムギ踏圧・観 察	病害診断				
26				カンキツへの堆 肥施用		
2024						
1/16					熱帯性植物の増 殖（取り木, 株 分け）, 熱帯果樹 管理（マンゴー 摘果, スワルス キー設置）	
23	コムギ追肥・中 耕・土入れ	タマネギ除草, 自主栽培説明	施設栽培におけ るスマート農業, キク収穫			
30				カキ剪定		

注) 普通作物, 野菜, 花卉: 学内農場農事部・指宿植物試験場, 果樹: 唐湊果樹園,
熱帯・亜熱帯作物: 指宿植物試験場, 家畜・飼料: 入来牧場

（4）農場実習Ⅰ（応用植物科学コースB）（必修）

対象: 応用植物科学コース2年（4期）, 17名

日程: 半日実習（毎週火曜日）

単位: 1（15週）

実習施設: 学内農場農事部, 唐湊果樹園, 指宿植物試験場, 入来牧場

担当教員: 下田代智英・志水勝好・一谷勝之・山本雅史・香西直子・清水圭一・吉田理一郎・田浦 悟・遠城道雄・
朴 炳宰・大島一郎

担当技術職員: 野村哲也・濱田延枝・田浦一成・吉留史佳・福留弘康・廣瀬 潤・西澤 優・兒玉真紀・谷村音樹・
松元里志・勘米良祥多・富永 輝・石井大介・飯盛 葵・有働穰嗣・日高裕希

目標: 農業全般に関する基本技術の習得, 普通作物, 園芸作物のライフサイクル及び普通作物, 園芸作物及び家
畜糞尿処理と自然環境の関係を理解させる。

Ⅲ 教育活動

内容：第12表に示すように，附属農場4施設（学内農場農事部，唐湊果樹園，指宿植物試験場，入来牧場）を回り，普通作物，野菜，花卉，果樹，熱帯作物及び家畜・堆肥製造のライフサイクルを通じた観察と管理技術の習得を目指した実習を行う。

第12表 農場実習Ⅰ（応用植物科学コースB）の実習内容（令和5年度）

分野別の実習内容						
月日	水田・畑普通作	野菜	花卉	果樹	熱帯・亜熱帯作物	家畜・飼料
2023 10/ 3				オリエンテーション，カキの収穫・脱渋		
10	カンショ収穫・調整（アシストスーツ試用），イネ収穫，遺伝資源評価	根菜類播種				
17						家畜の取扱い・家畜糞尿観察
24				カンキツへの秋肥施用，鉢苗管理		
31					熱帯性植物の増殖（挿し木），熱帯果樹管理（ゴレンシ摘果・袋かけ，植物管理）	
11/ 7	ケナフ収穫	タマネギ定植，根菜類間引き	トルコギキョウ定植			
14				カンキツの収穫①		
28				カンキツへの堆肥施用		
12/ 5	コムギ播種		施設栽培におけるスマート農業，キク・トルコギキョウ管理			
12					熱帯性植物の増殖（接ぎ木），ヤマイモ収穫，セロリ管理（定植・トンネルビニル張り）	
19				カンキツの収穫		
26	コムギ踏圧・観察	病虫害診断，タマネギ除草				
2024 1/16 23				カキ剪定	熱帯性植物の増殖（取り木，株分け），熱帯果樹管理（マンゴー摘蕾，スワルスキー設置）	
30	コムギ中耕・追肥・土入れ	自主栽培説明	キク収穫			

注）普通作物，野菜，花卉：学内農場農事部・指宿植物試験場，果樹：唐湊果樹園，熱帯・亜熱帯作物：指宿植物試験場，家畜・飼料：入来牧場

（5）農場実習Ⅱ（応用植物科学コースA）（必修）

対象：応用植物科学コース3年（5期），19名

日程：半日実習（毎週火曜日）

単位：1（15週）

実習施設：学内農場農事部，唐湊果樹園，指宿植物試験場，入来牧場

担当教員：下田代智英・坂上潤一・志水勝好・一谷勝之・山本雅史・香西直子・坂巻祥孝・清水圭一・

吉田理一郎・田浦 悟・朴 炳宰・大島一郎・西澤 優

担当技術職員：田浦一成・濱田延枝・富永 輝・吉留史佳・福留弘康・廣瀬 潤・勘米良祥多・兒玉真紀・谷村音樹・松元里志・野村哲也・石井大介・飯盛 葵・有働穰嗣・日高裕希、殿谷比和子

目標：農業全般に関する基本技術の習得、普通作物、園芸作物のライフサイクル及び普通作物園芸作物及び家畜糞尿処理と自然環境の関係を理解させる。

内容：第13表に示すように、附属農場4施設（学内農場農事部、唐湊果樹園、指宿植物試験場、入来牧場）を回り、普通作物、野菜、花卉、果樹、熱帯作物及び家畜・堆肥製造のライフサイクルを通じた観察と管理技術の習得を目指した実習を行う。

第13表 農場実習Ⅱ（応用植物科学コースA）の実習内容（令和5年度）

分野別の実習内容						
月日	水田・畑普通作	野菜	花卉	果樹	熱帯・亜熱帯作物	家畜・飼料
2024						
4/ 9		オリエンテーション、自主栽培、タマネギ収穫、水耕パプリカ管理				
16					熱帯果樹管理(マンゴー袋掛け)、観葉植物管理(鉢替え他)、熱帯性ヤムイモ定植、オクラ管理(播種・間引き支柱立て)	
23						化過程観察、堆肥温度測定
30	ケナフ紙漉き		トルコギキョウ管理、収穫			
5/14				草生管理		
21	カンショ定植、小麦収穫、農業機械操作					
28				ゴマダラカミキリ防除		
6/ 4	水稻播種	自主栽培中間報告				
11				カンキツ施肥		
18	普通期水稻田植え	パプリカ管理・収穫	トルコギキョウ交配(袋かけ)			
25				温州ミカン隔年交互結実栽培管理		
7/2						堆肥腐熟度判定、ホイルローダ運転実習(切返し)
9					熱帯産ヤムイモ管理、オクラ・サトイモ管理、熱帯果樹管理(マンゴー収穫他)	
16				カキ摘果		
23	水稻生育観察(ドローン)、小麦製粉	自主栽培(総評・片付け)				

注) 普通作物、野菜、花卉：学内農場農事部・指宿植物試験場、果樹：唐湊果樹園、
熱帯・亜熱帯作物：指宿植物試験場、家畜・飼料：入来牧場

(6) 農場実習Ⅱ（応用植物科学コースB）（必修）

対象：応用植物科学コース3年（5期）、19名

Ⅲ 教育活動

日程：半日実習（毎週火曜日）

単位：1（15週）

実習施設：学内農場農事部，唐湊果樹園，指宿植物試験場，入来牧場

担当教員：下田代智英・坂上潤一・志水勝好・一谷勝之・山本雅史・香西直子・清水圭一・吉田理一郎・田浦 悟・朴 炳宰・大島一郎・西澤 優

担当技術職員：田浦一成・濱田延枝・富永 輝・吉留史佳・福留弘康・廣瀬 潤・勘米良祥多・兒玉真紀・谷村音樹・松元里志・野村哲也・石井大介・飯盛 葵・有働稷嗣・日高裕希，殿谷比和子

目標：農業全般に関する基本技術の習得，普通作物，園芸作物のライフサイクル及び普通作物，園芸作物及び家畜糞尿処理と自然環境の関係を理解させる。

内容：第14表に示すように，附属農場4施設（学内農場農事部，唐湊果樹園，指宿植物試験場，入来牧場）を回り，普通作物，野菜，花卉，果樹，熱帯作物及び家畜・堆肥製造のライフサイクルを通じた観察と管理技術の習得を目指した実習を行う。

第14表 農場実習Ⅱ（応用植物科学コースB）の実習内容（令和6年度）

分野別の実習内容						
月日	水田・畑普通作	野 菜	花 卉	果 樹	熱帯・亜熱帯作物	家畜・飼料
2024						
4/ 9		オリエンテーション，自主栽培，タマネギ収穫，水耕パブリカ管理		接ぎ木		
16						堆肥化過程観察，堆肥温度測定
23					熱帯果樹管理（マンゴー袋掛け），観葉植物管理（鉢替え他），熱帯性ヤムイモ定植，オクラ管理（播種・間引き支柱立て）	
30				草生管理		
5/14	カンショ定植，小麦収穫		トルコギキョウ管理・収穫			
21				ゴマダラカミキリ防除		
28	水稻播種	自主栽培中間報告				
6/ 4				カンキツ施肥		
11	ケナフ紙漉き，農業機械操作					
18	普通期水稻田植え	パブリカ管理・収穫	トルコギキョウ交配（袋かけ）			
25				温州ミカン隔年交互結実栽培管理，ブルーベリー収穫		
7/2					熱帯産ヤムイモ管理，オクラ・サトイモ管理，熱帯果樹管理（マンゴー収穫他）	
9						堆肥化過程観察，堆肥温度測定
16	水稻生育観察，小麦製粉	自主栽培（総評・片付け）				
23				カキ摘果		

注）普通作物，野菜，花卉：学内農場農事部・指宿植物試験場，果樹：唐湊果樹園，熱帯・亜熱帯作物：指宿植物試験場，家畜・飼料：入来牧場

(7) 農業生産学実習（地域環境システム学・食料農業経済学1班）（必修）

対象：地域環境システム学・食料農業経済学（1班）2年（4期），19名

日程：半日実習（毎週金曜日午後）

単位：1（15週）

実習施設：学内農場農事部，唐湊果樹園

担当教員：一谷勝之・清水圭一・吉田理一郎・坂巻祥孝・李 哉法・田浦 悟・遠城道雄・朴 炳宰

担当技術職員：野村哲也・濱田延枝・田浦一成・吉留史佳・福留弘康・廣瀬 潤・西澤 優・兒玉真紀

目標：農業全般に関する基本技術の習得，普通・園芸作物のライフサイクル及び普通・園芸作物などの成長と自然環境の関係を理解させる。

内容：第15表に示すように，普通作物，園芸作物（野菜，花・観賞植物，果樹）などの栽培管理技術の習得と播種から収穫までの作物のライフサイクルを通じた観察と栽培管理の実習を行う。

第15表 農業生産学実習 地域環境システム学・食料農業経済学1班の実習内容（令和5年度）

分野別の実習内容				
月日	水田・普通作	野 菜	花 卉	果 樹
2023				
10/ 6	オリエンテーション	葉菜・根菜・スナップエンドウ播種	キク定植	
13				カキの収穫・脱渋
20	イネ遺伝資源の評価	水耕栽培（定植・説明），スナップエンドウ間引き・ネット張り		
27				秋肥施用
11/ 8	農業機械操作	葉菜類・タマネギ定植		
17				カンキツの収穫①（ウンシュウミカン），アシストスーツの試用
24	コムギ播種	水耕栽培（摘芯・芽かき），スナップエンドウ管理（芽かき）		
12/ 1				草生管理（刈払機操作・敷草）
8	農産物の品質	水耕栽培（ストレス処理），スナップエンドウ管理	キク・トルコギキョウ管理	
15				カンキツの収穫②（中晩柑類），アシストスーツの試用
22	害虫防除	タマネギ除草，葉菜類収穫，スナップエンドウ収穫		
2024				
1/5				カンキツの袋かけ
19	コムギ踏圧・観察		キク収穫，データやスマホを利用した栽培管理	
26				落葉果樹の剪定
2/2	コムギ追肥・中耕・土入れ	水耕栽培（収穫）		

注）水田・普通作，野菜，花卉：学内農場農事部，果樹：唐湊果樹園

(8) 農業生産学実習（地域環境システム学2班）（必修）

対象：地域環境システム学（2班）2年（4期），19名

日程：半日実習（毎週金曜日午後）

単位：1（15週）

実習施設：学内農場農事部，唐湊果樹園

担当教員：下田代智英・一谷勝之・清水圭一・吉田理一郎・坂巻祥孝・末吉武志・田浦 悟・遠城道雄・朴 炳宰

担当技術職員：野村哲也・濱田延枝・田浦一成・吉留史佳・福留弘康・廣瀬 潤・西澤 優・兒玉真紀

目標：農業全般に関する基本技術の習得，普通・園芸作物のライフサイクル及び普通・園芸作物などの成長と自

然環境の関係を理解させる。

内容：第16表に示すように、普通作物、園芸作物（野菜、花・観賞植物、果樹）などの栽培管理技術の習得と播種から収穫までの作物のライフサイクルを通じた観察と栽培管理の実習を行う。

第16表 農業生産学実習 地域環境システム学2班の実習内容（令和5年度）

分野別の実習内容				
月日	普通作物	野 菜	花 卉	果 樹
2023				
10/ 6				オリエンテーション、 カキの収穫・脱渋
13		水耕栽培（定植・説明）、 スナップエンドウ播種	キク定植	
20		水耕栽培（誘引・芽かき）、 スナップエンドウ間引き		秋肥施用
27	イネ遺伝資源の評価			
11/ 8				ビワ管理
17	農業機械操作	タマネギ定植、葉菜類定 植		
24				カンキツの収穫①（ウン シュウミカン）、アシスト スーツの試用
12/ 1	コムギ播種	農産物の品質、スナップ エンドウ管理	キク・トルコギキョウ管 理	
8				草生管理（刈払機操作・ 敷草）
15	害虫防除	水耕栽培（ストレス処理）、 葉菜類・スナップエンド ウ収穫、タマネギ除草		
22				カンキツの収穫②（中晩 柑類）、アシストスーツの 試用
2024				
1/ 5	コムギ踏圧・観察		キク収穫、データやスマ ホを利用した栽培管理	
19				カンキツの袋掛け
26	コムギ追肥・中耕・土入 れ	水耕栽培（収穫）		
2/ 2				落葉果樹の剪定

注）普通作物、野菜、花卉：学内農場農事部、果樹：唐湊果樹園

（9）牧場実習（畜産科学コース）（必修）遠隔開講

対象：畜産科学コース2年（3期）、25名

日程：集中実習（3期5日間）

単位：1

実習施設：入来牧場

担当教員：大島一郎

担当技術職員：富永 輝・石井大介・飯盛葵・有働稜嗣・日高裕希

目標：

- ・牛の適切なハンドリングが出来る。
- ・黒毛和種の基本的な生理生態及び飼養管理を理解し、牛肉生産過程を詳細に説明出来る。
- ・家畜糞尿の堆肥化に関する基礎事項を理解し、その初期の温度・臭気変化を説明出来る。
- ・農業機械の基本的な役割、機能が説明出来る。

内容：入来牧場における黒毛和種の飼養管理、草地管理など肉牛生産の基礎事項を1週間体験することを通して、畜産業を包括的に捉える視野の獲得を目的とする。（第17表）

第17表 牧場実習（畜産科学コース）の実習内容（令和5年度）

月 日	実 習 内 容
2023	
8/21	オリエンテーション（施設、家畜、農業機械類の見学）、牛の保定、ハンドリング、牛体洗浄、ブラッシング
8/22	牛の日常管理、子牛・育成・肥育牛体重測定、12時間行動調査
8/23	牛の日常管理、飼料原料観察、採草地収量調査、農業機械運転実習、体尺測定・牛体観察、耳標・鼻環装着
8/24	牛の日常管理、放牧地巡視、除石、柵点検・補修、牛・馬の群管理、去勢、除角、採血
8/25	牛の日常管理、全体清掃

(10) 家畜飼養管理学演習Ⅰ（選択）

対象：畜産科学コース3年（前期）、27名

日程：随時

単位：1

実習施設：学内農場畜産部

担当教員：高山耕二・大島一郎

目標：

- ・家畜、家禽の飼料作成から堆肥生産までの一連の流れを把握し、実施できる。
- ・家畜、家禽の繁殖、育種を含む飼養管理の応用技術を習得する。

内容：鹿児島大学農学部附属農場学内飼育棟には、ウシ、ヤギ、ミニブタ、ニワトリ、ウズラ、アイガモ、ガチョウといった多様な家畜・家禽が飼育されている。既に、家畜生産学実習Ⅰにおいて、これらの家畜・家禽の飼養管理に関する基本技術を習得済みであるため、本実習ではさらにそれらの応用技術を習得することを目的とする。実習期間は4月から翌年3月までとする。実習時間は午前9時から午後5時までを原則とするが、他講義の履修状況や緊急の動物管理で時間外に及ぶこともある。内容によっては小グループに分かれて、共同実習を行う。（第18表）

第18表 家畜飼養管理学演習Ⅰの実習内容（令和5年度）

月 日	実 習 内 容
随 時	オリエンテーション イタリアンライグラスサイレージ調整 飼育施設の周辺整備・維持管理Ⅰ 堆肥生産 トウモロコシサイレージ調整 飼料生産（堆肥散布、牧草播種） 稲ワラの集草、乾燥 ウシの削蹄 反芻家畜の繁殖管理 ミニブタの繁殖管理 家禽・水禽の繁殖管理 家畜・家禽の生理機能のモニタリング 飼育施設の周辺整備・維持管理Ⅱ 疾病予防と対策 飼料設計

(11) 家畜飼養管理学演習Ⅱ（選択）

対象：畜産科学コース3年（後期）、25名

日程：随時

単位：1

実習施設：学内農場畜産部

担当教員：高山耕二・大島一郎

目標：

- ・家畜、家禽の飼料作成から堆肥生産までの一連の流れを把握し、実施できる。
- ・家畜、家禽の繁殖、育種を含む飼養管理の応用技術を習得する。

内容：鹿児島大学農学部附属農場学内飼育棟には、ウシ、ヤギ、ミニブタ、ニワトリ、ウズラ、アイガモ、ガチョウといった多様な家畜・家禽が飼育されている。既に、家畜生産学実習Ⅰにおいて、これらの家畜・家禽

の飼養管理に関する基本技術を習得済みであるため、本実習ではさらにそれらの応用技術を習得することを目的とする。実習期間は4月から翌年3月までとする。実習時間は午前9時から午後5時までを原則とするが、他講義の履修状況や緊急の動物管理で時間外におよぶこともある。内容によっては小グループに分かれて、共同実習を行う。(第19表)

第19表 家畜飼養管理学演習Ⅱの実習内容（令和5年度）

月 日	実 習 内 容
随 時	オリエンテーション イタリアンライグラスサイレージ調整 飼育施設の周辺整備・維持管理Ⅰ 堆肥生産 トウモロコシサイレージ調整 飼料生産（堆肥散布，牧草播種） 稲ワラの集草，乾燥 ウシの削蹄 反芻家畜の繁殖管理 ミニブタの繁殖管理 家禽・水禽の繁殖管理 家畜・家禽の生理機能のモニタリング 飼育施設の周辺整備・維持管理Ⅱ 疾病予防と対策 飼料設計

(12) 暖地農業実習（食環境制御科学コース）（必修）

対象：食環境制御科学コース3年（5，6期），25名

日程：集中実習（5期3日間，6期3日間）

単位：1

実習施設：指宿植物試験場

担当教員：朴 炳宰

担当技術職員：谷村音樹・松元里志・勘米良祥多

目標：農業全般に関する基礎的技術，観賞作物や果樹，野菜の生長と自然環境との関係，施設園芸栽培技術を理解させる。

内容：第20表に示すように，熱帯・亜熱帯性の野菜，果樹，観賞植物を中心に施設園芸及び栽培管理技術に関する実習を行う。

第20表 暖地農業実習（食環境制御科学コース）の実習内容（令和5年度）

月 日	実 習 内 容
2023	
9/ 5	場内説明，野菜管理（サトイモ収穫・調整）ブロッコリー定植・オクラ下葉かき，追肥用土作り
9/ 6	取木苗の鉢上げ，熱帯果樹苗除草・追肥，栄養繁殖について説明，シャコバサボテンの鉢上げ，セロリ播種
9/ 7	アグラオネマ挿し木，マンゴー接ぎ木
2024	
3/12	ライチ取り木，マンゴー根域制限栽培管理，熱帯果樹鉢替え準備
3/13	農作業機械操作，熱帯果樹苗の鉢替え（土作り・接木苗鉢替え），ジャガイモ収穫
3/14	アグラオネマ挿し木，アンズリウム鉢替え，セロリ管理（芽かき・追肥）

(13) 農場実習Ⅲ（応用植物科学コース）（必修）

対象：応用植物科学コース3年（6期），44名

日程：集中実習（6期6日間）

単位：1

実習施設：学内農場農事部

担当教員：下田代智英・坂上潤一・志水勝好・一谷勝之・山本雅史・香西直子・吉田理一郎・清水圭一・坂巻祥孝・遠城道雄・朴 炳宰

目標：2年次の農場実習及び農場実習Ⅰ、3年次の農場実習Ⅱを受けて、イネの収量・品質調査を全員で一斉に実施し、以降は、所属先の教育研究分野毎に、より専門的な技術を習得する。

内容：第21表に示すように、コース全員で稲の収量及び品質調査の方法を学び、残りの5日分は所属する教育研究分野での専門的な技術に関する実習を行う。

第21表 農場実習Ⅲ（応用植物科学コース）の実習内容（令和5年度）

月 日	実 習 内 容
2022	
10/7	学内農場農事部においてイネの収量・品質調査
他5日	所属する教育研究分野において専門的技術に関する実習

(14) 獣医臨床基礎実習（獣医学科）（必修）

対象：共同獣医学部3年（5期）、28名

日程：集中実習（5期5日間）

単位：1

実習施設：入来牧場

担当教員：大島一郎

担当技術職員：富永 輝・石井大介・飯盛 葵・有働穰嗣・日高裕希

目標：

- ・牛の適切なハンドリングが出来る。
- ・黒毛和種の基本的な生理生態及び飼養管理を理解し、牛肉生産過程を詳細に説明出来る。
- ・家畜糞尿の堆肥化に関する基礎事項を理解し、説明出来る。
- ・農業機械の基本的な役割、機能が説明出来る。
- ・畜産現場における問題点や課題を発見でき、獣医師としての適切な指導法を考察する。

内容：入来牧場における黒毛和種の飼養管理、草地管理など肉牛生産の基礎事項を1週間体験することを通して、獣医師として飼料・家畜・糞尿といった畜産業を包括的に捉える視野の獲得を目的とする。（第22表）

第22表 獣医臨床基礎実習（共同獣医学部）の実習内容（令和5年度）

月 日	実 習 内 容
2022	
9/11	オリエンテーション（施設、家畜、農業機械類の見学）、牛の保定、ハンドリング、牛体洗浄、ブラッシング
12	牛の日常管理、子牛・育成・肥育牛体重測定、12時間行動調査、農業機械運転
13	牛の日常管理、糞尿処理と堆肥製造、去勢、除角
14	牛の日常管理、体尺測定、耳標装着、鼻環装着、飼料観察、牛舎の衛生管理、草地と鳥獣害
15	牛の日常管理、全体清掃

(15) フィールド実習（必修）

対象：国際食料資源学特別コース2年、26名

日程：集中実習（4期4日間）

単位：1

実習施設：学内農場農事部、唐湊果樹園、指宿植物試験場、入来牧場

担当教員：遠城道雄・朴 炳宰・大島一郎・西澤 優

担当技術職員：野村哲也・濱田延枝・田浦一成・福留弘康・廣瀬 潤・兒玉真紀・谷村音樹・松元里志・勘米良 祥多・富永 輝・石井大介・飯盛 葵・有働穰嗣・日高裕希

目標：農業の基本的な作物の栽培技術、家畜飼養技術を体験する。

内容：附属農場4施設（学内農場農事部・唐湊果樹園・指宿植物試験場、入来牧場）で1日ずつ終日実習を行うことで、第23表に示すように各施設の特性を活かした作物栽培、家畜飼養技術を学習する。

第23表 フィールド実習の実習内容（令和5年度）

分野別の実習内容				
月日	学内農場農事部	唐湊果樹園	指宿植物試験場	入来牧場
2024 2/19			ブルメリア挿し木、観葉植物鉢替え、オクラ・スイートコーン播種、マンガー管理（玉吊り）	
2/20				オリエンテーション 施設見学 ハンドリング ブラッシング
2/22		草生管理（敷草）、 タンカン・不知火の収穫・調整		
2/17		草生管理（敷草）、 タンカン・不知火の収穫・調整		

(16) 畜産科学特別実習（選択）

対象：農林水産学研究科（後期）6名

日程：集中実習（5日間）

単位：1

実習施設：入来牧場

担当教員：大島一郎

担当技術職員：富永 輝・石井大介・飯盛 葵・有働稜嗣・日高裕希

目標：

- ・牛の適切なハンドリングが出来る。
- ・黒毛和種の基本的な生理生態及び飼養管理を理解し、牛肉生産過程を詳細に説明出来る。
- ・家畜糞尿の堆肥化に関する基礎事項を理解し、その初期の温度・臭気変化を説明出来る。
- ・農業機械の基本的な役割、機能が説明出来る。

内容：入来牧場における黒毛和種の飼養管理、草地管理など肉牛生産の基礎事項を1週間体験することを通して、畜産業を包括的に捉える視野の獲得を目的とする。（第24表）

第24表 畜産科学特別実習の実習内容（令和5年度）

月日	実 習 内 容
2024	
2/26	オリエンテーション（施設、家畜、農業機械類の見学）、牛の保定、ハンドリング、牛体洗浄、ブラッシング
2/27	牛の日常管理、子牛・育成・肥育牛体重測定
2/28	牛の日常管理、牛体観察、耳標・鼻環装着、去勢、除角
2/29	牛の日常管理、県内畜産施設見学
3/ 1	牛の日常管理、全体清掃

2 講 義

農場専任教員の大学院及び学部での講義は以下の通りである。

1) 大学院

- ・国際農業資源学特論（後期・2単位） 遠城道雄
- ・家畜生産学特別研究（通年・2単位 分担）大島一郎
- ・植物生産科学基礎特論（前期・2単位 分担）遠城道雄・朴 炳宰
- ・植物生産科学特別講義（後期・2単位 分担）遠城道雄・朴 炳宰
- ・畜産科学基礎特論（前期・2単位 分担）大島一郎
- ・環境変動に対応した防災と持続的一次産業（前期・2単位 分担） 遠城道雄
- ・連合大学院生物生産科学基礎特論（前期・分担）大島一郎

2) 農学部

- ・卒業論文（通年・6単位 分担）遠城道雄・朴 炳宰・大島一郎
- ・栽培技術論（前期・2単位）遠城道雄・朴 炳宰
- ・植物生産学英語（前期・2単位）朴 炳宰
- ・畜産科学概論（後期・2単位 分担）大島一郎
- ・家畜生体機構学（後期・2単位）大島一郎
- ・国際農業資源学（後期・2単位（分担））遠城道雄・朴 炳宰
- ・欧文講読（前期・2単位）遠城道雄・朴 炳宰
- ・応用植物科学概論（後期・2単位 分担）朴 炳宰
- ・スマート農学概論（後期・2単位 分担）朴 炳宰
- ・畜産科学英語（前期・2単位）大島一郎

3) 共通教育

- ・基礎化学入門B（前期・2単位 分担）朴 炳宰

IV 研究活動

農場では、教員と技術職員が一体となってフィールド農学に関わる様々な研究及び技術開発を推進している。また、農場は、フィールド農学の研究施設として、学部教員あるいは学部学生や大学院生の研究に広く活用され、その成果は分子生物学から農業現場直結型まで広い範囲に亘っている。

1 研究課題

1) 農場の研究課題

- ・ヤムイモの品種特性に関する研究
- ・ヤムイモの耐乾性、増収に関する生態学的研究
- ・ヤムイモ、ウコン類の繁殖及び地下部肥大に関する研究・液肥がサツマイモの生育に及ぼす影響
- ・ICTを活用した農業用水の遠隔・自動制御研究
- ・水前寺菜の繁殖及びオクラの品質に関する研究
- ・パッションフルーツの果実品質に関する研究（遠城教授との共同研究）
- ・サトウキビの栽培に関する研究
- ・ヤムイモ及びキャッサバの遺伝資源保存
- ・ローゼルの栽培研究
- ・パッションフルーツの機能性成分に関する研究
- ・黒毛和種の親子放牧による子牛の生産に関する研究
- ・胎児期の栄養制限が黒毛和種子牛の代謝に及ぼす影響
- ・乳母牛による強化哺乳に関する研究
- ・タケノコ皮サイレージが黒毛和種繁殖雌牛の繁殖性に及ぼす影響
- ・ホルスタイン種利用による黒毛和種の里子哺乳に関する研究
- ・黒毛和種の環境音に対する行動反応に関する研究
- ・嚙下音による哺乳量推定の可能性

2) 農場施設を利用した学部研究室の研究課題

(1) 学内農場農事部圃場を利用した研究課題

(作物学研究室)

- ・カンショの栽培法、生産性及び品質に関する研究
- ・水稻の栽培環境反応に関する研究
- ・水稻の生育診断技術に関する研究

(熱帯作物学研究室)

- ・サトウキビ、キャッサバ、サツマイモの栽培技術開発
- ・アフリカ等稲の成育比較

(比較環境農学研究室)

- ・ケナフ栽培による種子、繊維の収穫や実習で行う紙すき材料の確保
- ・サボテン（ウチワサボテン、柱サボテンなど）を栽培し、鹿児島市での適用性の検討
- ・ローゼル栽培研究
- ・寝太郎スイカの栽培研究
- ・伝統野菜種子の採取
- ・クズの栽培試験・伝統野菜に関する研究

(植物育種学研究室)

- ・水稻の農業形質、生殖隔離、耐病性に関する遺伝分析（先端科学研究推進センター：田浦教授との共同研究）
- ・アワの形態調査と品種保存
- ・ヤムイモ、ダイズとカンゾウの多様性に関する遺伝的研究・サトウキビの糖蓄積に関する品種間差異（附属農場：遠城教授、朴准教授との共同研究）
- ・長命草の栽培に関する研究（比較環境農学：志水教授との共同研究）

(果樹園芸学研究室)

- ・ボンカン、アボカド、ブルーベリー、実験材料の栽培
- ・タンカン、ボンカン、レイシ、モモ台木の栽培試験

・マスカディンブドウの保存

(蔬菜園芸学研究室)

・桜島ダイコンに関する研究

・ヤムイモ・ウコン類の繁殖及び地下部肥大に関する研究（農場：遠城教授，朴准教授との共同研究）

・パッションフルーツの果実品質に関する研究（農場：朴准教授との共同研究）

(観賞園芸学研究室)

・ツバキ属植物の系統発生並びに新花色の育種

・ツバキ属植物の花色遺伝

・トルコギキョウの新花色の育種

・トルコギキョウの花形・花色の育種と切り花生産

(害虫学研究室)

・昆虫ウイルスによるチャノホソガの防除

・露地野菜における土着天敵を利用した害虫防除体系の確立

・野菜に発生するハダニ類及びそれらの天敵の生態

・蒸気防除装置効果検証用のチャ新芽及びチャ害虫採集

・茶園天敵節足動物類の探索

・露地野菜類における土着天敵を利用した害虫防除体系の確立

・野菜に発生するハダニ類及びそれらの天敵の生態

・露地ナスに発生するハダニ類の総合的害虫管理法の確立

(家畜管理学研究室)

・地域未利用資源の飼料化に関する研究：サイレージ調製及び消化・代謝試験，嗜好試験

・自給飼料による舎飼いやぎの飼養体系確立に向けた研究

・水田での球体ロボットによる除草効果の検証

(土壌科学研究室)

・土壌・植物根圏における揮発性有機化合物（VOC）の網羅的解析による微生物群集の評価

・土着生態系を活用したサツマイモ基腐病の防除に関する微生物学的研究

(植物栄養・肥料学研究室)

・研究用遺伝資源の維持・保存のための作物栽培

・降雨に含まれる微量成分（過塩素酸等）の含有濃度の把握

(焼酎製造学研究室)

・焼酎食品製造実習におけるサツマイモの苗床

(農業環境システム学研究室)

・環境保全型雑草制御に関する研究

・葉菜類栽培体系の高度化に関する研究

(環境情報システム学研究室)

・水稻の生育診断技術に関する研究

1) トイドローンによる連続生育監視システムの開発

2) イネ生育環境の観測及びモデル評価

(先端科学研究推進センター遺伝子実験部門)

・ワールドイネコレクションの栽培実験

・アジア産イネの形質調査と品種保存

(2) 唐湊果樹園を利用した研究課題

(果樹園芸学研究室)

・鹿児島在来カンキツの特性解明と利用に関する研究

・カンキツ類の進化及び種分化に関する研究

・高品質カンキツ果実生産の条件解明

・アセロラの栽培・育種技術の改良

・アボカド品種の特性解明

・鹿児島県におけるアーモンドの生育特性の調査

・少低温要求性モモ品種の生育に関する研究

・中間台木‘ひめこなつ’に高接ぎした少低温要求性モモ品種‘KU-PP1’及び‘KU-PP2’の生育に関

する研究並びに既存品種との比較試験

- ・少低温要求性モモ品種の生育特性の解明

(3) 指宿植物試験場を利用した研究課題

(果樹園芸学研究室)

- ・アセロラの栽培・育種技術の改良
- ・南九州におけるマンゴーの生育特性に関する研究
- ・ライチの品種特定に関する研究

(森林保護学)

- ・クサトベラにおける種子散布に関わる果実二型の遺伝様式の解明

(南西島弧地震火山研究所)

- ・阿多カルデラ西部における地震活動の研究

(4) 入来牧場を利用した研究課題

(家畜繁殖学研究室)

- ・家畜の繁殖生理・人工繁殖と遺伝子改変家畜作出の研究

(家畜管理学研究室)

- ・シカ出現状況に関する調査
- ・未利用資源の家畜飼料化利用を目指した研究

(獣医繁殖学)

- ・パルスオキシメーターを用いた呼吸器機能評価法の検討

(5) 学内農場畜産部を利用した研究課題

(家畜繁殖学研究室)

- ・家畜の繁殖生理・人工繁殖と遺伝子改変家畜作出に関する研究

(家畜育種学研究室)

- ・家畜・家禽に関する遺伝育種学的研究

(家畜管理学研究室)

- ・家畜の行動管理に関する研究
- ・未利用資源の飼料化に関する研究

(栄養生化学・飼料化学研究室)

- ・脂質代謝改善効果を持つ機能性食品の研究
- ・腸内環境の改善効果を持つ機能性食品の研究
- ・未利用資源の家畜飼料化利用を目指した研究

2 研究成果

1) 農場 (2023)

(1) 論文

高山耕二・中村南美子・大島一郎, コールダックの人工孵化, 鹿児島大学農学部附属農場研究報告, 44, 5-7

田浦一成・下田代智英・野村哲也・濱田延枝・中野八伯・朴 炳宰・遠城道雄, 鹿児島大学農学部附属農場学内農事部水田における水稻生育と収量 (2019~2021年), 鹿児島大学農学部附属農場研究報告, 44, 9-16

(2) 口頭・ポスター発表

西澤 優・香西直子・宇都量子・福留弘康・廣瀬 潤・兒玉真紀・山本雅史・朴 炳宰・遠城道雄, 隔年交互結実管理方法がビワ (*Eriobotrya japonica* (Thunb.) Lindl.) の結果枝の形状, 果実重及び個葉の光合成能力に与える 影響, 日本熱帯農業学会第133回講演会.

中村南美子・大島一郎・中西良孝・高山耕二, 水田放飼した薩摩黒鴨に対する自給飼料 (カツオ節だし残渣, 屑米及び生米ヌカ) の給与が産肉性と産卵性に及ぼす影響, 有機農業研究, 15 (1), 4-9

(3) 著書

(4) 報告書

- (5) 商業誌
- (6) 特許
- (7) 博士論文
- (8) 修士論文
- (9) 卒業論文

四本衣吹, モリंगा (*Moringa oleifera* Lam.) の発芽特性と種子を利用した水質浄化
 久保憲祐, 組織培養を用いたモリंगाの増殖に関する研究
 釘宮さくら, トゲイモの芽挿し法における施肥量の違いが生育及び収量に及ぼす影響
 河野春菜, オクラの葉に含まれるポリフェノールに関する研究
 中原早紀, ローゼル葉の収穫時期および部位がポリフェノール含量に及ぼす影響
 市来佑悟, パッションフルーツの交配が種子のポリフェノール含量およびピセアタンノール含量に及ぼす影響
 渋谷啓太, 指宿の温泉水を用いた野菜類の栽培について

2) 農場を利用した研究成果 (2022年1月~12月)

(1) 論文

Yamamoto, M.: Self and cross-incompatibility of *Citrus depressa* Hayata (Shiikuwasha) and its relatives. *The Horticulture Journal*, 92, 134-141.
 Asikin, Y., Tamura, Y., Aono, Y., Kusano, M., Shiba, H., Yamamoto, M., Mitsube, F., Lin, S., Takara, K., Wada, K.: Multivariate profiling of metabolites and volatile organic compounds in *Citrus depressa* Hayata fruits from Kagoshima, Okinawa, and Taiwan. *Foods (MDPI)*, 12 (15) 2951.
 Taura S, Ichitani K.: Chromosomal Location of xa19, a Broad-Spectrum Rice Bacterial Blight Resistant Gene from XM5, a Mutant Line from IR24. *Plants*. 10.3390/plants12030602.
 山本雅史・伊東孝峻・川口昭二・野村哲也・福留弘康・勘米良祥多: 多胚性カンキツの胚数およびその雑種実生出現. 鹿児島大学農場研報, 44, 1-4.
 山本雅史・谷 佳那美・香西直子: 鹿児島県黒島の在来カンキツ. 南太平洋研究, 43, 1-10.
 東 弘菜, 西 修平, 一谷 勝之, 吉田 理一郎, 志水 勝好: コダチボタンボウフウ (*Peucedanum japonicum* Thunb. var. *latifolium* M.Hotta et Shiuchi) の発芽に影響を及ぼす環境要因. 熱帯農業研究, 16巻1-5.

(2) 口頭・ポスター発表

Zin Mar Soe, Sakura Kihara, Daisuke Fukahori, Masao Sakai, Masayuki Nakamura, Daisuke Ueno and Makoto Ikenaga, Effect of soil material amendment on the bacterial community and antagonistic ability of the responded bacteria against the growth of *Diaporthe destruens* causing sweet potato foot rot disease. 日本土壌微生物学会2023年度千葉大会
 Zin Mar Soe, Sakura Kihara, Daisuke Fukahori, Masao Sakai, Masayuki Nakamura, Daisuke Ueno and Makoto Ikenaga. Dynamics of bacterial communities and antifungal activity of responded bacteria against sweet potato foot rot disease pathogen *Diaporthe destruens* in different soil amendments. 日本微生物生態学会第36回浜松大会
 西澤 優・香西直子・宇都量子・福留弘康・広瀬 潤・兒玉真紀・山本雅史・朴 炳宰・遠城道雄. 隔年交互結実法がビワ (*Eriobotrya japonica* (Thunb.) Lindl.) の結果枝の形状, 果実重および個葉の光合成能力に与える影響. 日本熱帯農業学会第133回講演会.
 山本雅史・谷 佳那美・香西直子. 沖縄の在来カンキツ”タニブタ” (*Citrus ryukyuensis*) の特性. 日本熱帯農業学会第133回講演会
 山本雅史・有田聖矢・香西直子. 多胚性カンキツにおける簡便な四倍体作出法. 園芸学会平成5年度春季大会
 下村桃子・山本雅史・光部史将・林 書妍・草野 都・柴 博史・高良健作・和田浩二・ヨナタン・アシキン. 南西諸島・台湾在来柑橘 (*Citrus depressa*) の遺伝子型, 色素特性および香気成分の分析. 一般社団法人日本食品保蔵科学会 第72回 (熊本) 大会
 丸上穂佳・山本雅史・古藤田信博. 南西諸島在来カンキツに蓄積する機能性成分および遺伝的背景についての研究. 園芸学会九州支部令和5年度大会

- 山本雅史・楠 聡太・古澤典子・池田 栞・藤野裕也・香西直子．アセロラ (*Malpighia glabra* L.) における組織培養法の改良．日本熱帯農業学会第134回講演会
- 堀 一斗・香西直子・山本雅史．マンゴーにおいて秋季の温度および土壌水分条件が花成に及ぼす影響．日本熱帯農業学会第134回講演会
- 前田 幸暉浩・高橋 龍成・柴田 雪花・田浦 悟・一谷 勝之：イネ突然変異白葉枯病抵抗性遺伝子がもたらす growth penalty を日印交雑後の戻し交雑世代の選抜によって克服する可能性．第18回九州育種談話会
- 柴田雪花・豊元大希・植村真郷，田浦悟，佐藤雅志，Robert Henry，石川隆二，一谷勝之：O. sativa と O. meridionalis との交雑後代で見出された受精後の種子発達に関わる遺伝子 SDV2 の連鎖分析．第18回九州育種談話会．
- 高橋龍成・加藤神成流・前田幸暉浩・柴田雪花・湯山祐樹・田浦悟・一谷勝之：イネ白葉枯病新規抵抗性突然変異系統の白葉枯病複数菌株に対する抵抗性評価．第18回九州育種談話会．
- 宇田津徹朗，一谷勝之，志水勝好，石川隆二：野生イネの生産量推定に関する基礎的研究 (II)．日本文化財科学会第40回大会
- 高橋龍成，加藤神成流，前田幸暉浩，柴田雪花，湯山祐樹，田浦悟，一谷勝之：イオンビーム照射によって誘発されたイネ白葉枯病新規抵抗性系統の特性と白葉枯病菌複数レースに対する反応．日本育種学会第144回講演会．
- 柴田雪花・片野航貴・高橋龍成・前田幸暉浩・田浦悟・ヘンリーロバート・石川隆二・一谷勝之：アジア栽培イネとオーストラリア産野生イネ系統との交雑後代に見出された第3染色体に座乗する分離歪み遺伝子の連鎖分析．日本育種学会第144回講演会
- 前田幸暉浩・高橋龍成・柴田雪花・田浦悟・一谷勝之：イネ突然変異白葉枯病抵抗性遺伝子が農業形質に及ぼす影響．日本育種学会第144回講演会
- 村中 智明，横山 寛，松浦 萌華，田浦 悟，一谷 勝之，神田 英司：低価格タイムラプスカメラと YOLOX によるイネ開花時刻の推定．日本植物学会第87回大会
- 高橋龍成・加藤神成流・前田幸暉浩・柴田雪花・湯山祐樹・田浦悟・一谷勝之：イオンビーム照射によって誘発されたイネ白葉枯病新規抵抗性系統の特性．イネ遺伝学・分子生物学ワークショップ2023
- 柴田雪花・片野航貴・高橋龍成・前田幸暉浩・田浦悟・石川隆二・一谷勝之：種間交雑後代に見出された第3染色体に座乗する分離歪み遺伝子の連鎖分析．イネ遺伝学・分子生物学ワークショップ2023
- 前田幸暉浩・高橋龍成・柴田雪花・田浦悟・一谷勝之：突然変異白葉枯病抵抗性遺伝子の growth penalty の評価．イネ遺伝学・分子生物学ワークショップ2023
- 仲村洋輔・一谷勝之・Matthew Shenton・田中伸裕・久保山勉：WRC 系統と台中65号の雑種におけるイネ初期生育ヘテロシスの GWAS と BC1F1 を用いた QTL 解析．日本育種学会143回講演会
- 池田好古・角田大吾・石塚紫花・前田夏希・石井大介・飯盛 葵・中村南美子・桐野正人・安藤貴朗・米重隆一・吉崎由美子・大島一郎．筍皮サイレージ給与が黒毛和種繁殖雌牛に及ぼす影響．第16回日本暖地畜産学会宮崎大会．
- 石塚紫花・前田夏希・池田好古・角田大吾・石井大介・飯盛 葵・富永 輝・中村南美子・米重隆一・安藤貴朗・大島一郎．乳母牛と黒毛和種子牛との間の母性行動に関する研究．第16回日本暖地畜産学会宮崎大会．
- 前田夏希・石塚紫花・池田好古・角田大吾・石井大介・飯盛 葵・富永 輝・中村南美子・安藤貴朗・大島一郎．乳母牛哺乳が黒毛和種子牛の発育、行動および健康状態に及ぼす影響．第16回日本暖地畜産学会宮崎大会．

(3) 著書

高山耕二，草刈り動物と暮らす ヤギ・アイガモ・ガチョウの飼い方，104pp，農文協

(4) 報告書

(5) 商業誌

高山耕二，移動式の鶏舎で庭先除草，現代農業，102(9)，192-194

(6) 特許

(7) 博士論文

中村南美子，シカの視覚特性を利用した草地への侵入防止に関する研究

(8) 修士論文

Zin Mar Soe. Effects of Organic Materials Application on the Bacterial Community in Soil and Sweet Potato and Evaluation of Bacterial Antagonistic Ability Against *Diaporthe destruens* causing Sweet Potato Foot Rot Disease

宇都量子, アボカドの挿し木において種々の処理および養分状態が発根に及ぼす影響

山田葵衣, アセロラベトナム系品種の組織培養における好適条件の解明

(9) 卒業論文

上小倉松太郎, 鹿兒島県の樹園地におけるアボカド「ペーコン」の子房のデンプン含量

高島颯太, 鹿兒島県における少低温要求性モモ品種の生育特性

實石汰一, 花粉親の違いがアーモンドの結実性および果実品質に及ぼす影響

榮 大河, 甘味系アセロラ腋芽培養における効果的な培地条件の解明とアセロラ品種のDNA分析

永田 喜之介, シックワサ（*Citrus depressa*）におけるDNA分析による類縁関係の解明および果実特性の評価

水本啓太, 鹿兒島県在来カンキツの川畑ミカンとキミカンの特性解明

牧原圭吾, 除草利用を目的とした移動式小型鶏舎の開発

3 研究助成

人工光閉鎖型育苗装置「エコナーセリー®」を活用したオフシーズンにおける温帯性作物の栽培技術の開発（2021-2023）, 株式会社エルム, 共同研究（代表：遠城道雄）

鹿兒島県内のモリンガ栽培における立枯病の原因究明と対策の検討（2021-2023）, 高槻電気工業株式会社, 共同研究, （代表：遠城道雄）

代謝刷り込みによる牛放牧肥育技術開発事業（2021-2023）, 公益財団法人全国競馬・畜産振興会, 日本中央競馬会畜産振興事業交付金, （分担：大島一郎）

タケノコ皮サイレージ給与が黒毛和種繁殖雌牛の繁殖性に及ぼす影響（2022-2023）, CRS株式会社, 共同研究費, （代表：大島一郎）

トルコギキョウの冬季無加温栽培における開花調節のための新たな長日処理方法の検討（2023-2024）, 科学研究費補助金, （代表：濱田 延枝）

胎仔期の栄養で変化するウシ骨格筋でのヒストン修飾の役割とは？（2022-2025）, 科研費助成事業（学研基金助成金）（分担：大島一郎）

工場内空き施設を利用した植物工場の事業化に関する指導（2023-2024）, 株式会社レゾナック・オプトエレクトロニクス鹿兒島, 受託事業, （代表：遠城道雄）

4 学会等活動

日本熱帯農業学会, 日本作物学会, 園芸学会, 日本農作業学会, 日本育種学会, 日本草地学会, 農業生産技術管理学会, 日本畜産学会, 日本暖地畜産学会, 日本家禽学会

5 遺伝資源の保存

農場は、わが国における温暖地, 亜熱帯, 熱帯植物及びトカラ馬, 口之島野生化牛などの希少動物の遺伝資源保存センターとしての機能を有する。各付帯施設で保有する遺伝資源は下記のとおりである。

1) 学内農事部

特記事項なし

2) 唐湊果樹園

唐湊果樹園では、第25表に示すように、落葉果樹11種類50品種・系統, 常緑果樹2種類134品種・系統, 熱帯・亜熱帯果樹4種類21品種・系統を保存している。

第25表 唐湊果樹園で保存している果樹遺伝資源リスト

樹種名	学名または組み合わせ	品種・系統名
落葉果樹		
モモ	<i>Prunus persica</i> Sieb.	ちよひめ

スモモ	<i>Prunus persica</i> Sieb.	ひめこなつ
	<i>Prunus persica</i> Sieb.	はなよめ
アズナギ	<i>Prunus</i> sp.	メスレー
	<i>Prunus</i> sp.	大石早生
	<i>Prunus</i> sp.	カラリ
ウメ	<i>Prunus armeniaca</i>	おひさまコット
	<i>Prunus armeniaca</i>	ニコニコット
ブドウ	<i>Prunus mume</i> Sieb.	南高
	<i>Prunus mume</i> Sieb.	鶯宿
	<i>Prunus mume</i> Sieb.	露茜
	<i>Prunus mume</i> Sieb.	竜峡小梅
カキ	<i>Vitis</i> sp.	キャンベル アーリー
	<i>Vitis</i> sp.	翠峰
	<i>Vitis</i> sp.	シャイン マスカット
	<i>Vitis</i> sp.	サンヴェルデ
ブルーベリー	<i>Diospyrus kaki</i> L.	平核無
	<i>Diospyrus kaki</i> L.	富有
	<i>Diospyrus kaki</i> L.	次郎
	<i>Diospyrus kaki</i> L.	禪寺丸
	<i>Diospyrus kaki</i> L.	太秋
	<i>Diospyrus kaki</i> L.	新秋
	<i>Diospyrus kaki</i> L.	西村早生
	<i>Diospyrus kaki</i> L.	ロウヤ柿
	<i>Diospyrus kaki</i> L.	常葉柿
	<i>Diospyrus kaki</i> L.	刀根早生
	<i>Diospyrus kaki</i> L.	大核無
	<i>Diospyrus kaki</i> L.	丹麗
クリ	<i>Vaccinium</i> sp.	ホームベル
	<i>Vaccinium</i> sp.	ウッダード
	<i>Vaccinium</i> sp.	ティフブルー
	<i>Vaccinium</i> sp.	クライマックス
	<i>Vaccinium</i> sp.	パールリバー
	<i>Vaccinium</i> sp.	オースチン
	<i>Vaccinium</i> sp.	ブライトウェル
	<i>Vaccinium</i> sp.	マグノリア
	<i>Vaccinium</i> sp.	ジャージー
	<i>Vaccinium</i> sp.	ブラッデン
	<i>Vaccinium</i> sp.	ジョージアジム
	<i>Vaccinium</i> sp.	オニール
	<i>Vaccinium</i> sp.	シャープブルー
	<i>Vaccinium</i> sp.	T100
クリ	<i>Castanea</i> Miller	筑波
	<i>Castanea</i> Miller	三原系
	<i>Castanea</i> Miller	丹沢

イチョウ (ギンナン)	<i>Castanea</i> Miller	ぼろたん
	<i>Ginkgo biloba</i> L.	藤九郎
	<i>Ginkgo biloba</i> L.	嶺南
	<i>Ginkgo biloba</i> L.	久寿
ザクロ	<i>Punica granatum</i> L.	在来系
クワ	<i>Morus</i> sp.	しだれぐわ
<hr/>		
常緑果樹		
ビワ	<i>Eriobotrya japonica</i> Lindley	茂木
	<i>Eriobotrya japonica</i> Lindley	長崎早生
	<i>Eriobotrya japonica</i> Lindley	なつたより
カンキツ	<i>Citrus macroptera</i> Mont.	カブヤオ
	<i>C. hystrix</i> DC.	ブルット
	<i>C. latipes</i> (Swing.) Tan.	カシーパペダ
	<i>C. aurantifolia</i> (Christm.) Swing.	メキシカンライム
	<i>C. limettioides</i> Tan.	スイートライム
	<i>C. bergamia</i> Risso et Poit.	ベルガモット
	<i>C. latifolia</i>	タヒチライム
	<i>C. Montana</i> Tan.	ビロロ
	<i>C. excelsa</i> Wester	レモンリアル
	<i>C. medica</i> L.	ブッシュカン
	<i>C. medica</i> L.	マルブッシュカン
	<i>C. limon</i> (L.) Burm. f.	アレンユーレカ
	<i>C. limon</i>	ビアフランカ
	<i>C. limon</i>	イエローベル
	<i>C. limon</i>	璃の香
	<i>C. limetta</i> Risso	スイートレモン
	<i>C. balotina</i> Poit. et Turp.	バロチンベルガモット
	<i>C. grandis</i> (L.) Osb.	安政柑
	<i>C. grandis</i> (L.) Osb.	晩王柑
	<i>C. grandis</i> (L.) Osb.	チャンドラー
	<i>C. grandis</i> (L.) Osb.	はやさき
	<i>C. grandis</i> (L.) Osb.	紅まどか
	<i>C. grandis</i> (L.) Osb.	水晶文旦
	<i>C. grandis</i> (L.) Osb.	晩白柚
	<i>C. grandis</i> (L.) Osb.	麻豆紅柚
	<i>C. grandis</i> (L.) Osb.	土佐文旦
	<i>C. grandis</i> (L.) Osb.	大橘
	<i>C. pseudogulul</i> Hort. ex Shirai	ジャガタラユ
	<i>C. paradise</i> Macf.	マーシュ シードレス
	<i>C. paradise</i> Macf.	オロブランコ
	<i>C. paradise</i> Macf.	ルビー
	<i>C. hassaku</i> Hort. ex Tan.	農間紅ハッサク
	<i>C. medioglobosa</i> Hort. ex Tan.	ナルト
	<i>C. natsudaikai</i> Hayata	川野なつだいだい
	<i>C. natsudaikai</i> Hayata	紅甘夏
	<i>C. ampullaceal</i> Hort. ex Tan.	ヒョウカン

<i>C. yamabuki</i> Hort. ex Y. Tanaka	ヤマブキ
<i>C. kawachiensis</i> Hort. ex Y. Tanaka	カワチバンカン
<i>C. aurantium</i> L.	カブス
<i>C. aurantium</i> L.	回青橙
<i>C. aurantium</i> L.	斑入りダイダイ
<i>C. myrtifolia</i> Rafin.	キノット
<i>C. rokugatsu</i> Hort. ex Y. Tanaka	ロクガツミカン
<i>C. canaliculata</i> Hort. ex Y. Tanaka	キクダイダイ
<i>C. sinensis</i> (L.) Osb.	ハムリン
<i>C. sinensis</i> (L.) Osb.	トロビタ
<i>C. sinensis</i> (L.) Osb.	オリンダ バレンシア
<i>C. sinensis</i> (L.) Osb.	タロッコ
<i>C. sinensis</i> (L.) Osb.	モロ
<i>C. sinensis</i> (L.) Osb.	ピラリマ
<i>C. tankan</i> Hayata	垂水1号
<i>C. tankan</i>	名護紅早生
<i>C. iyo</i> Hort. ex Tanaka	宮内伊予柑
清家ネーブル × クレメンティン	ありあけ
宮川早生 × トロビタオレンジ	清見
交雑親不詳のタンゴール	マーコット
<i>C. tamurana</i> Hort. ex Tanaka	ヒュウガナツ
<i>C. tamurana</i> Hort. ex Tanaka	オレンジ日向
<i>C. aurea</i> Hort. ex Tan.	カワバタミカン
<i>C. ichangensis</i> Swing.	イーチャングエンシス
<i>C. junos</i> Sieb. ex Tan.	山根
<i>C. junos</i> Sieb. ex Tan.	ユズ
<i>C. junos</i> Sieb. ex Tan.	木頭ユズ
<i>C. hanaju</i> Hort. ex Shirai	ハナユ
<i>C. sudachi</i> Hort. ex Shirai	スダチ
<i>C. sudachi</i>	元寇
<i>C. spaerocarpa</i> Hort. ex Tan.	カボス
学名不明	平兵衛酢
<i>C. nobilis</i> Lour.	クネンボ
<i>C. nobilis</i> Lour.	トークニン
<i>C. unshiu</i> Marc.	原木(4代目)
<i>C. unshiu</i> Marc.	青島温州
<i>C. unshiu</i> Marc.	寿太郎温州
<i>C. unshiu</i> Marc.	白川温州
<i>C. unshiu</i> Marc.	十万温州
<i>C. unshiu</i> Marc.	石地温州
<i>C. unshiu</i> Marc.	大津4号
<i>C. unshiu</i> Marc.	興津早生
<i>C. unshiu</i> Marc.	宮川早生
<i>C. unshiu</i> Marc.	かごしま早生
<i>C. keraji</i> Hort. ex Tan.	ケラジ
<i>C. keraji</i> var. Kabuchii Hort. ex Tanaka	喜界ミカン
<i>C. keraji</i> var. Kabuchii Hort. ex Tanaka	ナツクニン
<i>C. oto</i> Hort. ex Y. Tanaka	オートー
<i>C. reticulata</i> Blanco	吉田ボンカン
<i>C. reticulata</i> Blanco	薩州
<i>C. deliciosa</i> Ten.	地中海マンダリン

	<i>C. genshokan</i> Hort. ex Tan.	ゲンショウカン
	<i>C. genshokan</i> Hort. ex Tan.	ウスカワ
	<i>C. tangerina</i> Hort. ex Tan	大紅ミカン
	<i>C. clementina</i> Hort. ex Tan.	クレメンティン
	<i>C. tachibana</i> (Mak.) Tan.	タチバナ
	<i>C. kinokuni</i> Hort. ex Tan.	キノクニ
	<i>C. sunki</i> Hort. ex Tan.	スンキ
	<i>C. reshni</i> Hort. ex Tan.	クレオパトラ
	<i>C. depressa</i> Hayata	シイクワシャー
	<i>C. depressa</i> Hayata	シークニン (甘)
	<i>C. depressa</i> Hayata	シークニン (辛)
	<i>C. leiocarpa</i> Hort. ex Tan.	コウジ
	<i>C. flavicarpus</i> Hort. ex Tanaka	キミカン
	<i>C. sp.</i>	コズ
	<i>C. sp.</i>	島みかん (黒島)
	キング×地中海マンダリン	アンコール
	クレメンティン×ダンシータンゼリン	フォーチュン
	小西早生×フェアチャイルド	サガマンダリン
	キング×ウンシュウミカン	カーラ
	三保早生×クレメンティン	南香
	今村温州×中野3号ボンカン	早香
	クレメンティン×オーランド	ノバ
	ミネオラ×クレメンティン	ページ
	清見×中野3号ボンカン	陽香
	清見×中野3号ボンカン	不知火
	清見×ボンカンF-2432	はるみ
	清見×アンコール	あまか
	(清見×興津早生) ×ページ	天草
	(清見×アンコール) ×マーコット	せとか
	清見×興津早生	津之香
	上田温州×ハッサク	スイートスプリング
	ダンカングレープフルーツ×ダンシータンゼリン	ミネオラ
	津之望×育成系統 No.1408	みはや
	<i>C. madurensis</i> Lour.	シキキツ
	<i>C. sp.</i>	辺塚ダイダイ
	<i>C. sp.</i>	小林みかん
キンカン		
	<i>Fortunella hindsii</i> (Champ.) Swing.	キンズ
	<i>F. margarita</i> (Lour.) Swing.	ナガキンカン
	<i>F. japonica</i> (Thumb.) Swing.	マルキンカン
	<i>F. crassifolia</i> Swing.	ニンボウキンカン
	<i>F. obovata</i> Tan.	チョウジュキンカン
	<i>F. margarita</i> X <i>F. crassifolia</i>	ぶちまる
カラタチ		
	<i>Poncirus trifoliata</i> (L.) Raf.	ルビドー
	<i>Poncirus trifoliata</i> (L.) Raf.	ヒリュウ
熱帯・亜熱帯果樹		
パッションフルーツ		
	<i>Passiflora edulis</i> × <i>P. edulis</i> f. <i>flavicarpa</i>	サマークイーン
	<i>Passiflora edulis</i> × <i>P. edulis</i> f. <i>flavicarpa</i>	ルビースター
	<i>Passiflora edulis</i>	アマミノジャンボウ

アセロラ	<i>Malpighia emarginata</i> DC.	フロールブランカ
	<i>Malpighia emarginata</i> DC.	フロリダスイート
アボカド	<i>Persea americana</i> Mill	フエルテ
	<i>Persea americana</i> Mill	エッディンガー
	<i>Persea americana</i> Mill	ハス
	<i>Persea americana</i> Mill	グエン
	<i>Persea americana</i> Mill	リード
	<i>Persea americana</i> Mill	ベーコン
	<i>Persea americana</i> Mill	Lamb Has
	<i>Persea americana</i> Mill	ピンカートン
リュウガン	<i>Persea americana</i> Mill	ズダーノ
	<i>Euphoria longan</i> Stend	N93-6
	<i>Euphoria longan</i> Stend	カーラ
	<i>Euphoria longan</i> Stend	ハエウ
	<i>Euphoria longan</i> Stend	シーチョンプー
	<i>Euphoria longan</i> Stend	エワイ
	<i>Euphoria longan</i> Stend	ビオキウ
	<i>Euphoria longan</i> Stend	サキップ
	<i>Euphoria longan</i> Stend	タイウエン
	<i>Euphoria longan</i> Stend	フンカク

3) 指宿植物試験場

当场では1918年の設置以来、現在に至るまで、熱帯・亜熱帯植物の収集・保存を行い、教育研究に利用するとともに、地域への普及を行っている。これまで、マンゴー、パッションフルーツなどの熱帯果樹類や熱帯産ヤムイモなどが、南九州で特産化されている。

第26表 指宿植物試験場で保存している主な植物遺伝資源リスト

科 名	和 名	学 名	品 種
アオイ科	ピンポンノキ	<i>Sterculia nobilis</i> Sm.	マダムフランシス
	カカオ	<i>Theobroma cacao</i> Linn.	
アカテツ科	サボジラ	<i>Achras zapota</i> L.	白綿綿
	クダモノタマゴ	<i>Lucuma nervosa</i> A.D.C.	
	ミラクルベリー	<i>Synsepalum dulcificum</i> Daniell	
	アビウ	<i>Pouteria caimito</i> Radlk.	
	カニステル	<i>Pouteria campechiana</i> (H.B.K) Baehni	
		<i>Pouteria campechiana</i> (H.B.K) Baehni	
アカネ科	スイショウガキ	<i>Chrysophyllum cainito</i> Linn.	DAIYAR
	イクソラ・ダフイー	<i>Ixora duffii</i> T.Moore	
	コーヒーノキ	<i>Coffea</i> spp.	
イネ科	レモングラス	<i>Cymbopogon citratus</i> (DC.) Stapf	
	スズコナリヒラ	<i>Sinobambusa tootsik</i> Makino f. albostrata Muroi	
	ベチバー	<i>Vetiveria zizanioides</i> (L.) Roberty	
イイギリ科	ラブリーアップル	<i>Dovyalis abyssinica</i> Warb.	

イラクサ科	ペリオニア	<i>Pellionia</i> spp.	
	アサバソウ	<i>Pilea cadierei</i> Gagnep. et Guillaum.	
ウコギ科	ホンコンカボック	<i>Schefflera arboricola</i> (Hayata) Hayata ex Kaneh.	
ウラボシ科	コウモリラン	<i>Platyserium bifurcatum</i> (Cav.) C. Chr.	
ウルシ科	マンゴー	<i>Mangifera indica</i> L.	アーウィン
		<i>Mangifera indica</i> L.	リペンス
		<i>Mangifera indica</i> L.	タハール
		<i>Mangifera indica</i> L.	マダムフランシス
		<i>Mangifera indica</i> L.	ケント
		<i>Mangifera indica</i> L.	トルベット
		<i>Mangifera indica</i> L.	エドワード
		<i>Mangifera indica</i> L.	ケンジントンプライド
		<i>Mangifera indica</i> L.	ラッド
		<i>Mangifera indica</i> L.	バンダイク
		<i>Mangifera indica</i> L.	メラウィン
		<i>Mangifera indica</i> L.	ドット
		<i>Mangifera indica</i> L.	コム
		<i>Mangifera indica</i> L.	トミーアトキンス
		<i>Mangifera indica</i> L.	グレン
		<i>Mangifera indica</i> L.	バレンシアプライド
		<i>Mangifera indica</i> L.	マグジャミン
		<i>Mangifera indica</i> L.	スピリット オブ 76
		<i>Mangifera indica</i> L.	フロリゴン
		<i>Mangifera indica</i> L.	フロリジェン
		<i>Mangifera indica</i> L.	ラボザ
		<i>Mangifera indica</i> L.	リリー
		<i>Mangifera indica</i> L.	ランセティーラ
		<i>Mangifera indica</i> L.	ゴウベイヤ
		<i>Mangifera indica</i> L.	ST マウイ
		<i>Mangifera indica</i> L.	ニールキラン
		<i>Mangifera indica</i> L.	ハッチャー
		<i>Mangifera indica</i> L.	ジレイト
		<i>Mangifera indica</i> L.	R2E2
		<i>Mangifera indica</i> L.	ホワイトビリー
		<i>Mangifera indica</i> L.	ナムドクマイ
		<i>Mangifera indica</i> L.	ルビー
		<i>Mangifera indica</i> L.	レイト
		<i>Mangifera indica</i> L.	ベリーーズマルベル
		<i>Mangifera indica</i> L.	スプリングフェルス
		<i>Mangifera indica</i> L.	ゴールデンリペンス
		<i>Mangifera indica</i> L.	ジル
		<i>Mangifera indica</i> L.	キーツ
		<i>Mangifera indica</i> L.	チョコナン
		<i>Mangifera indica</i> L.	KEOJAE
		<i>Mangifera indica</i> L.	キョサワイ
		<i>Mangifera indica</i> L.	マハチャノク
		<i>Mangifera indica</i> L.	アルフォンソ

ルリハナガサ	<i>Eranthemum pulchellum</i> Andr.	
アトロプルプレウム	<i>Pseuderanthemum atropurpureum</i> (Bull)L. H. Bailey	
コダチヤハズカズラ	<i>Tunbergia erecta</i> (Benth.) T. Anderson	
ベンガルヤハズカズラ	<i>Tunbergia grandiflora</i> (Rosb. ex Rottl.) Rpxb.	
キョウチクトウ科		
アデニウム	<i>Adenium</i> spp.	
オオバナアリアケカズラ	<i>Allamanda cathartica</i> L.	
ヒメアリアケカズラ	<i>Allamanda neriifolia</i> Hook.	
セイヨウキョウチクトウ	<i>Nerium oleander</i> L.	
キバナキョウチクトウ	<i>Thevetia peruviana</i> (Pers.) K. Schum.	
インドソケイ	<i>Jasminum grandiflorum</i> Linn.	
プルメリア	<i>Plumeria</i>	
キントラノオ科		
アセロラ	<i>Malpigia glabra</i> L.	Hawaiian Sweet
	<i>Malpigia glabra</i> L.	Hawaiian Queen
	<i>Malpigia glabra</i> L.	Florida Sweet
	<i>Malpigia glabra</i> L.	Maunawilli
	<i>Malpigia glabra</i> L.	Rehnborg
	<i>Malpigia glabra</i> L.	Red Jumbo
	<i>Malpigia glabra</i> L.	Tropical Ruby
	<i>Malpigia glabra</i> L.	F.Haley
	<i>Malpigia</i> sp.	つる性
ヒイラギトラノオ	<i>Malpigia coccigera</i> L.	
アメイシア	<i>Bunchosia armeniaca</i> (Cav.) DC	
クスノキ科		
アボガド	<i>Persea americana</i> Milll.	メキシコーラ
	<i>Persea americana</i> Milll.	チョケテ
	<i>Persea americana</i> Milll.	サンミゲル
	<i>Persea americana</i> Milll.	シモンズ
	<i>Persea americana</i> Milll.	ラムハス
	<i>Persea americana</i> Milll.	カビラキイロ
	<i>Persea americana</i> Milll.	グエン
	<i>Persea americana</i> Milll.	ウィンターメキシカン
	<i>Persea americana</i> Milll.	グリーンゴールド
	<i>Persea americana</i> Milll.	ピンカートン
	<i>Persea americana</i> Milll.	ロレッタ
	<i>Persea americana</i> Milll.	マラマ
	<i>Persea americana</i> Milll.	ミゲル
	<i>Persea americana</i> Milll.	ヤマガタ
	<i>Persea americana</i> Milll.	カハルー
	<i>Persea americana</i> Milll.	ベーコン
	<i>Persea americana</i> Milll.	フェルテ
	<i>Persea americana</i> Milll.	エッティンガー
	<i>Persea americana</i> Milll.	ズタノ
	<i>Persea americana</i> Milll.	ホアンホセ
	<i>Persea americana</i> Milll.	フルヌマ
	<i>Persea americana</i> Milll.	セルバ
	<i>Persea americana</i> Milll.	黒金
	<i>Persea americana</i> Milll.	九五
	<i>Persea americana</i> Milll.	加林1號
	<i>Persea americana</i> Milll.	紫フェルテ

	<i>Persea americana</i> Milll.	ミヤサコ B
	<i>Persea americana</i> Milll.	ミヤサコ2号
クマツヅラ科		
ハリマツリ	<i>Duranta repens</i> L.	
ペトレア	<i>Petrea vollubilis</i> L.	
クロウメモドキ科		
インドナツメ	<i>Zizyphus mauritiana</i> Lam.	蜜ナツメ
	<i>Zizyphus mauritiana</i> Lam.	雪蜜
ナツメ	<i>Zizyphus jujuba</i> var. <i>inermis</i>	
クワ科		
カンテンイタビ	<i>Ficus awkeotsang</i> Makino	
インドゴムノキ	<i>Ficus elastica</i> Roxb. ex Hornem.	
カシワバゴム	<i>Ficus lyrata</i> Warb.	
ガジュマル	<i>Ficus microcarpa</i> L. f.	
オオイタビ	<i>Ficus pumila</i> L.	
アコウ	<i>Ficus superba</i> Miq. var. <i>japonica</i> Miq.	
パンノキ	<i>Artocarpus altilis</i> Fosb.	
フィカスウンベラータ	<i>Ficus umbellata</i> Vahl.	
ゴマノハグサ科		
ハナチョウジ	<i>Russelia equisetiformis</i> Schlechtend et Cham.	
サトイモ科		
ヒトスジグサ	<i>Aglaonema costatum</i> N. E. Br.	
アグラオネマ	<i>Aglaonema</i> spp.	
クワズイモ	<i>Alocasia odora</i> K.Koch	
オオベニウチワ	<i>Anthurium andreanum</i> Linden corr. Andre	
サトイモ	<i>Colocasia esculenta</i> (L.) Schott	
ジャイアントスワンブタロ	<i>Cyrtosperma chamissonis</i> (Schott) Merrill	
ホウライショウ	<i>Monstera deliciosa</i> Liebm.	
マドカズラ	<i>Monstera friedrichsthali</i> Schott	
スパティフィラム	<i>Spathiphyllum</i> spp.	
サボテン科		
ドラゴンフルーツ	<i>Hylocereus undatus</i> (Haworth) D.R.Hunt	
シクンシ科		
カカドゥブラム	<i>Terminalia ferdinandiana</i>	
シソ科		
クミスクチン	<i>Orthosiphon aristatus</i> (Blume) Miq.	
シノブ科		
タマシダ	<i>Nephrolepis cordifolia</i> (L.) K. Presl	
ショウガ科		
ゲットウ	<i>Alpinia zerumbet</i> (Pers.)B.L.Burtt et R.M.Sm.	
キフゲットウ	<i>Alpinia zerumbet</i> (Pers.)B.L.Burtt et R.M.Sm. 'Variegata'	
フクジンソウ	<i>Costus speciosus</i> (J.Konig) Sm.	
キョウオウ	<i>Curcuma aromatica</i> Salisb.	
ウコン	<i>Curcuma longa</i> L.	
ガジュツ	<i>Curcuma zedoaria</i> (Christm) Roscoe	
スイカズラ科		
ゴモジュ	<i>Viburnum suspensum</i> Lindl.	
センダン科		
ランサット	<i>Lansium domesticum</i> Jack.	
タコノキ科		
アダン	<i>Pandanus tectorius</i> Soland.ex Balf.f.	

タデ科	ハマベブドウ	<i>Coccoloba uvifera</i> (L.) L.	
ソテツ科	ナンヨウソテツ	<i>Cycas circinalis</i> L.	
	ソテツ	<i>Cycas revoluta</i> Thunb.	
ツツジ科	ケラマツヅジ	<i>Rhododendron scabrum</i> G. Don	
ツユクサ科	ムラサキオモト	<i>Rhoeo spathacea</i> (Swartz) Stearn	
トウダイグサ科	クロトン	<i>Codiaeum variegatum</i> (L.) Blume	
	ハナキリン	<i>Euphorbia milii</i> Desmoul. var. <i>splendens</i> (Bojer ex Hook.) Ursch et Leandri	
	アオサンゴ	<i>Euphorbia tirucalli</i> L.	
	ナンヨウザクラ	<i>Jatropha integerrima</i> Jacq.	
	サンゴアブラギリ	<i>Jatropha podagrica</i> Hook.	
	セッカギンリュウ	<i>Pedilanthus tithymalodes</i> (L.) Poit.	
	ククイナツツ	<i>Aleurites moluccana</i> Wild.	
	タンポイ	<i>Baccaurea macrocarpa</i> (Miq.) Müll. Arg.	
トケイソウ科	ムラサキクダモノトケイソウ	<i>Passiflora edulis</i> Sims.	
	パッションフルーツ	<i>P. edulis</i> × <i>P. edulis</i> f. <i>flavicarpa</i>	サマークイーン
		<i>P. edulis</i> × <i>P. edulis</i> f. <i>flavicarpa</i>	ルビースター
		<i>P. edulis</i> × <i>P. edulis</i> f. <i>flavicarpa</i>	アマミノジャンボウ
		<i>P. edulis</i> × <i>P. edulis</i> f. <i>flavicarpa</i>	博芳
		<i>P. edulis</i> × <i>P. edulis</i> f. <i>flavicarpa</i>	キングルビー
		<i>P. edulis</i> × <i>P. edulis</i> f. <i>flavicarpa</i>	南十字星
		<i>P. edulis</i> × <i>P. edulis</i> f. <i>flavicarpa</i>	八重山黄色
		<i>P. edulis</i> × <i>P. edulis</i> f. <i>flavicarpa</i>	台湾黄色
		<i>P. edulis</i> × <i>P. edulis</i> f. <i>flavicarpa</i>	石垣キング
		<i>P. edulis</i> × <i>P. edulis</i> f. <i>flavicarpa</i>	Ma dois
	マリフォルミス	<i>Passiflora maliformis</i> L.	
	ミズレモン	<i>Passiflora laurifolia</i> L.	2 n
		<i>Passiflora laurifolia</i> L.	4 n
ナス科	ニオイバンマツリ	<i>Brunfelsia australis</i> Benth.	
ナンヨウスギ科	シマナンヨウスギ	<i>Araucaria heterophylla</i> (Salisb.) Franco	
ノウゼンカズラ科	ハリミノウゼン	<i>Clytostoma callistegioides</i> (Cham.) Bur.	
	ジャカラランダ	<i>Jacaranda</i> sp.	
	イペ	<i>Tabebuia</i> sp.	
	ソーセージノキ	<i>Kigelia Africana</i> (Lam.) Benth	
パイナップル科	パイナップル	<i>Ananas comosus</i> (Linn.) Merr.	
	チランジア	<i>Tillandsia</i> spp.	
	サルオガセモドキ	<i>Tillandsia usneoides</i> (L.) L.	
バショウ科	バナナ	<i>Musa</i> spp.	
	ニコライ	<i>Strelitzia niccolai</i> Regel et Korn.	
	ゴクラクチョウカ	<i>Strelitzia reginae</i> Ait.	
	ユンケア	<i>Strelitzia reginae</i> var. <i>junceae</i> (Ker-Gawl.) H. E. Moore	

パパイヤ科	パパイヤ	<i>Carica papaya</i> Linn.	
バラ科	ヒメシャリンバイ	<i>Raphiolepis umbellata</i> (Thunb.) Makino var. <i>integerrima</i> (Hook. et Rehd)	
パンヤ科	パキラ	<i>Pachira aquatica</i> Aubl.	
	トックリキワタ	<i>Chorisia speciosa</i> (A.St.-Hil., A. Juss. et Cambess.) Ravenna	
	ドリアン	<i>Durio zibethinus</i> Murr.	
	バオバブノキ	<i>Adansonia digitata</i> Linn.	
バンレイシ科	チェリモヤ	<i>Annona cherimola</i> Mill.	
	アテモヤ	<i>Annona atemoya</i> Hort.	
	イランイラン	<i>Cananga odorata</i> (Lam.) Hook.f. & Thomson	
ヒガンバナ科	クンシラン	<i>Clivia miniata</i> Regel	
	ハマオモト	<i>Crinum asiaticum</i> L. var. <i>japonicum</i> Bak.	
ヒユ科	アルテルナンテラ	<i>Alternanthera ficoidea</i> (L.) R.Br.ex Roem. Et Schult.	
フトモモ科	キンポウジュ	<i>Callistemon speciosus</i> (Sims) DC.	
	ユーカリノキ	<i>Eucalyptus</i> spp.	
	ピタンガ	<i>Eugenia michelii</i> Lam.	バーミリオン
		<i>Eugenia michelii</i> Lam.	ラバー
		<i>Eugenia michelii</i> Lam.	仁将
	フェイジョア	<i>Feijoa sellowiana</i> O. Berg.	
	メラレウカ	<i>Melaleuca</i> spp.	
	ギンバイカ	<i>Myrtus communis</i> L.	
	テリハバンジロウ	<i>Psidium cattleianum</i> Sab.	
	キミノバンジロウ	<i>Psidium cattleianum</i> Sab. var. <i>lucidum</i> hort.	
	グァバ	<i>Psidium guajava</i> L.	
	レンブ	<i>Syzygium samarangense</i> (Bl.) Merr. & L.M.perry	黒金剛
		<i>Syzygium samarangense</i> (Bl.) Merr. & L.M.perry	黒珍珠
		<i>Syzygium samarangense</i> (Bl.) Merr. & L.M.perry	香水
		<i>Syzygium samarangense</i> (Bl.) Merr. & L.M.perry	ジャワ
		<i>Syzygium samarangense</i> (Bl.) Merr. & L.M.perry	チトラ
		<i>Syzygium samarangense</i> (Bl.) Merr. & L.M.perry	天覇王
		<i>Syzygium samarangense</i> (Bl.) Merr. & L.M.perry	飛弾
	ミズレンブ	<i>Syzygium aqueum</i> Alston	
	フトモモ	<i>Syzygium jambos</i> (L.) Alston	
	ジャボチカバ	<i>Myracia couliflora</i> O.Berg	
	グルミチャマ	<i>Syzygium dombeyi</i> Skeels	
ベンケイソウ科	カゲツ	<i>Crassula portulacea</i> Lam.	
	カランコエ	<i>Kalanchoe blossfeldiana</i> Poelln.	
ホルトノキ科	ナンヨウザクラ	<i>Muntingia calabura</i> Linn.	
マメ科	ソウシジュ	<i>Acacia confusa</i> Merrill	
	ネムノキ	<i>Albizia julibrissin</i> Durazz.	
	バウヒニア	<i>Bauhinia</i> spp.	
	カリアンドラ	<i>Calliandra</i> spp.	

	コバノセンナ	<i>Cassia coluteoides</i> Collad.	
	ナンバンサイカチ	<i>Cassia fistula</i> L.	
	サングシトウ	<i>Erythrina ×bidwillii</i> Lindl.	
	アメリカデイコ	<i>Erythrina crista-galli</i> L.	
	マルバデイコ	<i>Erythrina crista-galli</i> L. 'Maruba-Deiko'	
	ヒスイカズラ	<i>Strongylodon macrobotrys</i> A. Gray	
	タマリンド	<i>Tamarindus indica</i> Linn.	
	モンキーフラワーツリー	<i>Phyllocarpus septentrionalis</i> Donn. Sm.	
ミカン科	シロサボテ	<i>Casimiroa edulis</i> La Llave and Lex.	EdgeHill
		<i>Casimiroa edulis</i> La Llave and Lex.	Rinchard
		<i>Casimiroa edulis</i> La Llave and Lex.	Fournoy
		<i>Casimiroa edulis</i> La Llave and Lex.	white
		<i>Casimiroa edulis</i> La Llave and Lex.	Yellow
		<i>Casimiroa edulis</i> La Llave and Lex.	Vista
		<i>Casimiroa edulis</i> La Llave and Lex.	Columbia
		<i>Casimiroa edulis</i> La Llave and Lex.	Malibu
		<i>Casimiroa edulis</i> La Llave and Lex.	MaxGolden
		<i>Casimiroa edulis</i> La Llave and Lex.	Fallbrook
		<i>Casimiroa edulis</i> La Llave and Lex.	Kagi
		<i>Casimiroa edulis</i> La Llave and Lex.	Ortega
		<i>Casimiroa edulis</i> La Llave and Lex.	Selck
		<i>Casimiroa edulis</i> La Llave and Lex.	Candy
		<i>Casimiroa edulis</i> La Llave and Lex.	Rixford
		<i>Casimiroa edulis</i> La Llave and Lex.	マーブル
		<i>Casimiroa edulis</i> La Llave and Lex.	ミシェル
		<i>Casimiroa edulis</i> La Llave and Lex.	ライニキコマーシャル
		<i>Casimiroa edulis</i> La Llave and Lex.	バーノン
		<i>Casimiroa edulis</i> La Llave and Lex.	スマザーズ
		<i>Casimiroa edulis</i> La Llave and Lex.	スーベル
		<i>Casimiroa edulis</i> La Llave and Lex.	パイク
		<i>Casimiroa edulis</i> La Llave and Lex.	スナイダー
		<i>Casimiroa edulis</i> La Llave and Lex.	クシオ
		<i>Casimiroa edulis</i> La Llave and Lex.	チェストナット
		<i>Casimiroa edulis</i> La Llave and Lex.	チャールズアーリー
		<i>Casimiroa edulis</i> La Llave and Lex.	ゴールドデングローブ
		<i>Casimiroa edulis</i> La Llave and Lex.	グエン
		<i>Casimiroa edulis</i> La Llave and Lex.	モルツビー
	フィンガーライム	<i>Citrus australasica</i> F. Muell.	Mia Rose
		<i>Citrus australasica</i> F. Muell.	Red Sparkling
		<i>Citrus australasica</i> F. Muell.	Coletto
		<i>Citrus australasica</i> F. Muell.	Emma
		<i>Citrus australasica</i> F. Muell.	Green Aistonevilla
		<i>Citrus australasica</i> F. Muell.	テイスティーグリーン
		<i>Citrus australasica</i> F. Muell.	リックスレッド
	ワンピ	<i>Clausena lansium</i> (Laur.) Skeels	
ミソハギ科	メキシコハナヤナギ	<i>Cuphea hyssopifolia</i> H. B. K.	
	ハナヤナギ	<i>Cuphea micropetala</i> H. B. K.	
ムクロジ科	リュウガン	<i>Euphoria longan</i> Lam.	潤蒂

	<i>Euphoria longan</i> Lam.	福眼
	<i>Euphoria longan</i> Lam.	粉珍
	<i>Euphoria longan</i> Lam.	粉殻
	<i>Euphoria longan</i> Lam.	菱角
	<i>Euphoria longan</i> Lam.	タイウエン
	<i>Euphoria longan</i> Lam.	サキップ
	<i>Euphoria longan</i> Lam.	itoh
	<i>Euphoria longan</i> Lam.	puanglay
	<i>Euphoria longan</i> Lam.	ponyai
	<i>Euphoria longan</i> Lam.	Daiamond river
	<i>Euphoria longan</i> Lam.	ローズレッド
	<i>Euphoria longan</i> Lam.	Thai koda
ライチ	<i>Litchi chinensis</i> Sonn.	玉荷包
	<i>Litchi chinensis</i> Sonn.	黒葉
	<i>Litchi chinensis</i> Sonn.	桂味
	<i>Litchi chinensis</i> Sonn.	糯米滋
	<i>Litchi chinensis</i> Sonn.	大丁香
	<i>Litchi chinensis</i> Sonn.	翠玉
	<i>Litchi chinensis</i> Sonn.	玫瑰紅
	<i>Litchi chinensis</i> Sonn.	皇帝
	<i>Litchi chinensis</i> Sonn.	小葉
	<i>Litchi chinensis</i> Sonn.	中葉
	<i>Litchi chinensis</i> Sonn.	篤姫
	<i>Litchi chinensis</i> Sonn.	佐多在来
	<i>Litchi chinensis</i> Sonn.	船乗り
	<i>Litchi chinensis</i> Sonn.	San poaw coew
	<i>Litchi chinensis</i> Sonn.	チャカパッド
	<i>Litchi chinensis</i> Sonn.	クエイメイピンク
	<i>Litchi chinensis</i> Sonn.	サラシエル
	<i>Litchi chinensis</i> Sonn.	クエイメイ
	<i>Litchi chinensis</i> Sonn.	アツヒメ
	<i>Litchi chinensis</i> Sonn.	三月紅
	<i>Nephelium lappaceum</i> Linn.	
ランブータン		
モクセイ科		
	<i>Fraxinus griffithii</i> C.B. Clarke	
	<i>Jasminum polyanthum</i> Franch.	
シマトネリコ		
ハゴロモジャスミン		
モクマオウ科		
	<i>Casuarina stricta</i> Ait.	
モクマオウ		
ヤシ科		
	<i>Aiphanes acanthophylla</i> (Mart.) Burret	
アカントフィラ		
	<i>Archontophoenix alexandrae</i> (F.J. Muell.) H. Wendl. et Drude	
ユスラヤシ		
	<i>Areca catechu</i> L.	
ビンロウジュ		
	<i>Arecastrum romanzoffianum</i> (Cham.) Becc.	
ジョオウヤシ		
	<i>Arenga pinnata</i> (Wurmb) Merrill	
サトウヤシ		
	<i>Arenga tremula</i> (Blanco) Becc. var. <i>engleri</i> (Becc.) Hatus.	
クロツグ		
	<i>Butia bonnetii</i> (Becc.) Becc.	
ボンネッティー		
	<i>Butia capitata</i> (Mart.) Becc.	
ブラジルヤシ		
	<i>Caryota mitis</i> Lour.	
クジャクヤシ		
	<i>Chamaerops humilis</i> L.	
チャボトウジュロ		
	<i>Chrysalidocarpus lutescens</i> H. Wendle.	
アレカヤシ		
	<i>Coccothrinax dussiana</i> L. H. Bailey	
デュシアナ		

ココヤシ	<i>Cocos nucifera</i> L.	
テーブルヤシ	<i>Collinia elegans</i> (Mart.) Liebm. ex Oerst.	
シロロウヤシ	<i>Copernicia alba</i> Morong	
ヒメショウジョウヤシ	<i>Cyrtostachys lakka</i> Becc.	
ベガニー	<i>Drymophloeus beguinii</i> (Burret) H. E. Moore	
ケンチャヤシ	<i>Howea belmoreana</i> (C.Moore et F.J. Muell.) Becc.	
ヒロハケンチャヤシ	<i>Howea forsteriana</i> (C.Moore et F.J. Muell.) Becc.	
マルハウチワヤシ	<i>Licuala grandis</i> H. Wendl.	
シナピロウ	<i>Livistona chinensis</i> (Jacq.) R.Br.ex Mart.	
ピロウヤシ	<i>Livistona chinensis</i> (Jacq.) R. Br. ex Mart. var. subglobosa(Hassk.)	
オガサワラピロウ	<i>Livistona chinensis</i> (Jacq.)R. Br. ex Mart var. boninensis Becc.	
トックリヤシ	<i>Mascarena lagenicaulis</i> L. H. Bailey	
トックリヤシモドキ	<i>Mascarena verschaffeltii</i> (H. Wendl.) L. H. Bailey	
ヴェデリアヌム	<i>Microcoelum weddellianum</i> (H.Wendl.) H. E. Moore	
ミツヤヤシ	<i>Neodypsis decaryi</i> Jumelle	
キリンヤシ	<i>Phoenicophorium borsigianum</i> (K. Koch) Stuntz	
カナリーヤシ	<i>Phoenix canariensis</i> hort. ex Chabaud	
ナツメヤシ	<i>Phoenix dactylifera</i> L.	
カブダチソテツジュロ	<i>Phoenix reclinata</i> Jacq.	
シンノウヤシ	<i>Phoenix roebelenii</i> O'Brien	
サトウナツメヤシ	<i>Phoenix sylvestris</i> (L.) Roxb.	
ヒメヤハズヤシ	<i>Ptychosperma elegans</i> (R.Br.) Blume	
シュロチクヤシ	<i>Ptychosperma macarthurii</i> (H. Wendl.) Nichols.	
カンノンチク	<i>Rhapis excelsa</i> (Thunb.) A. Henry	
シュロチク	<i>Rhapis humilis</i> Blume	
フロリダダイオウヤシ	<i>Roystonea elata</i> (Bartr.) F. Harper	
サバルヤシ	<i>Sabal</i> spp.	
ヤエヤマヤシ	<i>Satakentia liukiuensis</i> (Hatsu.) H. E. Moore	
コバナクマデヤシ	<i>Thrinax parviflora</i> Swartz	
マニラヤシ	<i>Veitchia merrillii</i> (Becc.) H. E. Moore	
ウイニン	<i>Veitchia vini</i> n H. E. Moore	
タケウマキリンヤシ	<i>Verschaffeltia splendida</i> H. Wendl.	
オキナヤシ	<i>Washingtonia filifera</i> (Linden ex Andre) H. Wendl.	
オキナヤシモドキ	<i>Washingtonia robusta</i> H. Wendl.	
ヤマノイモ科		
イエローギニアヤム	<i>Dioscorea cayenensis</i> Lam.	
トゲドコロ	<i>Dioscorea esculenta</i> (Lour) Burk.	
ダイジョ	<i>Disocorea alata</i> L.	
ヤマモガシ科		
マカダミア	<i>Macadamia integrifolia</i> Maiden et Betcher	クーパー
ステノカーパス	<i>Stenocarpus sinuatus</i> (Loudon) Endl.	
ヤマゴボウ科		
オンブー	<i>Phytolacca dioica</i> L.	
ユキノシタ科		
サラサウツギ	<i>Deutzia crenata</i> Sieb. et Zucc. f. plena (Maxim.) C.K. Schneid.	
ユリ科		
キダチアロエ	<i>Aloe arborescens</i> Mill.	
アロエ	<i>Aloe</i> spp.	
ハラン	<i>Aspidistra elatior</i> Blume	
オリズラン	<i>Chlorophytum comosum</i> (Thunb.) Jacques	
十二の巻	<i>Haworthia fasciata</i> (Willd.) Haw.	

ラン科	ソキアリス	<i>Ledebouria socialis</i> (Bak.) Jessop
	ホウサイラン	<i>Cymbidium sinense</i> (Andr.) Willd.
	オンシジューム	<i>Oncidium</i> spp.
	バニラ	<i>Vanilla planifolia</i> G.Jacks. <i>Vanilla albida</i> Blume <i>Vanilla pompona</i>
リュウゼツラン科	トックリラン	<i>Beaucarnea recurvate</i> Lem.
	リュウゼツラン	<i>Agave</i> spp.
	センネンボク	<i>Cordyline terminalis</i> (L.) Kunth
	センネンボク	<i>Cordyline terminalis</i> (L.) Kunth
	ベニフクリンセンネンボク	<i>Doracaena concinna</i> Kunth
	シロシマセンネンボク	<i>Doracaena deremensis</i> Engl.
	ギンヨウセンネンボク	<i>Doracaena sanderiana</i> hort. Sander ex M.T.Mast.
	レフレクサ	<i>Dracaena reflexa</i> Lam.
	ハーニー	<i>Sansevieria trifasciata</i> Prain ‘Hahnii’
	トラノオ	<i>Sansevieria trifasciata</i> Prain ‘Laurentii’
	ゴールドデンハーニー	<i>Sansevieria trifasciata</i> Prain ‘Golden Hahnii’
	シルバーハーニー	<i>Sansevieria trifasciata</i> Prain ‘Silver Hahnii’
ワサビノキ科		
	モリンガ	<i>Moringa oleifera</i> Lamarck

4) 入来牧場

・トカラ馬 (*Equus caballus*)

日本に現存する8種類の在来馬の一つで、1953年9月に鹿児島県の文化財として天然記念物に指定されている。トカラ馬は完全な野生化状態で導入されており、頭数維持は自然交配自然分娩によって行われている。平成27年3月に加えて、平成28年11月に馬伝染性貧血検査のため全頭採血を実施し、全頭頸部皮下に個体識別チップを埋め込んでいる。鹿児島大学附属農場入来牧場では、現在、推計18頭のトカラ馬を保有している。

・口之島野生化牛 (*Bos Taurus*)

日本に現存する2種類の在来牛の一つで、鹿児島県十島村に生息している。口之島野生化牛は絶滅の危機に瀕しているため、鹿児島大学において保護と増殖のための取り組みを行っている。近年では、令和元年に受精卵産子雌1頭、令和2年9月に受精卵産子雄1頭、令和4年7月に雄1頭を得ている。今後も慎重に飼養管理を行い、新たな産子の確保に努めていきたい。鹿児島大学農学部附属農場では、現在6頭を保有し、保護している。

V 地域社会への貢献

農場では、地域住民を対象とした市民農業講座を開催するとともに、農業技術研究会を立ち上げて、農場で開発した技術の移転を進めている。また、幼稚園児、小学生を対象とした食育に取り組み、さらに地域住民に施設を開放し、また農場実習の副産物を定期的に販売するなど、様々な形で市民との交流を図っている。

1 農業技術の啓発

1) 技術指導

対 象：株式会社レゾナック・オプトエレクトロニクス鹿児島

開催日：11月28日

内 容：イチゴ栽培指導

2) 市民公開講座

※本年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開催を見送った。

2 地域活動に対する支援

1) 放送大学

対 象：一般市民（名）

時 期：10月12日、11月5日、11月12日、11月19日、11月26日、12月3日

内 容：ミニゼミ

2) 畜産試験場新規試験研究候補課題の評価

対 象：鹿児島県農業開発総合センター畜産試験場

開催日：6月14日

内 容：畜産試験新規試験研究候補課題の指導・助言

3) さとうきび関係試験成績・設計検討会

対 象：鹿児島県糖業振興協会

開催日：7月19日

内 容：さとうきびの優良品種の選定・普及について、各島の生産力検定試験の成績検討等を行い優良品種の選定・普及に繋げるための指導・助言

4) さとうきび研究成果発表会

対 象：九州沖縄農業研究センター、鹿児島県農業開発総合センターほか

開催日：7月20日

内 容：さとうきびの優良品種の選定・普及について、各島の生産力検定試験の成績検討等を行い優良品種の選定・普及に繋げるための指導・助言

5) 第47回全高等学校総合文化祭

対 象：全国の高校生

開催日：7月30日

内 容：自然科学部門大会における巡検研修

6) 令和5年度「未来を拓くキャリア教育推進事業（中高生インターンシップ事業）」

対 象：鹿児島県中高生

時 期：8月1日～8月2日

場 所：入来牧場

内 容：経済団体等と連携・協力を強化した中で、中・高校生のためのインターンシップを全県的に実施し、自己の在り方・生き方を考え、将来の社会参画への意義を体験的に自覚させ、学習意欲の向上を図る

7) 野菜秋冬作試験成績・設計検討会

対 象：市町村，JA，県経済連，県園芸振興協議会ほか

開催日：8月4日

内 容：昨年度野菜秋冬作試験成績評価及び今年度野菜秋冬作試験設計について検討

8) 県単試験研究課題の評価

対 象：鹿児島県農業開発総合センター畜産試験場

開催日：8月18日

内 容：肉用牛改良研究所試験研究課題の評価

9) 出前授業

対 象：鹿児島県立川辺高等学校

開催日：8月25日

内 容：世界の食料生産事情

10) 道路災害防除（補助）環境調査業務委託に係る家畜行動等調査

対 象：一般財団法人 鹿児島県環境技術協会

開催日：10月6日

内 容：家畜行動等調査全般に関する指導・助言

11) 指宿商業高等学校

対 象：指宿商業高等学校

開催日：11月23日

内 容：指商デパート

12) 農業試験研究（野菜）課題評価会

対 象：鹿児島県農業開発総合センター野菜研究室研究員

開催日：11月28日

内 容：平成23年度以降の研究課題の評価

13) 鹿児島県立市来農芸高等学校視察研修

対 象：鹿児島県立市来農芸高等学校生

開催日：12月8日

内 容：専門学習への興味・関心を高め、将来について深く考える機会とする

14) 農業研修ゾーン試験成績検討会

対 象：都市農業センター農業研修ゾーン運営委員会

開催日：令和6年2月9日

内 容：都市農業センター農業研修ゾーンにおける実証試験等の計画および結果の検討について指導・助言

15) ふくおか県酪農業協同組合 久留米支所

対 象：ふくおか県酪農業協同組合員

開催日：令和6年3月5日

内 容：繁殖牛の飼養管理について視察研修

16) 広域河川改修環境調査委託に係る家畜行動等調査

対 象：一般財団法人 鹿児島県環境技術協会

開催日：3月11日

内 容：家畜行動等調査に関する指導・助言

17) 事業関連携砂防等騒音振動調査委託に係る家畜行動等調査

対 象：鹿児島県環境技術協会

開催日：3月28日

内 容：家畜行動等調査に関する指導・助言

3 食育と環境教育の取り組み

子供達の食の乱れの是正や自然への渴望を満たすために、技術職員を中心に下記のような食育の取り組みをしている。

1) お米ができるまで (学内農場農事部)

対象：鹿児島大学教育学部附属幼稚園 園児55名，教諭8名

時期：6月：どろんこ遊び，7月：田植え，8月：虫取り・イネの生育観察，9月：カカシ作り，10月：稲刈り

2) お芋ができるまで (学内農場農事部)

対象：めぐみ幼稚園 園児49名，教諭12名

時期：10月：芋ほり

対象：さつつん保育園 園児24名，保育士4名

時期：5月：苗植え，10月：芋ほり

3) 野菜ができるまで (学内農場農事部)

対象：さつつん保育園 園児27名，保育士5名

時期：6月：夏野菜の苗植え，8月：夏野菜収穫，10月：冬野菜の苗植え，12月：冬野菜収穫

4) ミカン狩り (唐湊果樹園)

対象：鹿児島大学教育学部附属幼稚園 園児35名，教諭5名

時期：11月：ミカン狩り

5) ウシとの触れ合い (入来牧場)

対象：オリーブキッズ薬師（放課後デイサービス） 児童：20名，引率6名

時期：12月：ウシとのふれあい

6) 入来牧場牛肉フェア

対象：地域住民及び鹿児島大学教職員

時期：11月6日～11月8日

内容：学部横断的食育の啓発，地域住民への入来牧場広報等を目的として，鹿児島大学生協と共同で喫茶イベント及び牛肉販売を行った。喫茶イベントでは鹿児島大学生協学生委員会のメンバーによるメニュー考案を行い，学生間での食育啓発気運の高まりを促進した。

7) 職場体験学習

・学内農場農事部

対象：中学生5名

時期：10月24日，25日

内容：職場体験学習を通して，農業の内容を知るとともに，働くことの意義・勤労の尊さや厳しさを実感する。
水稲，野菜，切り花の栽培管理を通して農業について知り，食への関心を高める。

・唐湊果樹園

対象：中学生4名

時期：10月24日，25日

内容：職場体験学習を通して，農業の内容を知るとともに，働くことの意義・勤労の尊さや厳しさを実感する。
また，果樹の収穫や敷草などの作業を通して農業について知り，食への関心を高める。

・指宿植物試験場

対象：高校生4名

時期：10月24日，25日

内容：勤労観や職業感の育成を図り，言葉遣いやマナー等の礼法，さらには仕事の厳しさや協調性の大切さを学ぶ

8) 花壇ボランティア

対象：地域住民及び鹿児島大学教職員

時期：4月～令和6年3月末まで

内容：農学部共通棟前の花壇において、植栽計画を1期から3期まで作成し、それぞれ7月、10月、2月に植え付けを行っている。各期について、播種、鉢上げ、定植の作業を市民ボランティアの方々と協力し行っている。定植した花の管理については市民ボランティアの方々が担い、花壇が常に美しく保たれている。この活動は大学の美化だけでなく、大学と市民との交流の場という役割を果たしている。

4 施設の公開

周辺住民の散策場所として、農場を常時開放するとともに、自治体や団体などが開催するイベントに対して、要請があれば積極的に施設の開放を行っている。

1) 農場へようこそ（学内農場農事部、唐湊果樹園）

対象：一般市民

時期：随時

内容：鹿児島市内に位置する学内農場農事部と唐湊果樹園は、農場見学、植物採集、写真撮影、散策など、都市に浮かぶオアシスとして市民の人気スポットである。農場としては、癒しの空間として農場を整備し、市民に開放するとともに、来場者に対して農場施設の役割を啓発する。

5 生産物の販売

例年、学生実習に伴って算出される農産物の有効利用を図る観点から、生産物の展示即売会を下記のような日程で開催していたが、新型コロナウイルス感染拡大予防のため販売を中止した。

1) 農場4施設合同の展示即売会 中止

2) 施設毎の定期販売会

対象：一般市民

時期：生産物を出荷できる日の昼休み時に開催

場所：学内農場販売所

内容：実習で生産した米、野菜、苗物、花卉、観葉植物、果物などを販売

(1) 唐湊果樹園 中止

対象：一般市民

時期：毎月、第1週と第3週の水曜日の昼休み時に開催

場所：唐湊果樹園

内容：実習で生産した果物を販売

(2) 指宿植物試験場 中止

対象：一般市民

時期：毎週月曜日の昼休み時に開催

場所：指宿植物試験場

内容：実習で生産した熱帯果実、観葉植物などを販売

3) インフォメーションセンターでの販売

対象：一般市民

時期：生産物を出荷できる日に実施

場所：インフォメーションセンター（郡元キャンパス鹿児島大学正門横）

内容：実習で生産した米、野菜、苗物、花卉、観葉植物、果物などを販売

4) 本学附属病院コンビニエンスストアでの販売

時期：随時

場所：本学附属病院内（桜ヶ丘キャンパス）

内容：実習で生産した米、野菜、花卉、果物など約60品目7,300点を販売した。

5) 鹿児島市立病院コンビニエンスストアでの販売

時期：随時

場所：鹿児島市立病院内

内容：実習で生産した米、野菜、花卉、果物など約15品目790点を販売した。

Ⅵ 業務事項

1 農場生産物の収入見込み額及び実績

農場では、常に最新の技術を取り入れ、生産効率が高く且つ、高品質な植物、動物の育成に努めることにより、教育実習の実を高めるとともに、副産物の価値を高める算段を行っている。

令和5年度における各施設の収入見込額と収入実績額は、第27表のとおりである。収入実績は各施設間で増減がみられるものの、農場全体としては当初の収入見込額を8,720,107円上回った。

第27表 令和5年度農場生産物の収入見込み額及び実績

施設	収入見込額 (円)	収入実績額 (円)	備考
学内農場農事部	2,000,000	2,579,088	
学内農場畜産部	0	0	
唐湊果樹園	5,300,000	4,359,568	
指宿植物試験場	1,300,000	1,662,058	
入来牧場	20,000,000	28,719,393	
研究室など	0	0	
合計	28,600,000	37,320,107	

2 施設ごとの生産概況及び収入実績

令和5年度における各施設の生産概況と収入実績の内訳は、下記のとおりである。

1) 学内農場農事部

(1) 生産概況

<作物・野菜部門>

学内農事部作物・野菜部門では例年同様、水稻、普通畑作物、露地野菜、施設野菜を栽培した。4号水田ではさつま黒もち、7・8号水田ではヒノヒカリの栽培を行った。また、2号圃場は作物生産学講座植物育種学研究室、先端科学研究推進センター遺伝子実験施設が保存するイネ遺伝資源の増殖・系統保存を兼ねた各種イネ品種の展示圃場として使用した。

1号圃場では景観作物のハイブリッドサンフラワーの栽培を行い、後作にタマネギの栽培を行った。3号圃場では自主栽培と今年度はさつつん保育園の収穫体験用の圃場を準備し管理を行い、後作にクリーニングクロップとしてイタリアンライグラスの栽培を行った。5号圃場は当初クロタラシアを予定していたが、害虫学研究室の要望でナスの試験栽培用として貸し出し、後作は小麦の栽培を行った。9号圃場は甘藷を栽培し、後作にえん麦の栽培を行った。10号圃場では飼料用のソルゴーを栽培し、後作としてハゼリソウ（景観作物）の栽培を行った。11号圃場は前作で大豆、後作で景観作物のハゼリソウの栽培を行った。12号圃場は前作で飼料用のデントコーンを栽培し、後作で根菜類・葉菜類・スナップエンドウの栽培を行った。

施設野菜は、温室でメロンの栽培及びイチゴの親株育苗を行った。

養液ハウスはパプリカやバターナッツ、高糖度トマトなどの栽培を行った。

連棟ビニールハウスでは、市場出荷用と自主栽培実習用の野菜苗の栽培を行った。

水稻：水稻の栽培状況を第28表に示した。栽培品種は、「ヒノヒカリ」・「さつま黒もち」（黒米）の2品種の栽培を行った。さつま黒もちは前年度選抜育成を行った早生化したさつま黒もちを自家採種したものを栽培した。

4号水田では黒米を栽培し、7・8号水田ではヒノヒカリの栽培を行った。すべて6月上旬に播種、6月下旬に本田へ移植した。7・8号水田は農場実習Ⅱで移植を行い、試験的に同一圃場内に慣行区（70株／坪）と疎植区（40株／坪）を設けた。その後、農場実習Ⅲにおいて、各区の収量調査を行った。また、7号水田は、附属幼稚園の田植え・稲刈り体験の区画（約3a）を設け、全6回（田植え・稲刈り・脱穀など）の体験プログラムを実施した。前年同様、スクミリングガイの食害対策として、4号水田及び7号水田で、冬季耕耘を実施した。農薬は7号水田では、有機JAS認証にも使用可能なスクミンベイト3を使用した。8号水田では、スクミノンを使用した。結果として、どの水田においても、スクミリングガイの食害はほとんどみられなかった。4号水田では、有機質肥料を使用し、有機栽培に向けての試みを行った。ヒノヒカリ・黒米共に出穂後は好天に恵まれ順調に生育していた。

第28表 水稻の栽培状況

圃場番号	面積(a)	品 種 名	5	6	7	8	9	10	11
			上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
2	15	遺伝資源保存展示	○	□				■	
4	18	黒 米		○	□			■	
7	27	ヒ ノ ヒ カ リ	○	□				■	
8	25	ヒ ノ ヒ カ リ		○	□			■	

○播種, □定植, ■収穫

<普通畑作物>

普通畑作物の栽培状況を第29表に示した。

甘藷：農場実習Ⅱの自主栽培の一環で「ベニハルカ」を栽培した。定植は、5月上旬に行った。定植後は天候に恵まれたが、活着が悪く補植を行った。その後の生育は順調で、基腐れ病の罹病株はみられなかった。収穫は10月上旬に行った。天候の影響か、収量は多く、規格外のイモも少なく、長期貯蔵期間中の腐敗を抑えるために、11月中に販売を終えることができた。年内の販売に心がけた。

小麦：昨年に引き続き小麦「ミナミノカオリ」の栽培を行った。播種は11月中・下旬に行った。昨年同様に防鳥対策を行い生育は順調である。

大豆：「フクユタカ」の栽培を行った。今回からシンジェンタ社製「クルーザー MAXX」の塗沫処理を施した種子を播種したため初期成育は問題なく生長したが、天候の影響で追播を2度行ったが生育が悪く、収穫は見込めないため9月中旬にクロタリヤを栽培することとした。

第29表 普通作物の栽培状況

圃場番号	面積(a)	作物名	品種名	月旬4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
				上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
1	13	景 観 作 物	サンマリノ		○				■						
3	15	イタリアンライグラス	ヤヨイワセ							○				■	■
5	8	コムギ	ミナミノカオリ		■						○				
9	15	カ ン シ ョ エ ン パ ク	ベニハルカ 乾草エンパク		○				■			○			■
10	8	飼料用作物 景 観 作 物	矮性ソルゴー ハゼリソウ		○		■					○			
11	14	ダ イ ズ マメ科緑肥 景 観 作 物	フクユタカ クロタリヤ ハゼリソウ					○		○		■			
12	15	飼 料 作 物	スノーデント		○			■							

○播種, □定植, ■収穫

<露地野菜>

露地野菜の栽培状況を第30表に示した。

根菜類：播種から収穫までのライフサイクルを観察させるために栽培している。ダイコン「雪の砦」、カブは「サラダティーナイタリアカブ」を9月下旬～1月中旬まで栽培した。高温の影響か規格外の収穫物が多く、ダイコンでは3割程度が廃棄となった。また、カブは栽培本数が多く、販売することができず、栽植本数を検討する必要がある。実習時の適期収穫とともに、大学病院や市立病院内のコンビニエンスストアでの販売に加え大学教職員向けの販売を随時行った。

葉菜類：根菜類と同じく、ライフサイクルの観察として、チンゲンサイ・サラダ水菜・ミックスレタス・タアサイ・ロマネスコ・茎ブロッコリーを栽培した。栽培期間の短い葉菜類は、播種から定植、収穫までを実習で行った。また「害虫防除」という実習を組み入れ、害虫の発生状況について調査を行った。殆どは実習内で収穫し学生が持ち帰り、残りはコンビニエンスストアや学内販売を随時行った。

マメ類：ニムラサラダスナップ（スナップエンドウ）を各々2mの区画を分け与え栽培した。収穫時には各自の収穫

重量から10aあたりの収量を計算し、その日の市場概況（福岡市場）に照らし収益を算出させた。

タマネギ：早生品種「貴錦」を栽培した。9月中旬と下旬にセルトレイに播種し、ヒートポンプによる冷房で発芽調整を行い、その後、育苗圃場で育苗を行った。11月上旬から下旬にかけて、農場実習で機械移植を行った。その後の生育は順調で、3月上旬から収穫を行った。SDG sの取り組みとして、生分解性マルチを使用し、無農薬栽培に取り組んだ。畝間は耕耘機で中耕し、雑草の発生を抑えた。好天にも恵まれ、栽培期間中、化学農薬を使用しなかった。

自主栽培：応用植物科学コース農場実習Ⅱにおいて、農事部圃場を利用して、学生個人が露地野菜数種を対象に自ら栽培計画を立て、栽培管理から収穫に至るまで、すべての過程を体験的に学ぶ、露地野菜栽培実習である。今年度は1号圃場で行い、一人あたり5m×4m=20㎡の圃場を提供し、各学生は2～4品目の希望する野菜を栽培管理し、必要な道具、資材はすべて貸し出した。

栽培品目は果菜類が主となり、トマト・ミニトマト・ナス・キュウリ・カボチャ・ピーマン・ズッキーニ・スイカ・メロンが栽培され、その他にエダマメ・スイートコーン・オクラ、コンパニオンプランツとしてバジルやネギ、マリーゴールドを栽培する学生も見られた。数年前から在来種のナス・ウリ類・トウガラシも併せて栽培し、市販品種と在来種との特性の違いについて学ばせている。管理方法も原則自由とし、その中で学生への参考事例を提供する目的から、事前に実習時に雨よけ栽培や立体栽培といった資材を多用する仕立て方などの紹介を行った。また、5月下旬から6月上旬に中間報告会として、栽培の目標、栽培品目、現在の管理状況、今後の管理予定を、それぞれ5分程度の発表を行った。本実習全体を総括すると、日々の作物管理（芽かき・誘引・収穫・除草など）の姿勢、生育途中での害虫や病気の発生に対する対処、栽培・管理法の創意工夫といった点で各個人での意識の差が大きく反映されたが、今回は主導的に動く学生がおり、積極的に声掛けを行い協力して管理作業を行っていた。自主栽培を担当して最も美しい圃場管理を行っている学生が多数いた。

第30表 露地野菜の栽培状況

				月旬4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
圃場番号	面積(a)	作物名	品種名	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
1	13	タマネギ	貴錦	■					○	---	---	---	---	---	■
3	15	自主栽培		□	---	---	■	---							
5	4	ナス		□	---	---	---	---							
12	15	水 菜	サラダ水菜							○	---	■			
		レ タ ス	ミックスレタス							○	---	■			
			フレアルージュ							○	---	■			
		中国野菜	タアサイ							○	---	■			
			チンゲンサイ							○	---	■			
		ロマネスコ	ミケランジェロ							□	---	■			
		ブロッコリー	ステイックセニョール							□	---	■			
		スナップエンドウ	ニムフィダスナップ							○	---	■			
		カ ブ	サラダチーナ							○	---	■			
		ダイコン	雪 の 碧							○	---	■			

○播種、□定植、●鉢上げ、■収穫

＜施設野菜＞

施設野菜の作付け状況について第31表に示した。

温室果菜類

メロン：作型の検討として、抑制栽培（9月定植-12月収穫）と促成栽培（2月定植-5月収穫）を試作した。抑制栽培では品種「アールスメイト秋冬Ⅰ」を約100株、促成栽培では品種「パンナ」を約50株栽培した。栽培は、親づる1本1果仕立ての立体栽培とし、収穫された果実糖度はBrix値12～16程度であった。

イチゴ：次年度の本格的な果実生産の準備として、品種「よつばし」、「紅ほっぺ」、「おいCベリー」、「さがほのか」、「とちおとめ」、「宝交早生」、「アルビオン」の苗を導入し試作を行った。果実や草姿の良否を判断し、次年度の生産果実として「よつばし」、「紅ほっぺ」、「さがほのか」、「とちおとめ」を選定した。

水耕栽培

パプリカ：品種「フルーピーレッドEX」、「フルーピーイエロー」、「セニョリータ」などを栽培した。

キュウリ：品種「フリーダム」を栽培した。生育は順調で、5月下旬～7月下旬にかけて収穫・販売を行った。

中玉トマト：品種「レッドオーレ」を栽培した。生育は順調で、6月下旬～7月中旬にかけて収穫・販売を行った。
カボチャ：品種「バターナッツ」を栽培した。初期生育に遅れはみられたものの、7月中旬に収穫し、約2ヵ月追熟し、販売を行った。

高糖度トマト：品種「CF 桃太郎ヨーク」を栽培した。塩類によるストレス処理を行い、Brix 値8程度の高糖度トマトを収穫した。

野菜苗：今年度は予算が厳しく昨年の余り種子を利用することとなった。野菜苗は次年度の農場実習Ⅱにおける自主栽培に利用される。1月中旬から3月上旬にかけてセルトレイ（72～128穴）に播種した。品目は中玉トマト（品種「レッドオーレ」）、ミニトマト（品種「アイコ」、「ピンキー」）、ナス（品種「黒陽」、「庄屋大長」）、ピーマン（品種「京鈴」）、パプリカ（品種「フルーピーレッド」「フルーピーイエロー」）、カボチャ（品種「えびす」、「ほっこり姫」）、キュウリ（品種「夏すずみ」）を栽培した。

第31表 施設野菜の施設別作付け状況

施設名称	面積(㎡)	作物名	品種名	月旬4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
				上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
1号温室 (200㎡)	各20	メロン イチゴ	アールスメイト秋冬1他		■			○●	□			■	○●	□	
			よつぼし他		■						□				●
単棟ビニールハウス (120㎡)	120	パプリカ	フルーピーレッドEX他	○-□		■	■	■							
		キュウリ	フリーダム	○-□		■	■								
		中玉トマト	レッドオーレ	○-□		■	■								
		カボチャ	バターナッツ	○-□		■									
		高糖度トマト	CF桃太郎ヨーク					○	□				■	■	
連棟ビニールハウス (275㎡)	275	トマト苗	レッドオーレ	■										○●	○●
		ミニトマト苗	アイコ	■										○●	○●
			ピンキー	■										○●	○●
		ナス苗	黒陽	■									○●	○●	○●
		ピーマン苗	京鈴	■									○●	○●	○●
		パプリカ苗	フルーピーイエロー	■									○●	○●	○●
			フルーピーレッド	■									○●	○●	○●
		カボチャ苗	えびす	■									○●	○●	○●
			ほっこり姫	■									○●	○●	○●
		キュウリ苗	夏すずみ	■											○●

○播種，□定植，●鉢上げ・採苗，■収穫・販売

<花卉部門>

花卉部門は切り花、鉢物（花苗）に関する栽培及び農場実習を行っている。本年度は切り花品目として、キクを2号温室、トルコギキョウを11号圃場内ハウス、ダリアを2号温室で栽培した。収穫した切り花は、学内販売、市場出荷、生花店への販売を行った。次期作に向けた土作りと土壌病害の防除を目的として、2号温室及び11号圃場内ハウスは、各品目の収穫終了後に、緑肥（クロタラリア）を栽培し、8月から9月までは米糠を施用した土壌還元消毒を行った。

キク：後期の実習では秋スプレーギク・輪ギク・寒小菊を栽培した。実習において挿し芽、定植、管理、収穫など

のポイントとなる作業を行った。害虫防除については、フェロモン剤や誘引粘着トラップによる防除、天敵放飼による防除、化学農薬防除を併用し、総合的防除に取り組んだ。収穫実習の日程に合わせて開花させるように日長管理（電照抑制）を行って栽培した。また、県育成品種を導入し、現在保有している品種の更新を計画的に進めている。

トルコギキョウ：市販品種（ボレロホワイト、渚、冬のマリア等）と観賞園芸学研究室と共同で作出したオリジナル品種群「奥玉洋（オーイヨウ）」の栽培を行った。昨年度定植した各品種は、3月から6月にかけて収穫を行った。本年度の栽培では、切り花用の栽培と「奥玉洋」の親系統を栽培し、「奥玉洋」の種子生産を行った。播種は、7月から9月にかけて順次行い、種子冷蔵処理、ヒートポンプによる冷房育苗を行った。定植、芽かき・整枝・摘蕾などの管理、収穫調整、交配採種などポイントとなる作業を実習にて行った。

ダリア：新たな切り花品目として、前々年度からダリアの試験栽培を行った。4品種の球根を導入し、そこから挿し芽による苗生産を行い、10月定植の作型で栽培を行った。収穫は1月から始まったが、仕立て方の検討や露芯花防止のための電照処理を行った。

花苗：農学部ボランティア花壇用の花苗として、7月定植用にセンニチコウやニチニチソウ等、10月定植用にハボタンやパンジー等、3月定植用にリビングストーンデージーやネモフィラ等の花苗の栽培を行った。また、販2月～3月にかけて、マリーゴールド、ペチュニアなどの花苗、バジルやイタリアンパセリなどのハーブ苗の栽培を行った。これらの花苗の播種や鉢上げ等の管理作業は主に集中実習プログラムの一環として行った。8号横南側の花壇では、景観美化のため、コスモス及びナノハナの作付けを行った。

第32表 花卉の施設別作付け状況

施設名称	栽培面積(m ²)	作物名	品種名	月旬4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
				上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
2号温室 (200 m ²)	200	キク ダリア	秋輪ギク					◇	□				■		
			秋スプレー						◇	□			■		
			寒小ギク						◇	□			■		
			ハミルトンジュニア		■				◇	□			■	◇	
			ミッチャン		■										□
			ティアラ		■										□
			ムーンワルツ		■										□
3号温室 (200 m ²)	200	センニチコウ	バディ		○	●	□								
		ニチニチソウ	タイタン		○	●	□								
		コリウス	ウィザード		○	●	□								
		ペチュニア	ロウライダー		○	●	□								
		ハボタン	つぐみ					○	●	□		■			
		パンジー	パオ、フリスズル					○	●	□		■			
		ビオラ	ペニー					○	●	□		■			
		アリッサム	クリスタルパブルシェード					○	●	□		■			
		ストック	ベイビー					○	●	□		■			
		バーベナ	クオーツ								⊖	●		□	
		キンギョソウ	スナップショット								⊖	●		□	
		リビングストーンデージー	オブセッション								⊖	●		□	
		ネモフィラ	インシグニスブルー								⊖	●		□	
		マリーゴールド	ローライダー他										○	●	
		ハーブ類	ディスカバリー										○	●	
11号連棟ハウス	200	トルコギキョウ	奥玉洋	■	■		○	○	□	□	□				
			ボレロホワイト他	■	■		○	○	□	□	□				
花壇	8号南側 100	キク母株	秋輪ギク等			◇	□								
		コスモス	センセーション					○	□						
		ナノハナ	江月									○			

○播種、◇挿し芽、□定植・植え替え、●鉢上げ、▲交配、■収穫・販売

(2) 収入実績

実習教育で生産された農産物は、学内で販売あるいは出荷した。販売実績は以下のとおりである。

第33表 令和5年度学内農場農事部における収入実績

種 類	売り払い量	金額 (円)	備 考
水稲			
精白米	1,999.0 kg	699,000	
黒米 玄米	220.0 kg	262,500	

畑作				
イモ類	サツマイモ	903.0	kg	103,150
豆類	大豆	31.0	kg	9,300
	スナップエンドウ	60.9	kg	40,500
	根菜物	250.0	kg	24,300
根菜物	ダイコン	163.3	kg	8,900
	葉茎菜類	1,150.0	kg	156,650
果菜類	タマネギ	183.4	kg	161,900
	高糖度トマト	19.6	kg	9,700
	ミニトマト	112.3	kg	19,600
	キュウリ	34.3	kg	20,600
苗物	パプリカ	6,200	鉢	147,781
	野菜苗	2,453	鉢	78,910
	花苗	391	鉢	11,450
切り花	ハーブ苗	2,864	本	628,284
	トルコギキョウ	702	本	43,553
	キク	3	本	300
その他	ダリア	471.45	kg	132,550
	メロン、ロマネスコ等	17,648	粒	17,400
レジ袋	トルコギキョウ種子	156	枚	1,560
	箱	19	個	2,900
合 計				2,580,788

2) 唐湊果樹園

(1) 生産概況

本年の唐湊果樹園における降水量は2,449.5mmであり、日照時間は2098.7時間であった。また、九州南部の梅雨入りは5月30日頃と平年並みであった。カンキツの生産状況に関しては、前々年度から本年度にかけて温州ミカン及びポンカンの改植を行った影響により、改植前と比較して収穫量は減少した。柿の生産状況に関しては、収穫量が平年の2割程度と凶作であった。その他の果樹生産に関しては、例年通りであった。27年度から農学部において「地域連携ネットワークプロジェクト」が発足し、唐湊果樹園では湧水町のアーモンド植栽・栽培試験受託研究に協力することになり、第3圃場に、アーモンドを栽培している。

<露地栽培（常緑果樹）>

カンキツ類

病害虫防除は慣行防除に比べ少なく、適宜防除を行った。本年度も例年通り微生物農薬(バイオリサカミキリ)防除を実習に取り入れ、ゴマダラカミキリムシの防除を行った。バイオリサカミキリによる防除は、10年以上継続して行っており、カミキリムシによる被害は軽減している。唐湊果樹園では、ゴマダラカミキリムシが産卵の際、地上からカンキツの幹を登ることを想定して、本剤に接触するように高さ30cm付近に設置している。しかし、設置場所より低い地上部付近及び、150cmより高い位置においても産卵・食害が確認されているため、注視していく必要がある。カンキツ全般に関する実習として、微生物農薬を使用したゴマダラカミキリムシ防除、夏肥施用、秋肥施用、春肥施用、堆肥施用、摘果、早生温州収穫、普通温州収穫、中晩柑収穫、剪定、植え付けを実施した。

温州ミカン：極早生温州「かごしま早生」、早生温州「興津早生」、普通温州「青島温州」で隔年交互結実栽培を行っている。そうか病の発生が見られたことから、病斑の除去を7月上旬に行った。遊休樹の管理は、7月上旬から下旬にかけて全摘果、夏季剪定を行った。生産樹の仕上げ摘果は、極早生温州を7月下旬に、早生温州及び普通温州を8月中旬に行った。収穫は極早生温州を9月中旬から10月下旬、早生温州を10月下旬から12月上旬、普通温州を12月上中旬に行った。収穫量は極早生温州374kg、早生温州935kg、普通温州617kgであった。学生実習では、早生温州の収穫を11月上中旬に行い、普通温州の収穫を12月中旬に行った。また、「かごしま早生」の植え付けを2月下旬に行った。

ポンカン：第1圃場及び第2圃場で「薩州ポンカン」を栽培している。摘果は9月上旬に行った。収穫は12月中下旬に行い、収穫量は2,238kgであった。学生実習では12月下旬に収穫を行った。また、本年度、第2圃場に「吉田ポンカン」の植え付けを行った。

スイートスプリング：摘果は10月上旬に行った。収穫は11月中旬から2月上旬にかけて行い、収穫量は1,189kgであった。

不知火：摘果は11月上旬に行った。収穫は2月中旬から3月上旬にかけて行い、収穫量は575kgであった。

甘夏：第1圃場で、「紅甘夏」を栽培している。摘果は10月上旬に行った。また、収穫は2月中下旬に行い、収穫量は1,040kgであった。

大橘：摘果は、8月下旬に行った。また、収穫は1月下旬から3月中旬にかけて行い、収穫量は3,218kgであった。学生実習では、8月下旬に摘果を行い、2月中旬に収穫を行った。

タンカン：摘果は、9月中下旬に行った。収穫までの鳥害、寒害及び日焼け防止対策として、ネット状果実袋（サンテ）掛けを1月上旬から2月上旬にかけて行った。収穫は、1月中旬から2月中旬にかけて行い、収穫量は1,737kgであった。学生実習では、1月上旬から2月上旬にかけてサンテ掛けを行い、2月中旬に収穫を行った。

ビワ：「茂木」、「長崎早生」、「なつたより」を栽培し、袋かけ、剪定、誘引、施肥、病害虫・雑草防除等の管理は適期に行った。収穫は5月中下旬に行い、収穫量は105kgであった。また、学生実習では、剪定（副梢管理）を9月下旬に行い、摘蕾を11月上旬に行った。

<露地栽培（落葉果樹）>

ウメ：収穫は4月下旬から6月中旬にかけて行い、収穫量は209kgであった。剪定は1月中旬に行った。学生実習では、10月中旬に堆肥の施用を行った。

モモ、スモモ：モモは、「はなよめ」及び「さくひめ」で、生産を行っている。収穫は5月下旬から6月上旬にかけて行い、収穫量は280kgであった。スモモの収穫は6月上中旬に行い、収穫量は39kgであった。学生実習では、モモ及びスモモの堆肥施用を10月中旬に行った。

カキ：カキ栽培は学生実習において、落葉果樹部門の中心に位置づけられ、摘果、剪定、堆肥施用、収穫、脱渋、及び剪定の一連の管理を実習で行っている。しかし、本年度は凶作で、収穫は9月下旬から10月中旬にかけて行ったが、収穫量は233kgであった。

<施設栽培>

不知火：摘果は11月上旬に行い、収穫は2月下旬から3月上旬にかけて行った。

ブルーベリー：大鉢による養液土耕栽培を行っている。収穫は5月中旬から8月中旬にかけて行い、収穫量は81kgであった。

ブドウ：硬質プラスチックハウス内で、緑黄色ブドウ1品種の根域制限栽培を行っている。また、簡易屋根かけ式のブドウ棚では、緑黄色ブドウ2品種を栽培している。収穫は7月下旬から10月上旬にかけて行い、収穫量は824kgであった。

アセロラ：2005年より（株）ニチレイフーズと共同で、アセロラ数品種及び系統の比較栽培を行っている。

グレープフルーツ：根域制限地床栽培を行い、順調に生育している。

落葉果樹：落葉果樹パイプハウス内では、ブドウ苗を中心に管理している。

果樹苗：カンキツ、ビワ、ブルーベリーを中心に育成している。施肥、除草、病害虫防除の管理は適宜行った。学生実習ではカンキツ、ビワの接ぎ木、カンキツ苗の鉢替え、カラタチの鉢上げ、鉢替え、ブルーベリーの鉢上げ、鉢替え、挿し木を実施した。また、接ぎ木実習後の苗は学生が各自で管理し、経過観察を7月中旬まで行った。

第34表 果樹の栽培面積	単位：a		単位：a
露地栽培：		施設栽培：	
ウンシュウミカン	80	ビワ	2.4
ボンカン	18	不知火（2棟）	5
ブンタン	10	ブドウ（硬質ハウス）	2
タンカン	8	ブドウ（簡易ハウス）	5
不知火	8	ブルーベリー	6
スイートスプリング	8	グレープフルーツ	2
ハッサク・早香・津之香	10	アセロラ	0.7
その他カンキツ	30	果樹苗（4棟）	9
カキ	25	不知火・麗紅・あすみ	2.4
ビワ	8		
モモ	8		

スモモ	2
-----	---

(2) 収入実績

実習教育で生産された農産物は、学内で販売あるいは出荷した。販売実績は以下のとおりである。

第35表 令和5年度唐湊果樹園における収入実績

種 類	売り払い量	金額 (円)	備 考
果実類			
柑橘類 温州ミカン	1,328.7 Kg	398,050	極早生, 早生, 普通
ポンカン	1,606.0 kg	486,100	
タンカン	922.6 kg	274,920	
不知火	256.8 kg	90,400	
スイートスプリング	1,121.0 kg	188,500	
サワーボメロ	1,018.5 kg	140,848	
早香	796.0 kg	193,350	
その他 (柑橘類)	1,805.4 kg	399,450	花良治, 甘夏 等
その他 ブドウ	843.4 kg	1,677,900	
柿	195.0 kg	49,500	
ブルーベリー	73.8 kg	110,700	
桃	199.9 kg	134,350	
ビワ	104.7 kg	104,700	
その他果実	250.0 kg	102,800	梅・小梅 等
施設栽培			
ブルーベリー苗	8 鉢	8,000	
合 計		4,359,568	

3) 指宿植物試験場

(1) 生産概況

今年度は、施設栽培の熱帯果樹は順調に生育・生産を行うことが出来た。昨年人員不足のため規模を縮小した露地野菜は、人員不足はまだ解消されていないが一部の野菜については元の栽培面積に戻した。暖房に利用している温泉を、暖房だけではなく温泉水を利用した栽培ができないか、昨年度まで温泉水を利用した野菜の養液栽培を試験的に行っていたが、今年度は養液栽培を行わなかった。遺伝資源植物として保存・継代栽培を続けている。

<各種作物>

クミスクチン・グアバ特用作物：圃場で栽培を行っているクミスクチンは、コロナ禍により販売が困難なため面積を縮小して栽培を行った。収穫後乾燥させ4kgのクミスクチンを販売した。

グアバ葉は、学生実習でグアバ葉の収穫を行った。収穫後乾燥させ、2kgのグアバ葉を生産し販売した。樹の成長は順調なので来年度以降も収穫が見込めるのでグアバ葉の生産を進めていきたい。

ヤムイモ：今年度はセンチュウ害予防のエンバクの栽培は行わなかったが、3月に耕耘後、マルチングし、学生実習で4月下旬に定植し、収穫は11月下旬に行った。

露地野菜：当场では、今年度、ヤムイモ・ジャガイモ・サトイモ・セロリなどの野菜と指宿特産のオクラなどの栽培を行った。ジャガイモは湿害のため収穫量は減少したがその他の野菜については順調に生育し、本年度は、イモ類(254kg)・野菜(698kg)・オクラ(70kg)を出荷した。

養液栽培：今年度は泉水を利用した養液栽培を行わなかった。今後は栽培場所や品目の検討を行い、温泉水を利用した養液栽培を進めていきたい。

<熱帯果樹>

施設では、ビニールハウスにおいてマンゴーを200㎡、パッションフルーツ90㎡、ガラス温室において、ゴレンシを50㎡それぞれ栽培した。おおむね例年通りの生育状況であった。果樹苗として鉢を販売した。

施設マンゴー：昨年度新たにマンゴー栽培面積を増やした、生育は順調で、今年度の取量は昨年度より200kg近く多い約492kgとなった。

接木マンゴー苗の販売については、新型コロナの影響で展示即売会の中止や一般向けの販売が出来なかったため

出荷量は減少したが、学内販売と市場出荷で33鉢出荷した。

これまでに導入した品種は接木苗を生産して、苗として遺伝資源の保存をすることにしている。その中で果実生産を行えそうなものについては間伐し生産スペースを確保し今まで通りに生産していく。今後も優良品種や新しい品種に随時更新していく予定である。

施設パッションフルーツ：平成16年の10月より栽培を開始したパッションフルーツは、その他熱帯果樹の植栽面積を増やした結果、現在開始時の4分の1の栽培面積に縮小している。

果実の他に行燈仕立ての苗の生産を行ったが、今年度も新型コロナの影響で例年販売を行っていた展示即売会が中止になったため苗の販売は行わず果実生産で利用した。6～7月に収穫する夏実は、25kgを出荷した。

施設スターフルーツ：スターフルーツ（ゴレンシ）は果実が星型をしているところから、見た目の面白さで、珍重されている。蔬菜温室をゴレンシに特化し、今年度も夏季の高温対策として、液体遮光材を使用した温室内の気温の高温対策を実施した。

生育・収量ともに順調で、収穫した果実は今年度も学内販売と市場出荷を行った。ここ数年市場出荷を続け市場価格も安定し、収穫量の大半を市場出荷した。今年度の収量は約185kgとなり、そのうちの約135kgを市場出荷した。

露地グアバ：昨年新たに定植したグアバは順調に生育している。今後はグアバ葉収穫用として利用していく予定である。

露地ライチ：平成28年1月の大雪・寒波の被害から回復してきており、今後大雪・寒波の被害から少しでも軽減できるように株元に温泉の配管を設置し、冬場はライチの樹全体をビニールで覆うようにした。果実の収量は少ないが、取り木実習の教材として利用している。

アボカド：昨年度から品種保存のため鉢での栽培に切り替えた。

アセロラ：平成16年から、(株)ニチレイフーズと共同で、アセロラのブラジル育成品種登録、系統保存、基礎研究を行っている。現在は品種登録を終了し、約30系統の *Malpighia* 属植物を保存している。また、アセロラの主要害虫であるネコブセンチュウ抵抗性台木の探索や、抵抗性台木の交雑、アセロラの受粉特性について調査している。

熱帯果樹苗：学生実習で、熱帯果樹の接木・挿し木・取り木を行い、苗木生産を行い今年度は55鉢出荷した。

<観賞用植物>

当场では、多くの遺伝資源植物の保存を行っている。これらを原木として、実習において、取り木、挿し木、株分けなどの繁殖法を行うため、必然的に販売する植物の種類数も多くなっている。

大鉢の観葉植物の栽培をおさえて中小鉢の植物に重点を置いてきているが、生育はおおむね順調であった。

9割以上が、熱帯・亜熱帯を原産とする花木、観葉植物などの鉢物で今年度は350鉢出荷した。

<今後の検討課題>

遺伝資源植物として保存している植物数は、品種や系統も含めると約600種類である。これらは、鉢や露地植えて保存されており、面積ベースでは、温室の60%、ビニールハウスの50%、圃場の25%である。単純計算であるが、教職員はこれら遺伝資源植物の維持、管理に全体の作業の45%程度の時間を割いていることになる。一方で、遺伝資源植物からの収入は、全体の15%程度である。

遺伝資源植物の保存、評価、利用なども附属農場の重要役割のひとつであるが、教職員数と比較した場合の労力や予算的な面からもほぼ限界の状況である。とくに果樹類などは実生系など品種が明確でないものも多く、それらは、結実が見られないものも多い。地域農業への貢献のためにも、明確な品種と生産性の可能性がある熱帯・亜熱帯果樹類への切り替えを進めている。

マンゴー・ゴレンシの優良品種の導入を行い、果実の生産が出来る状態になってきたので、今後指宿の気候にあった品種の選定をしていく必要がある。

ヤマイモに関しては、保存系統数の増加による栽培面積の増大、連作による病害虫の発生が認められ、これらに対応するために作業労働時間が多くなりつつある。保存方法や系統数の見直しとともに、圃場のローテーションも検討する必要がある。

熱帯・亜熱帯果樹類は台風害だけでなく、冬季の寒害回避からの点からも施設での栽培が不可欠である。当场では、熱帯亜熱帯性作物類を中心とした実習教育充実のため、果樹類の増殖を行っているが、ビニールハウスでは、台風襲来時の被害が大きく、安定生産のためには、硬質プラスチックハウスへの切り替えなどを検討する必要がある。また、現在遺伝資源として保存している品種不詳の実生系統を優良品種へと更新することも課題である。

日本の熱帯果樹栽培は、暖地における特産品目として栽培面積が広がりつつある。しかしながら、認知度の低い果樹であることは否めない。そのため、病害虫防除のための適応農薬の種類は極端に少なく、その防除にはたいへん苦慮しており、今後検討が必要である。

(2) 収入実績

実習教育で生産された農産物は、学内で販売あるいは出荷した。販売実績は以下のとおりである。

第36表 令和5年度指宿植物試験場における収入実績

種 類		売り払い量	金額 (円)	備 考
畑作物				
野菜類	イモ類	サトイモ	67.0 kg	13,300
		ジャガイモ	187.0 kg	23,400
		セロリ	542.0 kg	53,723
		スイートコーン	124.0 kg	34,800
		ヤングコーン	32.0 kg	12,800
		サトイモ	67.0 kg	13,300
施設栽培				
果実	マンゴー	492.0 kg	969,930	
	スターフルーツ	185.0 kg	236,578	
	カカオ実	6 個	32,760	
	パッションフルーツ	25.0 kg	22,500	
	ジャボチカバ	16.0 kg	16,300	
	その他 果実		20,400	ライチ種・グァバ 等
果樹苗	マンゴー苗	33 鉢	73,790	
	ライチ苗	38 鉢	33,440	
	ミラクルフルーツ苗	10 鉢	10,032	
	その他	9 鉢	4,233	パナナ苗 等
観葉植物	ブルメリア	44 鉢	6,446	
	その他	131 鉢	10,426	ストレチア 等
特用作物	クスクミチン葉	4.0 kg	14,800	
	グァバ葉	2.0 kg	7,200	
合 計			1,610,158	

4) 入来牧場

(1) 生産概況

＜家畜飼養状況＞

牛（黒毛和種及び口之島野生化牛，ホルスタイン種）ならびに馬（トカラウマ）を飼養している。

黒毛和種は，令和2年度から放牧による子牛生産を行う繁殖経営に順次切り替える方向に転換することとした。経営形態を変更しても黒毛和種及び口之島野生化牛の飼養管理に関しては，昨年度に引き続き牛白血病対策を大原則としている。入来牧場の飼養頭数は，令和6年3月現在141頭となっている。

令和5年度は，人工授精と受精卵移植で繁殖を実施した。令和5年度は黒毛和種で死産が1頭発生したものの，出生頭数は黒毛和種産子が47頭，口之島野生化牛が0頭と合計で47頭の産子を得ている。これまで，牛白血病対策の一環として付き添い分娩を行ってきたが，牛白血病清浄化達成により，これまでの付き添い分娩から順次自然分娩へ移行している。自然分娩で得られた産子は，数日間母牛と同居させ初乳を得た後，分娩2～3日後には自動哺乳装置または手やりでの哺乳に切り替えている。離乳後，雌雄とも約9か月齢まで同様に育成し，この間の個体識別耳標の装着，除角，去勢などの管理作業を学生実習期間に合わせて実施している。

上述したように経営方針を従来の子牛生産肥育の一貫経営から子牛生産の繁殖経営に転換したことにより，令和5年度は34頭を約10ヵ月齢前後で子牛市場に出荷し，その他5頭の肥育牛を肥育出荷した。

子牛市場に出荷しなかった雌牛は，次代繁殖候補牛として順次群編成を行い，育成牛舎にて繁殖牛として自家保留している。繁殖牛管理では，牛白血病対策とともに次代優良血統への移行を進めている。また，子牛市場に出荷しなかった雌牛及び去勢雄牛数頭は学生実習で提示するための肥育牛として数頭残して肥育を行っている。肥育牛の鼻環装着，体重測定などの管理作業に関しても学生実習期間に合わせて実施した。

平成24年度からは，経産肥育牛の有効利用を目的とした入来牧場牛肉フェアを開始しており，今後，出荷牛の仕上がり具合に合わせた多様な出荷方法を模索していく予定である。

口之島野生化牛については，令和に入り，令和元年度，令和2年度及び令和4年度に各産子1頭が得られており，引き続き遺伝資源の保護を最優先とするため，繁殖障害及び健康状態に留意して飼養していく予定である。

トカラウマについては場内の野草地を中心に周年放牧を行い、繁殖のコントロールは行っていない。

＜草地生産状況＞

令和5年度の incoming 牧場の採草地における生産状況を第37表に示す。夏作にローズグラスとヒエを、冬作にイタリアンライグラスを栽培した。収穫した牧草については、すべてラッピングサイレージとした。野生鳥獣対策については、各草地周りに、シカ・イノシシ害対策として防獣ネット、ワイヤーメッシュ柵を設置し、その防除に取り組んでいる。ただ、ここ数年においては、野生鳥獣による盗食被害が一層増大している背景から、採草地の牧草収量確保のため、ネット柵から、より強固なワイヤーメッシュ柵への設置を順次進めているところである。

放牧地は、牛の放牧後の追肥及び追播を主とする管理を行った。特に、秋季の強雑草であるチカラシバやギシギシが繁茂する時期においては、牛の放牧やトカラウマの強放牧による地際までの除草を行った。また、栽培牧草については、イタリアンライグラスに加え、一部放牧地において、植生の改良・更新を目的に、多年生牧草（レッドトップ、ペレニアルライグラス、オーチャードグラス、シロクロバー）を混播作付するための土壌改良（施肥、堆肥散布）を行った。次年度以降も同様に、草地更新を順次行っていく予定である。また、採草地、放牧地とも、草地周りの防獣ネットや支柱、ワイヤーメッシュ柵などの補修を、主に冬季～春季にかけて随時行った。放牧地についても、採草地と同様、順次ワイヤーメッシュ柵への設置切替を検討しているところである。

第37表 令和5年度における生産状況

栽培牧草		面積 (ha)	播種量 (kg/10a)	播種期	追肥期	収穫期	サイロ収量 (120cm)	乾物収量 (t)
採草地 (暖地型)	ローズグラス	6.2	5～6	2022.8	-	2022.9-10	放牧地として使用	
	ヒエ	8.6	3～4	2023.6-7	2023.7-8	2022.9-10	68	
採草地 (寒地型)	イタリアンライグラス	13.2	3～4	2022.10-11	2023.3	2023.4-7	209	
放牧地	イタリアンライグラス	3.6	3～4	2023.3	-	-	-	

(2) 収入実績

実習教育で生産された農産物は、学内で販売あるいは出荷した。販売実績は以下のとおりである。

第38表 令和5年度 incoming 牧場における収入実績

種類	売り払い量	金額(円)	備考
家畜			
牛(枝肉)	5頭(2,351.5kg) 1頭当たり470.3kg	4,436,660	
牛(競り)	60頭	23,975,600	
畜産加工物			
牛肉精肉	220.7kg	198,585	
その他			
牛内臓		108,509	
牛皮		39	
合計		28,719,393	

3 農場を利用した研究用生産物の収入実績

農場は、学部教員の重要な研究場所であり、多くの研究が行われている。その結果、研究に使用された生産物の内、販売可能な生産物が農場の収入となっている。令和5年度における農場を利用した研究において生産された収入実績はなかった。

Ⅶ 資 料

1 鹿児島大学農学部附属農場規則

平成16年4月21日

農 規 則 第 8 号

第1章 総則

(趣旨)

第1条 鹿児島大学農学部附属農場（以下「農場」という。）の組織及び運営については、別に定めるもののほか、この規則の定めるところによる。

(目的)

第2条 農場は、フィールド農学に関する実習教育を担当するとともに、農学理論の総合化、実用化に関する試験研究及び地域貢献を行うものとする。

第2章 管理運営の業務

(施設)

第3条 農学部構内に農場本部を置くほか、次の位置に農場施設を置き、農場の業務を分掌する。

2 植物部門

- (1) 学内農場農事部 鹿児島市郡元一丁目21番24号（農学部構内）
- (2) 唐湊果樹園 鹿児島市唐湊三丁目32番1号
- (3) 指宿植物試験場 指宿市十町1291番地

3 動物部門

- (1) 入来牧場 薩摩川内市入来町浦之名字大谷4018番地の3
- (2) 学内農場畜産部 鹿児島市郡元一丁目21番24号（農学部構内）

4 農場業務の区分は、おおむね次のとおりとする。

- (1) 本部 企画調整、情報管理、労務管理、一般事務
- (2) 学内農場農事部 主として普通作、野菜・花卉園芸に関する事項
- (3) 唐湊果樹園 主として果樹園芸に関する事項
- (4) 指宿植物試験場 主として熱帯有用植物の導入順化、温暖地作物栽培及び泉熱利用園芸に関する事項
- (5) 入来牧場 主として畜産、飼料作物及び食品加工に関する事項
- (6) 学内農場畜産部 主として家畜の飼養管理に関する事項

(組織)

第4条 管理運営の組織は、次に掲げる者をもって組織する。

- (1) 農場長
- (2) 農場主事
- (3) 植物部門主任、動物部門主任
- (4) 技術総括、技術職員
- (5) 農場事務係長
- (6) その他の職員

(農場長等)

第5条 農場長の選考については、別に定めるところによる。

2 農場主事は、農場専任の教授、准教授又は講師のうちから鹿児島大学農学部教授会（以下「教授会」という。）の議を経て、学部長が命ずる。

3 前条第1項第3号の各主任（以下「主任」という。）は、農場教員のうちから教授会の議を経て、学部長が命ずる。

(職務)

第6条 農場長は、農場の業務を掌握し、第2条の規定による使命遂行の任に当たるとともに、農場の管理運営の全般を統括する。

2 農場主事は、農場長を補佐し、農場の業務を処理し、農場長に事故のあるときは、その職務を代行する。

3 主任は、農場長及び農場主事の指示に従い、担当部門の予算計画、予算執行、技術職員の資質向上及び施設運営全般を統括する。

- 4 技術総括は、主任の指示に従い、所属技術職員を統括し、業務の処理運営に当たる。
- 5 係長は、上司の命を受け、係の事務を処理する。

第3章 農場会議

(農場会議)

第7条 農場に、農場の管理運営並びに教育実習に関する事項を審議するため、農場会議を置く。

(委員)

第8条 農場会議は、次の委員をもって構成する。

- (1) 農場長
- (2) 農場主事
- (3) 植物部門主任、動物部門主任
- (4) 学部選定委員 7人
 - イ 農業生産科学科 5人（応用植物科学コース3名、畜産科学コース1名、食料農業経済学コース1名）
 - ロ 食料生命科学科 1人
 - ハ 農林環境科学科 1人
- (5) 総務課長（人事案件については除く。）

(審議事項)

第9条 農場会議は、次の事項を審議する。

- (1) 管理運営の基本方針に関すること。
- (2) 実習教育の基本方針に関すること。
- (3) 教員の人事に関すること。
- (4) 兼任教員の選考に関すること。
- (5) 予算及び決算に関すること。
- (6) 概算要求に関すること。
- (7) 学生の実習教育に関すること。
- (8) その他管理運営及び実習教育に関する重要事項

(委員長)

第10条 農場会議は、農場長が招集し、その議長となる。

- 2 農場長に事故があるときは、第6条第2項の規定にかかわらず、委員の互選により議長を選出する。

(議事)

第11条 農場会議は、委員の3分の2以上の出席をもって成立し、議事は出席委員の過半数をもって決する。ただし、可否同数の場合は、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第12条 農場会議は、必要があると認めた場合は、委員以外の教職員の出席を求めることができる。

(委員の任期)

第13条 第8条第4号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員を生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(幹事)

第14条 農場会議に幹事を置き、総務課長代理及び農場事務係長をもって充てる。

- 2 幹事は、農場会議の事務を処理する。

第4章 運営委員会

(運営委員会)

第15条 農場の管理運営の円滑を期するために、運営委員会を置く。

- 2 運営委員会は、次の者をもって構成し、農場長が召集する。

- (1) 農場長（委員長）
- (2) 農場主事
- (3) 植物部門主任、動物部門主任
- (4) 技術総括
- (5) 第17条による実習教育に携わる兼任教員の中から3名
- (6) 総務課長代理
- (7) 農場事務係長

- 3 運営委員会は、農場の管理運営に関する具体的な次の事項を協議し、議事要旨を農場会議に報告し、第9条に関する事項については承認を受けるものとする。
- (1) 農場の経営に関する事項
 - (2) 技術職員の人事に関する事項
 - (3) 予算及び決算に関する事項
 - (4) 学生の実習指導に関する事項
 - (5) 試験研究に関する事項
 - (6) 農場生産物に関する事項
 - (7) その他農場長が必要と認めた事項
- 4 農場長に事故があるときは、農場主事が代行する。
- 5 運営委員会は、委員の3分の2以上の出席をもって成立し、議事は出席委員の過半数をもって決する。ただし、可否同数の場合は、委員長が決するところによる。
- 6 第2項第5号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員を生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

第5章 雑則

(報告)

第16条 農場長は、農場の管理運営上特に重要な事項については、学部長に報告し、教授会の議を経なければならない。

(実習教育)

第17条 実習教育の内容等に関する事項は、別に定める。

(生産物)

第18条 農場生産物の取扱いについては、法令の定めるところによるほか、別に定める。

(施設等の利用)

第19条 学部講座が教育又は研究の必要上、農場施設の使用又は生産物を利用する場合は、あらかじめ農場長の承認を得なければならない。

附 則

この規則は、平成16年4月21日から施行し、平成16年4月1日から適用する。

附 則

この規則は、平成17年3月16日から施行し、平成16年10月12日から適用する。

附 則

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成20年7月16日から施行し、平成20年7月1日から適用する。

附 則

この規則は、平成23年4月20日から施行し、平成23年4月1日から適用する。

附 則

この規則は、平成24年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成28年4月1日から施行する。

2 鹿児島大学農学部附属農場における実習教育に関する要項

平成19年2月21日

教 授 会 制 定

(趣旨)

第1 この要項は、鹿児島大学農学部附属農場規則第17条に基づき、学生等の実習教育について必要な事項を定める。

(実習教育組織)

第2 学生などに対し、先進的・先導的なフィールド農学を実習教育するために、農場に実習教育組織を置く。

第3 実習教育に関する各施設の主たる役割分担並びに実習担当者は、次に掲げるものとする。

- (1) 農場主事
- (2) 学内農場農事部（分野の専任及び兼任教員，技術職員）
普通作物，野菜及び花卉の栽培管理
- (3) 唐湊果樹園（分野の専任及び兼任教員，技術職員）
果樹の栽培管理
- (4) 指宿植物試験場（分野の専任及び兼任教員，技術職員）
温暖地作物栽培及び泉熱利用園芸作物の栽培管理
- (5) 入来牧場（分野の専任及び兼任教員，技術職員）
家畜飼養，飼料作物の栽培，食品加工
- (6) 学内農場畜産部（分野の専任及び兼任教員）
家畜の飼養管理その他

（兼任教員の選出）

第4 兼任教員は，農場会議が必要に応じて学部の教員から選出し，学部長が委嘱する。

（教職員の役割）

第5 農場主事は，実習教育委員会の方針に基づき，農場実習全般を統括する。

2 植物部門及び動物部門専任教員は，農場実習を適正かつ円滑に進めるために，兼任教員及び技術職員と連携し，実習教育に関わる事項の連絡調整に当たる。

3 分野の専任教員及び兼任教員は，専門分野に応じた実習教育を主導する。

4 技術職員は，教員の指示に従い，実習教育に当たる。

（実習教育委員会）

第6 実習教育内容の高度化及び充実を期するために，実習教育委員会を置く。

2 実習教育委員会は，次の委員をもって構成する。

- (1) 農場長（委員長）
- (2) 農場主事
- (3) 農場専任教員
- (4) 兼任教員
- (5) 農場事務係長（幹事）

3 実習教育委員会は，次の事項について協議し，それらについては農場会議の承認事項とする。

- (1) 実習教育のあり方に関すること。
- (2) 実習教育プログラムの策定に関すること。
- (3) 農場実習改善経費の課題検討に関すること。
- (4) 兼任教員配置に関すること。
- (5) その他農場長が必要と認めた事項

4 農場主事は，農場専任教員，兼任教員及び技術職員を構成する植物部門及び動物部門小委員会を招集し，実習教育委員会の方針に基づいて，実習教育プログラムを策定する。

附 則

この要項は，平成19年4月1日から実施する。

附 則

この要項は，平成20年7月16日から実施し，平成20年7月1日から適用する。

附 則

この要項は，平成23年4月20日から実施し，平成23年4月1日から適用する。

附 則

この要項は，平成24年4月1日から実施する。

附 則

この要項は，平成28年4月1日から実施する。

3 気象表

第39表 唐湊果樹園（2023年1月～12月）

月	半旬	最高气温 (℃)	最低气温 (℃)	平均気温 (℃)	降水量 (mm)
1	1	13.0	0.9	7.0	0.0
1	2	14.8	3.2	9.0	1.5
1	3	18.6	10.0	14.3	63.5
1	4	12.6	3.0	7.8	0.5
1	5	10.6	0.7	5.7	10.0
1	6	9.8	-0.1	4.9	12.5
1月平均気温／降水量		13.2	3.0	8.1	88.0
2	1	15.5	4.8	10.2	0.0
2	2	15.3	8.0	11.7	73.0
2	3	16.0	6.1	11.1	64.5
2	4	16.5	5.1	10.8	3.0
2	5	13.6	5.6	9.6	14.5
2	6	16.2	2.6	9.4	0.0
2月平均気温／降水量		15.5	5.4	10.4	155.0
3	1	17.0	4.8	10.9	2.5
3	2	19.5	6.8	13.2	35.5
3	3	20.1	7.5	13.8	12.0
3	4	19.6	9.8	14.7	58.0
3	5	20.9	16.1	18.5	58.5
3	6	19.6	9.9	14.8	12.0
3月平均気温／降水量		19.5	9.2	14.3	178.5
4	1	23.1	14.7	18.9	20.0
4	2	19.7	9.1	14.4	75.5
4	3	22.6	11.2	16.9	66.0
4	4	24.3	12.6	18.5	0.5
4	5	22.6	13.7	18.2	21.5
4	6	22.0	11.7	16.9	29.0
4月平均気温／降水量		22.4	12.2	17.3	212.5
5	1	24.6	12.8	18.7	7.5
5	2	24.7	14.7	19.7	97.5
5	3	25.1	14.4	19.8	36.5
5	4	26.1	17.4	21.8	61.5
5	5	27.5	14.9	21.2	3.5
5	6	29.9	20.5	25.2	1.5
5月平均気温／降水量		26.3	15.8	21.1	208.0
6	1	28.1	18.4	23.3	67.0
6	2	23.7	18.5	21.1	312.5
6	3	27.0	20.7	23.9	58.0
6	4	27.2	18.8	23.0	29.0
6	5	27.5	21.0	24.3	15.5
6	6	31.2	24.1	27.7	52.0
6月平均気温／降水量		27.5	20.3	23.9	534.0

月	半旬	最高气温 (℃)	最低气温 (℃)	平均气温 (℃)	降水量 (mm)
7	1	28.0	24.0	26.0	336.0
7	2	32.3	25.9	29.1	17.0
7	3	32.5	25.1	28.8	48.0
7	4	33.5	25.3	29.4	17.5
7	5	32.8	24.8	28.8	5.5
7	6	34.0	25.5	29.8	16.0
7月平均气温／降水量		32.2	25.1	28.6	440.0
8	1	33.9	26.3	30.1	6.0
8	2	30.5	26.0	28.3	242.0
8	3	33.7	24.2	29.0	0.0
8	4	33.5	25.2	29.4	33.0
8	5	32.8	25.0	28.9	22.0
8	6	32.4	24.5	28.5	18.0
8月平均气温／降水量		32.8	25.2	29.0	321.0
9	1	33.1	24.3	28.7	0.0
9	2	33.2	23.2	28.2	1.0
9	3	32.8	24.0	28.4	3.0
9	4	32.6	24.2	28.4	33.5
9	5	31.2	23.8	27.5	5.0
9	6	32.4	21.7	27.1	0.0
9月平均气温／降水量		32.6	23.5	28.0	42.5
10	1	29.4	18.4	23.9	2.5
10	2	25.4	16.1	20.8	95.0
10	3	24.7	15.4	20.1	0.0
10	4	25.2	13.3	19.3	7.0
10	5	24.3	10.6	17.5	0.0
10	6	24.5	11.3	17.9	0.0
10月平均气温／降水量		25.6	14.2	19.9	104.5
11	1	26.5	12.9	19.7	0.0
11	2	23.6	14.6	19.1	32.5
11	3	18.3	8.0	13.2	0.0
11	4	17.1	7.6	12.4	36.5
11	5	20.0	7.9	14.0	0.0
11	6	17.9	8.8	13.4	0.5
11月平均气温／降水量		20.6	10.0	15.3	69.5
12	1	14.7	4.8	9.8	8.5
12	2	18.8	6.9	12.9	0.5
12	3	19.7	12.9	16.3	37.5
12	4	11.5	4.2	7.9	27.5
12	5	9.9	0.4	5.2	1.0
12	6	15.1	4.4	9.8	21.0
12月平均气温／降水量		15.0	5.6	10.3	96.0
年 平均气温／降水量		23.6	14.1	18.8	2449.5
年 極値		34.0	-0.1		336.0

指宿植物試験場の気象表について

指宿植物試験場では、平成22年から気象観測装置が経年劣化により故障したままとなっていた。更新には多額の費用がかかることや同試験場内には気象庁のアメダスが設置されていることから、今後はアメダスのデータを利用することとした。

鹿児島大学農学部
令和5年度農場年報
第19号

令和7年3月25日 発行日

編集兼発行 国立大学法人鹿児島大学農学部附属農場
〒890-0065 鹿児島市郡元一丁目21番24号
電話 (099)285-8771(代)

印 刷 斯文堂株式会社

鹿児島大学農学部附属農場

農場本部	〒890-0065	鹿児島市郡元一丁目21-24
学内農場農事部	〒890-0065	鹿児島市郡元一丁目21-24
学内農場畜産部	〒890-0065	鹿児島市郡元一丁目21-24
唐湊果樹園	〒890-0081	鹿児島市唐湊三丁目32-1
指宿植物試験場	〒891-0402	指宿市十町1291
入来牧場	〒895-1402	薩摩川内市入来町浦之名字大谷4018-3